大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY

入試・入学についてのお問い合わせ
入試課 Tel.06-6605-2141

その他のお問い合わせ
広報課 Tel.06-6605-3411

OFFICIAL SITE https://www.osaka-cu.ac.jp/ja

MOBAILE SITE https://daigakujc.jp/osaka-cu/

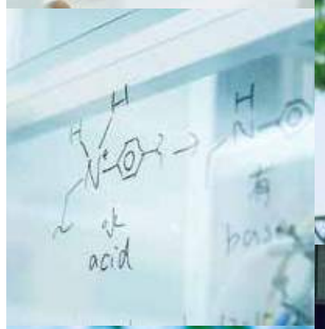
オープンキャンパス情報、資料請求方法、出願状況速報などの
各種情報をスマートフォン・携帯電話から閲覧できます。

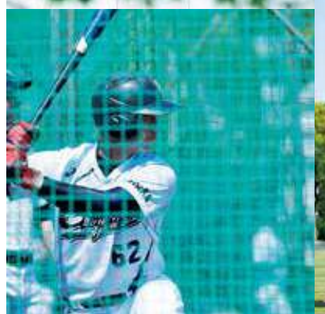
OSAKA CITY UNIVERSITY 2020

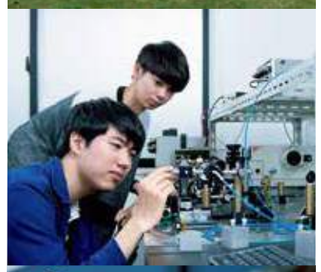
大阪市立大学

OCU
大阪市立大学 大学案内
2020

OSAKA CITY UNIVERSITY







つながろう。都市、世界、そして未来へ。

OCU VIEW

世界そして未来　へつながる学び

大阪の経済・産業・文化の発展とともに歩んできた大阪市立大学。
“都市とともに学ぶ”本学ならではの活動によって、
世界や日本社会のさらなる発展のために貢献し続けます。

【新たな公立大学モデルへの挑戦】
総合大学として社会に貢献

ACTION 1. 研究
異分野融合・先端研究で
持続可能な社会に貢献

ACTION 2. 教育
国際社会で活躍するための
グローバルな学びを展開

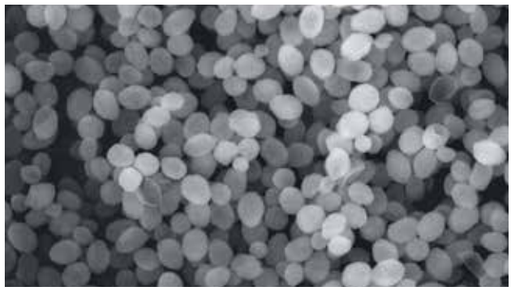
遺構になるべく傷を付けないよう、サウンディングと呼ばれるボーリング調査を実施。錐（キリ）を地中に突き刺し、豊臣時代の石垣や堀、地表面の位置、深さ（標高）の正確なデータを収集します。地層の硬さによって錐の進むスピードが変化し、その微妙な変化を読み取ることによって400年以上前の城郭の形の推測が可能に。国の特別史跡であるため、地道な作業を丁寧に行います。

1 パン酵母を用いて世界最高レベルの吸着力を誇る生物吸着材料を開発

研究

〈工学研究科 教授 東雅之、講師 尾島由紘〉

私たちの身の回りにあるさまざまな電気製品にも使われているレアアース。効率的な資源利用社会を実現するため、これまでにも都市鉱山に眠る金属の回収が試みられてきましたが、環境への負荷が大きいことが課題となっていました。東教授、尾島講師らの研究グループはパンの製造に用いられるパン酵母が金属を吸着しやすい表面構造を持つことに着目。パン酵母に食品添加物を混ぜてリン酸化させたところ、レアアースなどの高価な金属を選択的に吸着でき、かつ、世界最高レベルの吸着力を誇る生物吸着材の開発に成功しました。食品由来のため、安全・安価で環境への負荷が小さいことも特長です。開発した吸着材を活用することで、都市鉱山からのレアアース回収や水中に含まれる有害重金属の除去が期待されます。パン酵母が資源回収や環境浄化に役立つ日はそう遠くないかもしれません。



研究に用いた酵母 *Saccharomyces cerevisiae*の電子顕微鏡写真。大きさは5μmほどでラグビーボールのような形をしています。パン、日本酒、ワインなどの製造に使われています。

研究室では、環境浄化などに役立つ新たな微生物の育種や探索に取り組んでいます。学生の皆さんは、各自が見いだした有望な微生物を、試験管やフラスコ、時には発酵槽を用いて培養し、その細胞自身や細胞が作る物質を取得し、種々の分析機器を用いて解析を進めています。

2 400年以上前の城郭の復元に挑戦 最先端の地質調査で地下に眠る豊臣秀吉の大坂城を探る

研究

〈文学研究科 教授 仁木宏、理学研究科 教授 三田村宗樹など〉

現在、大阪のシンボルとして親しまれている大阪城は、徳川期の天守台の上に、昭和初期に再建されたもの。しかしその地下に、400年以上も前に豊臣秀吉が築いた大坂城の手がかりが眠っていることを知る人は少ないのではないでしょうか。その姿は、17世紀に筆写された絵図や部分的な発掘調査により明らかにされてきましたが、本学ではサウンディング調査などの先端的な方法でアプローチ。石垣や堀の位置を数10㎝以内の誤差で調査し、これまで不明とされてきた城郭の実態解明とその復元に挑んでいます。文献・絵図や考古学の文系の調査と、地質学などの理系の研究のコラボレーションにより、最終的には精緻な三次元復元を完成させたいと考えています。

※大坂城…近代以降は大「阪」城とするのが通例。

3 世界の常識を覆す大発見「鏡に映る自分」が分かる魚を初めて確認

研究

〈理学研究科 教授 幸田正典〉

―魚も鏡に映る姿を自分だと認識できる―。理学研究科 幸田教授らの研究グループは、魚類が鏡に映る姿が自分だと認識できることを世界で初めて報告。これまで鏡に映る姿が自分だと認識できる能力「鏡像自己認知」を有するのは、ヒト以外ではチンパンジーやイルカ、ゾウ、カラスなどの高度な社会生活を送る限られた動物のみとされていました。今回の研究では、高い認知機能を示す魚類の一種であるホンソメワケベラを対象に自身からは直接見えない場所に寄生虫に似せた印を付けたところ、鏡を見た後に印部分を頻繁に見るようになり、やがて水槽に体をこすりつけ、寄生虫を落とそうとする行動が見られたことから、魚もヒトと同じく鏡像自己認知ができると明らかになりました。この発見により、ヒトや霊長類だけでなく、他にも多くの動物が自己認知といった高度な認知機能を有する可能性が示唆されました。

▲海産魚のホンソメワケベラは他の魚の体表につく寄生虫を食べる「掃除魚」です。
▶右は鏡を見たばかりの個体で、鏡に映る自分の姿を他個体と認識し、攻撃しています。その後、数日で鏡像が自分だと認識できるようになります。

OCU VIEW
世界そして未来へつながる学び

4 海外の学生と議論し視野を広げるCOIL型授業
教育

経済学部の演習科目「イノベーティブ・ワークショップ」で、COIL型授業を導入しました。COIL（オンライン国際交流学習：Collaborative Online International Learning）とは、海外の大学生たちと連携し、共にプロジェクトに取り組む新しい学習方法です。情報通信技術（ICT）を用い、言葉の壁を越えてリアルタイムで意見交換をするのが特長。受講生は海外の学生から刺激を受けながら、世界に通用するレベルの学びに取り組んでいます。

グローバルな視点で他者と対話する力を養うことにより、既存の思考の枠組みでは気づけなかった、問題の本質を捉えることができるようになります。これは従来のアクティブラーニング型授業にはない、COILだからこそ身に付く力。こうしたスキルは大学の学習にとどまらず、社会においても役立つでしょう。COILの導入は、本学の全学的な教育プログラムでも進められています。

COIL型授業を担当する経済学研究科 中島義裕教授。経済学部では問題発見、解決能力を養うため、少人数でのグループワークやアクティブラーニングに力を入れています。自ら考えて課題を見つけ、調査を行い、解決策を見つける能力を養うプロセスには、他者との意見交換がとても重要という考えから、今回の教育プログラムを提案しました。

「英語が不十分であっても、資料や口ジックがしっかりしていればきちんと伝わる」「英語の重要性を改めて認識した」と学生たち。

調査や発表の内容も、相手が外国人というだけで大きく変わります。「外国の学生も同じ教科書を使って学んでいる」という気付きも、学びのモチベーションです。

COIL型授業では交流先の学生とお互いが対等な立場になり、真剣に社会問題について考える環境が生まれます。金銭的・時間的なハードルがある語学留学と比べ、より多くの学生に国際交流の機会があります。

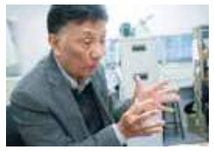
フィリピンのデラサール大学で開講されている開発経済学の授業とタイアップし、アメリカのアンドリュース大学と3大学からなるグループで交流しています。所得、教育、健康、移民（移住）、人口の5つの課題に応じて、共同で調査研究を行います。

5 酵母研究のプロフェッショナルが生み出す「王道の日本酒」を文系学生がプロモーション
教育

理学研究科の田中俊雄教授※と京都市産業技術研究所がおよそ10年前に「美味しい王道の日本酒」を目指して共同開発した酵母「京の華」を使用し、京都伏見の老舗蔵元「月の桂」にて醸造された大阪市立大学オリジナル純米吟醸酒「月の桂」を開発しました。

販売に伴うプロモーションは文学部「表現・表象文化論演習Ⅱ」（担当 菅原真弓教授）でアートマネジメントを学ぶ学生が中心となって企画。「自分たちと同世代の若者たちが手に取りやすいデザイン」をコンセプトにラベルやボトルを考案しました。販売戦略は経営学研究科の吉村典久教授が考案し、大阪市立大学の知を結集させたプロジェクトとなりました。

プロモーションの柱として企画したクラウドファンディングでは開始から24時間で600本の予約があり、中でも数量限定で制作した学章入りのオリジナル徳利とお猪口の酒器セットは開始後20時間で完売するなど、大きな反響を呼びました。 ※開発当時（現：名誉教授）



酵母開発に中心となって関わったのは、理学研究科の田中教授。

酒器はプロモーションを担当した学生が、大学内の工作技術センターにおいて一つずつ加工しました。

プロモーションや販売戦略は何度も議論を重ねて検討されました。

オリジナルのガラス製酒器セットは、クラウドファンディング開始後、20時間で完売しました。

発売開始1ヶ月で
1000本突破

支援者
507人

OCU ROOTS 沿革

大阪商業講習所
1880年(明治13年)

市立大阪商業学校
1889年(明治22年)

大阪商科大学高等商業部
1928年(昭和3年)

大阪商科大学(旧制)
1928年(昭和3年)

市立大阪工業学校
1907年(明治40年)

大阪市立都島工業専門学校
1945年(昭和20年)

大阪市立大学(新制)
1949年(昭和24年)

大阪市立西区高等実修女学校
1921年(大正10年)

大阪市立女子専門学校
1947年(昭和22年)

大阪市経済研究所
1928年(昭和3年)

大阪市立医学専門学校
1944年(昭和19年)

大阪市立医科大学(旧制)
1947年(昭和22年)

大阪市立医科大学(新制)
1952年(昭和27年)
※1955年(昭和30年)大阪市立大学へ

1880年 本学の源流「大阪商業講習所」創設

近代大阪経済の父・五代友厚らによって、創設されました。

1889年 伝統のボートレース大会

短艇競技を行う学校がなかった時代に「水上運動会」としてスタート。市民に愛される大阪の名物行事となりました。

1928年 日本初の市立大学「大阪商科大学」誕生

大学は都市とともにあり、都市は大学とともにある。

当時の大阪市長 關一が「大学は都市とともにあり、都市は大学とともにある。」をモットーに掲げ、大阪市民の期待を背景に日本で最初の市立大学が誕生しました。

第7代 大阪市長
せき　はじめ
關　一

1949年 新生「大阪市立大学」発足

新制大学制度のもと、公立大学としては唯一、総合大学にふさわしい規模を持つ大学として誕生しました。

大阪市立大学 初代学長
つねとう　きょう
恒藤　恭

世界に注目される研究で成果を上げた本学の教員や卒業生

彼らが残した功績は今も受け継がれています。

南部陽一郎 特別栄誉教授

山中伸弥 京都大学iPS細胞研究所所長

PHILOSOPHY 理念

［ 大学の普遍的使命－優れた人材の育成と真理の探究－の達成 ］

市民の誇りとなる大学

- 都市を学問創造の場としてとらえ、都市の諸問題に英知を結集して正面から取り組む。
- 教育及び研究の成果を都市と市民に還元し、地域社会及び国際社会の発展に寄与する。

市民に親しまれる大学

- 都市型総合大学として、都市・大阪の伝統と文化を継承する。
- 自由で創造的な教育と研究及び高水準の医療を推進する。
- 市民とともに、都市の文化、経済、産業、医療などの諸機能の向上を図り、真の豊かさの実現をめざす。

FEATURES 特長

相互に連携する都市型総合大学

- 8学部11研究科を擁し、都市の課題に総合力で対応

少人数教育

- 学生一人ひとりの個性を生かした教育

都市を学問創造の場ととらえる

- 理論と実際の有機的な連結を重視した教育・研究

大阪市立大学は日本最大規模の公立大学で、大阪市内に位置する唯一の総合大学です。1880年（明治13年）に開所された大阪商業講習所を源流とする我が国最初の市立の大学です。この源流は、「他利」（世のため人のためを優先する考え）をモットーとする国際派サムライであり、大阪の近代化を実現させた「近代大阪経済の父」といわれる五代友厚公のリーダーシップにより創られました。

前身の大阪商科大学の開学にあたり、当時の大阪市長 關一氏は、「都市・大阪を背景とした学問の創造」を目指す大学として「国立大学のコッピー（コピー）であってはならぬ」と述べました。この言葉は現在も本学の建学の精神として脈々と受け継がれています。

このような精神は、自由闊達な大学カラーとなり、多くの偉人を輩出しています。まず、本学の理論物理学のグループを立ち上げた南部陽一郎特別栄誉教授は、2008年（平成20年）に素粒子物理学の基礎となる「対称性の自発的破れ」の理論によりノーベル物理学賞を、医学研究科出身の山中伸弥京都大学iPS細胞研究所所長は、2012年（平成24年）にiPS細胞の研究によりノーベル生理学・医学賞を受賞されました。また、経済界でも大企業の創始者や上場企業の代表者、国際的に活躍する卒業生など数多く輩出しています。

ところで、日本の大学生は、世界一勉強しないという数字が出ています。なぜでしょう？ 受験生の皆さんは、大学に入学することが目的になっていませんか？ 社会は「どの大学を卒業したか」ではなく「大学で何を学び、何ができて何がしたいのか」を明確に示せる人材を求めています。「大学に入学する」意義は、そこで自分の人生の目的を見つけ決定づけることです。本学では、このための教育に力を注いでいます。基本的な能力として国際力とコミュニケーション力の2つが大事であると考え、教養教育、専門教育に加え、大阪の特長である「笑い」の科学、国際ビジネス演習やグローバル・プラクティカル・エコノミスト育成プログラムなどをそろえています。また、海外交流の推進、課外活動の支援を積極的に行っています。

本学で学ばれる皆さんには、この伝統の中で育まれた自由な学風の下で、良き師や友とコミュニケーションを深めながら、見つけた人生の目的への助走を始めてもらえれば嬉しいです。私がスローガンとして掲げている『笑顔あふれる知と健康のグローカル拠点』として、さらなる誇り高き大学、夢を実現できる大学を目指して一緒に成長していきましょう。

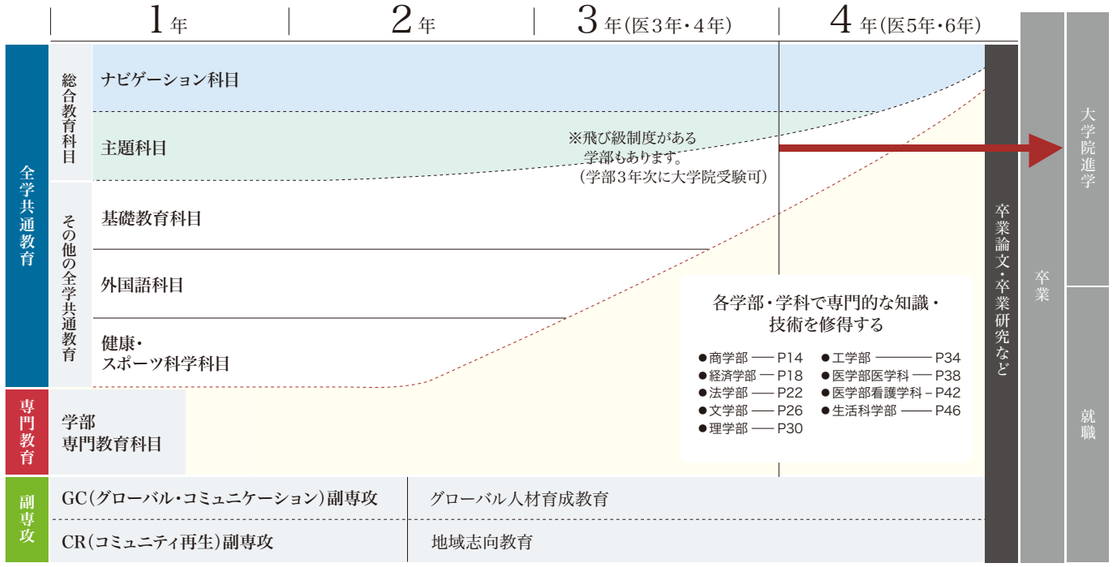
大阪市立大学長 荒川 哲男
（あらかわ　てつお）

OCU VIEW 2
沿革 6
学長あいさつ 7
大阪市大での学び 8
グローバルな視点の養成 10
学部インデックス 12
商学部 14
経済学部 18
法学部 22
文学部 26
理学部 30
工学部 34
医学部医学科 38
医学部看護学科 42
生活科学部 46
都市経営研究科／創造都市研究科 50
副専攻プログラム 52
教員研究テーマ一覧 53
キャンパスカレンダー 61
クラブ・サークル紹介 62
学生インタビュー 64
学生の一日 66
学生生活のサポート 67
進路・就職支援 68
進路状況 70
キャンパス紹介 74
アクセスマップ 80
入試情報 81

大阪市大での学び

都市型総合大学の強みを生かし、
幅広い知識・教養を身に付けられる科目群を設けています。

4年間の履修の流れ



◆ただし、医学部医学科・看護学科の学生はそれぞれのカリキュラムで全学共通科目の履修年次が別途定められています。　※本内容は2019年7月現在のもので、今後変更になる可能性があります。

ナビゲーション科目

学生一人ひとりが、大学において、あるいは市民として自分は何のために何をどのように学んでいくかを考える科目群。
大学・学問世界とはどのようなところかを知り、学問の歴史や未来への広がりと多様性に触れることを目的とします。

キャリア・学習デザイン科目 12科目

大学はどういうところかを知り、大学で学んでいくための姿勢とスキルの習得を図り、人生の目標や卒業後のキャリアパスを見据えながら大学での学びをデザインすることを促します。特に上回生向け科目では、職業世界や職業選択についてのより具体的な理解の向上も図ります。

リベラルアーツ科目 26科目

多様な学問分野に触れることによって、学部で学ぶ専門知識とは別に、自立した市民としての知性と教養を生涯にわたり涵養していくための基礎を築きます。

主題科目

現代的かつ普遍的テーマについて多様な側面から総合的に理解し、問題の解決方法を見出す能力を醸成する科目群。
各主題について多様な学問領域の科目を複数配置し学際性を高めます。

環境・都市と生命 24科目
- 環境と健康
- 地域実践演習
- 戦争と人間
- 現代の医療　など

人間と社会 46科目
- 日本国憲法
- 現代社会と健康
- ジェンダーと現代社会
- 教育と発達の心理学　など

歴史と文化 33科目
- 日本社会の歴史
- アーツマネジメント
- 英語で学ぶ日本事情
- 大阪落語への招待　など

自然と情報 16科目
- 科学と社会
- 植物の機能と人間社会
- 情報基礎
- プログラミング入門　など

PICK UP 全学共通教育

大 阪市大でどう学ぶか

大学とは何か、そこで学ぶ意義は何か、また自分がこれから学ぶ市大がどんな大学なのかを知り、そこで何をどう学び、どう人生をデザインし、どういう人間になり、そしてどのように社会に貢献していきたいかを考えていきます。

大 阪の知 – グローバル視野と最先端から見る大阪 –

大阪という地域にアイデンティティーを抱きながら世界で活躍できる人材の育成を目指し、本学教員だけではなく、国内外で広く活躍している卒業生や企業人にも授業を担当してもらいます。最先端の国際情勢、経済社会状況、テクノロジー、文化などについて知識を深め、大阪という地域をより深く理解し、グローバルな社会における生き方を考えていきます。

初 年次セミナー

1年生が大学で学ぶにあたって、まず身に付けておくのが望ましい、学び・考えるためのマナーを習得します。異なる学部の学生との議論等を通じて興味・関心の幅を広げたり、設定した課題・問題について学生自身が調査等を行ったりするなど、少人数のクラス編成でアクティブラーニングを行います。

その他の全学共通教育

基礎教育科目

数学、物理学、化学、生物学、
地球学、図形科学

外国語科目

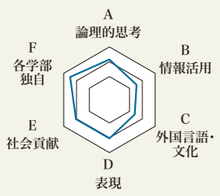
英語、ドイツ語、フランス語、中国語、
ロシア語、朝鮮語、日本語

健康・スポーツ科学科目

健康・スポーツ科学講義、
健康・スポーツ科学実習

OCU指標

学生の皆さん一人ひとりが、大学で何をどのように学んだのか(学修成果)を一覧できるように、本学ではOCU指標を開発しました。
総合大学ならではの多様な学びを視覚化できるように、学修成果を下表の6つの項目に分けて数値化し、六角形のレーダーチャートの形で表示します。



OCU指標における学修成果の項目

学修成果の項目	内容
A. 論理的思考	習得した専門知識を、論理的な思考と柔軟な発想によって応用することができる
B. 情報活用	多様な情報を収集・分析し、それを日々の生活の中で活用することができる
C. 外国言語・文化	外国の言語と文化を学習・習得し、世界のさまざまな国・地域の人々と意思疎通することができる
D. 表現	分析の結果を、言語や記号を用いて分かりやすく表現することができる
E. 社会貢献	グローバルな社会の一員であり、かつ地域社会の一員であることの自覚を持ち、自らの知識・技能を生かして、(他者と協調して)社会の発展のために寄与することができる
F. 各学部独自	各学部で設定されています

学修成果A～Eは全学部共通です。学修成果Fは、学部学科が提供する学位プログラムに応じて独自に設定されています。

OCU指標は、修得する科目(単位取得)が増えるごとに累積されます。毎学期のレーダーチャートの変化を見ることで、自分自身の学修成果の状況をその都度知ることができます。また、各自将来のキャリアを考えて、伸ばすべき学修成果の項目を決め、次にどの科目を履修するかを考える手助けになります。
OCU指標の六角形の形に正解や優劣はありません。所属する学部の特色や希望するキャリアによって、六角形は多様になります。
また各自のOCU指標を使った学修相談を、OCUラーニングセンター(P67参照)で受けることができます。

教職課程

本学は、これまで関西圏を中心とした高等学校、中学校に数多くの教員を輩出してきました。教職教養はもちろん、研究型大学として教科専門性を深く追求できる教員を養成しています。学生一人ひとりの教職関連科目の履修状況と学修状況を確認し面談を行う「教職履修カルテ面接」、教員採用選考前の「模擬面接対策」など、入学から教員として働くまでの間にきめ細やかなプログラムが用意されています。

グローバルな視点の養成

国際交流 ～グローバル人材を大阪市立大学から世界へ～

大阪市立大学では、海外160以上の大学や研究機関と学術交流協定を結び、国際交流事業を実施しています。
そのうち学生交流プログラムには、2週間から1カ月程度の短期プログラムや半年から1年間の長期プログラムがあり、
海外留学を支援するための奨学金（夢基金）も設けています。
異文化体験や語学研修を通じて、グローバル人材の育成を行っています。

自己を語り、相手を知る

～自立した言語使用者、自律した言語学修者の育成を目指した英語教育～

Freshman English (FE) **Sophomore English (SE)**

FEおよびSEでは、ヨーロッパ共通言語参照枠（CEFR）が基盤とする行動中心主義的言語観をもとに、学修者が独力、もしくは周りの人と協力しながら、大学生活において直面する課題をさまざまな言語活動を通して遂行する力、すなわち英語のコミュニケーション言語能力を養成、強化することを目指しています。習熟度別クラスで、高校までに身に付けた文法能力に加えて、TPOに応じて適切な言葉の使い方ができる社会的言語能力のほか、つながりやまとまりのある話ができる語用論的能力を効果的に高める授業が行われます。

1クラス約25～30名の少人数による習熟度別クラス

↓

1年次は英語母語話者、
2年次は日本語母語話者の教員が授業を担当

↓

意欲的に学びたい人のための自由選択科目
（Advanced English = AE）を開講

海外留学

～異文化体験・語学研修～

短期海外研修

春休みや夏休みなどの長期休暇を利用して行う海外研修プログラムです。
気軽に参加できるので、毎年多数の応募がある大人気プログラムです。

交換留学

在学中に半年～１年間留学する制度です。留学先で修得した単位を卒業要件単位として認定も可能で、卒業要件を満たした場合、留学年次によっては４年間での卒業も可能となります。

認定留学（JSAFプログラム）

米国を中心に世界の90以上の大学への、１学期～１学年間の学部留学プログラムです。留学期間が在学年数に加算され、取得単位の認定を受けることも可能です。

奨学金

大学独自の海外留学奨学金もあります。
詳しくは大学Webサイトをご覧ください。
https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/education/study_abroad/scholarship

ビクトリア、カナダ

シェフィールド、イギリス

バリ、インドネシア

自己を語り、相手を知る

Global Village（全学共通教育棟１階）では、海外留学をしたい人、外国人留学生や外国人研究者、その他国際交流に興味のある人が集まり、イベントの開催や情報交換をしています。海外留学を希望する人だけでなく、少しでも他国の文化や言葉に興味のある人、もちろん海外旅行が好き！という人もぜひGlobal Villageに来てみてください。楽しい発見がきっとあるはずです。

イベントレポートはこちら

English Café

Global Villageにある英語を自習するためのスペースです。5台のパソコンが設置されており、ALC NetAcademy2（自宅からの利用可）やVSS Playerで、リスニングやリーディングの練習、TOEIC対策テストにチャレンジできます。また英字新聞や雑誌などがあり、気軽に英語に触れることができます。

English Café Talk

English Café Talkでは、ネイティブ・スピーカーの先生と自由に話すことができます。英語コミュニケーションを楽しむチャンスです。

日時　毎週月曜日、水曜日
木曜日の週3日
17:10～18:10

国際交流イベント

本学は海外からの留学生や研究者を積極的に受け入れ、教育・研究の一層のグローバル化を目指しています。年２回の学生国際交流会やGlobal Villageでのイベントを通じて、一般学生と留学生が互いに交流し、理解を深めています。また、留学生対象の研修旅行では、留学生がさまざまな日本文化に触れる機会を設けています。

学生国際交流会

World Food Festival

外国人研究者による英語での講演「グローバル塾」

フィリピンDe La Salle大学訪問団

学生国際交流の場になる学長クッキング

学生交流会でバンブーダンスを実演

学部 INDEX

都市とともにある総合大学として、多彩な学びを展開する8学部・11研究科を擁する大阪市立大学。
恵まれた環境で「知の創造」を実現してください。

		学びの特色	取得可能な免許・資格 ※1	大学院（専攻・コース）	掲載ページ
商学部	●商学科 ●公共経営学科	「理論と実践の統合」を学風とし、経済を牽引する企業や種々の組織のさまざまな活動を通して、幅広く総合的な視点から経済や社会の動きを考察します。	［商学科］ ●中学校教諭一種免許状（社会） ●高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民、商業） ［公共経営学科］ ●高等学校教諭一種免許状（商業）	［経営学研究科］ グローバルビジネス専攻（前期博士課程／後期博士課程）	P.14
経済学部	●経済学科	経済学の各分野を幅広く提供します。そして、段階的な少人数のゼミナール教育によって、実践的な能力を養います。	［経済学科］ ●中学校教諭一種免許状（社会） ●高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民）	［経済学研究科］ 現代経済専攻 （前期博士課程（一般コース、修士専修コース）／後期博士課程）	P.18
法学部	●法学科	密度の高い少人数教育を学部の特色として掲げ、基礎法学、公法、私法、社会法、国際関係法・外国法、政治・行政学の6つの専門分野を幅広く学び、リーガル・マインドを身に付けます。	［法学科］ ●中学校教諭一種免許状（社会） ●高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民）	［法学研究科］ 法学政治学専攻（前期博士課程／後期博士課程） 法曹養成専攻（法科大学院）（専門職学位課程）	P.22
文学部	●哲学歴史学科 ●人間行動学科 ●言語文化学科 ●文化構想学科	4学科14コースを擁し、多彩な学びを実現できる「小さな総合大学」。少人数教育を通じて「人間学」を体得します。各教科の教員免許や学芸員資格の取得も可能です。	［各学科共通］ ●学芸員〈博物館学芸員資格〉 ［哲学歴史学科］［人間行動学科］ ●中学校教諭一種免許状（社会） ●高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民） ●公認心理師〈受験資格※2〉［心理学コースのみ］ ［言語文化学科］ ●中学校教諭一種免許状（国語、英語、中国語、ドイツ語、フランス語） ●高等学校教諭一種免許状（国語、英語、中国語、ドイツ語、フランス語）	［文学研究科］ 哲学歴史学専攻・人間行動学専攻・言語文化学専攻・ 文化構想学＊専攻（前期博士課程／後期博士課程） ＊2020年4月開設予定	P.26
理学部	●数学科 ●物理学科 ●化学科 ●生物学科 ●地球学科	理学の全分野をカバーする5学科から構成されており、少人数教育・実験・実習・卒業研究を重視し、自然現象の原理やしくみを体系的・実験的に学びます。	［数学科］ ●中学校教諭一種免許状（数学） ●高等学校教諭一種免許状（数学） ●測量士補〈資格登録可〉 ［物理学科］［化学科］［生物学科］ ●中学校教諭一種免許状（理科） ●高等学校教諭一種免許状（理科） ［地球学科］ ●中学校教諭一種免許状（理科） ●高等学校教諭一種免許状（理科） ●測量士補〈資格登録可〉	［理学研究科］ 数物系専攻・物質分子系専攻・ 生物地球系専攻（前期博士課程／後期博士課程）	P.30
工学部	●機械工学科 ●電子・物理工学科 ●電気情報工学科 ●化学バイオ工学科 ●建築学科 ●都市学科	さまざまな知識が必要な複合的な課題に対応できる人材の育成を目指した教育を行います。また、教員1人あたりの学生数が1学年2～3名と少ないのも特長です。	［各学科共通］ ●高等学校教諭一種免許状（工業） ●安全管理者〈就任〉（卒業後、所定の実務経験2年以上） ［化学バイオ工学科］ ●甲種危険物取扱者〈受験資格〉 ［建築学科］［都市学科］ ●1級建築士〈受験資格〉（卒業後、所定の実務経験2年以上） ●2級建築士〈受験資格〉 ［都市学科］ ●測量士（卒業後、所定の実務経験1年以上） ●測量士補〈資格登録可〉	［工学研究科］ 機械物理系専攻・電子情報系専攻・化学生物系専攻・ 都市系専攻（前期博士課程／後期博士課程）	P.34
医学部 医学科		「智・仁・勇」を基本理念に据えた専門教育が特色です。基礎・社会医学と臨床医学を体系的に学び、全人的な医療人を育成します。医学科では、附属病院など、最新の医療現場でも教育・研究を行います。	［医学科］ ●医師国家試験受験資格	［医学研究科］ （修士課程）医科学専攻 （博士課程）基礎医科学専攻・臨床医科学専攻	P.38
医学部 看護学科		生命の尊厳を基礎とした豊かな人間性を培い、変化する社会に対応できる総合的看護実践能力と、基礎的な指導・調整能力を備えた看護職者の育成を目指します。	［看護学科］ ●看護師国家試験受験資格 ●保健師国家試験受験資格（保健師教育課程の履修は学内選抜による定員制）	［看護学研究科］ 看護学専攻（前期博士課程／後期博士課程）	P.42
生活科学部	●食品栄養科学科 ●居住環境学科 ●人間福祉学科	人間の日常生活を科学的に思考・研究し、その成果を食と健康、生活空間の創造、人・地域・社会への個別支援と包括的アプローチによる幸福の向上の各分野で応用・実践できる人材の養成を目指します。	［食品栄養科学科］ ●栄養士〈免許〉 ●管理栄養士〈受験資格〉 ●栄養教諭一種免許状 ●食品衛生管理者〈任用資格〉 ●食品衛生監視員〈任用資格〉 ●中学校教諭一種免許状（家庭） ●高等学校教諭一種免許状（家庭） ［居住環境学科］ ●1級建築士〈受験資格〉（卒業後、所定の実務経験2年以上） ●2級建築士〈受験資格〉 ●インテリアプランナー〈登録資格〉（所定の試験に合格した者のみ） ●中学校教諭一種免許状（家庭） ●高等学校教諭一種免許状（家庭） ［人間福祉学科］ ●社会福祉主事〈任用資格〉 ●社会福祉士〈受験資格〉 ●公認心理師〈受験資格※2〉	［生活科学研究科］ 生活科学専攻（前期博士課程／後期博士課程） 食・健康科学コース／居住環境学コース／ 総合福祉科学コース／臨床心理学コース	P.46
都市経営研究科 創造都市研究科（募集停止）		「都市」が抱える諸問題に対し、理論的・実践的にその解決に取り組み、都市の活性化に貢献する人材を養成する社会人向け大学院です。		［都市経営研究科］ 都市経営専攻（博士前期[修士]課程） 都市政策・地域経済コース／都市行政コース／ 都市ビジネスコース／医療・福祉イノベーション経営コース 都市経営専攻（博士後期課程）	P.50

◆この他に、実務経験により、受験資格が得られる免許・資格があります。また、一部の免許・資格においては、学内選抜による定員制です。
※1：文部科学省における審査の結果、各学科において取得できる教員免許については、今後変更される場合があります。
※2：公認心理師資格取得には、学部卒業後、特定の実務を経験するか、特定の大学院を修了し、国家試験に合格する必要があります。

Faculty of Business

商学部

http://www.bus.osaka-cu.ac.jp/
06-6605-2201

現実を見据えて時流を見抜き、社会に貢献する人材へ。

学びの特長

1 日本の経営学・商学・会計学をリードする「考える実学」

経営学・商学・会計学の分野をリードしてきた、国内屈指の実績を有する商学部。「考える実学」を学風として、日本の企業活動や経済の在り方を理解し分析する力を養い、社会の第一線で活躍する人材を育成します。

2 2学科の連携した教育体制で専門科目を並行して学ぶ

1年次は基礎を固め、2年次後期から学科に所属。「商学科」と「公共経営学科」の2学科連携体制で専門科目を並行して学び、ビジネスの知識に加え社会性も同時に深めることが可能です。

商学科　公共経営学科

3 体系的なカリキュラムと自ら考える力を養う少人数教育

生きた企業活動を広い視野で学ぶため、基礎から専門へ体系的に学べるカリキュラムを編成。10人前後で行う専門ゼミナールをはじめとして、4年間を通じた少人数教育できめ細かな指導を行い、自ら考え発信する力を養います。

Student Voice 在学生の声

授業を通して主体性を身に付けることができます。

商学部では企業と提携した授業や海外研修、オープンキャンパスを企画運営する授業など、主体的な学びが多く、知識と実践力が身に付きます。人前で発表する機会もあり、考えを伝える力が養われました。将来はこれらを生かして、日本社会の成長に少しでも貢献していきたいです。

商学科 3年生 種村（たねむら） 和心（わしん）
奈良県立郡山高等学校卒業

Challenge of OCU 大阪市大の挑戦

地域と中小企業の発展

公共経営学科 本多 哲夫先生

本多ゼミでは地元の中小企業への訪問調査を積極的に行い、現場の生の声や実情に基づきながら地域の活性化について研究しています。大学内での座学やディスカッションだけでなく、こうしたフィールドワークを行いつつプレゼンや論文を作っていきますので、ワクワクしながら研究を深めることができます。少人数でのゼミが可能となる大阪市立大学だからこそ、また、企業との接点を多く持つ商学部だからこそできる活動といえます。

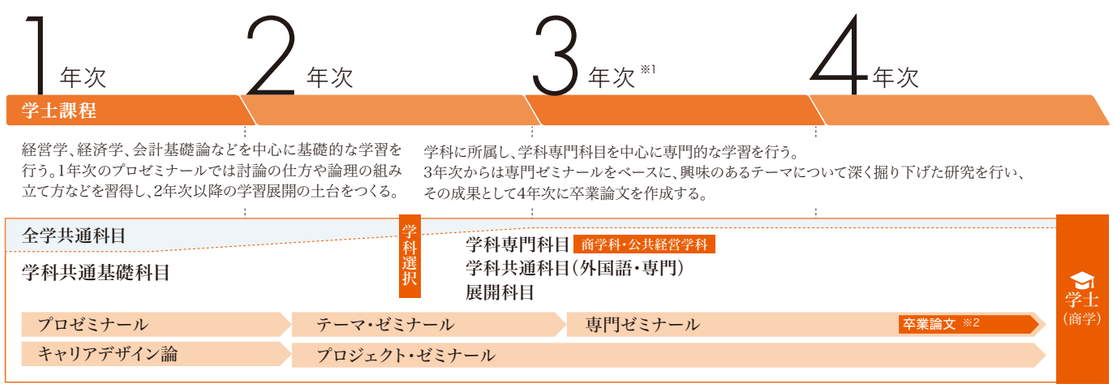
Professor's MESSAGE

商学部の学びには臨場感とドラマティックさがあふれています！

Q&A 商学部ではどのようなことを学べますか？

商学部では、個別企業の経営や会計の在り方、企業を取りまく各産業（製造業、金融、流通、保険、交通、貿易など）や地域（立地、都市など）の特性について学びます。さらにより広い経済社会との相互関係に触れることで、企業、産業、経済の生きた働きを総合的に広い視野から理解できます。この点で、経済学部や経営学部よりも企業や経済についての幅広い勉学が可能です。

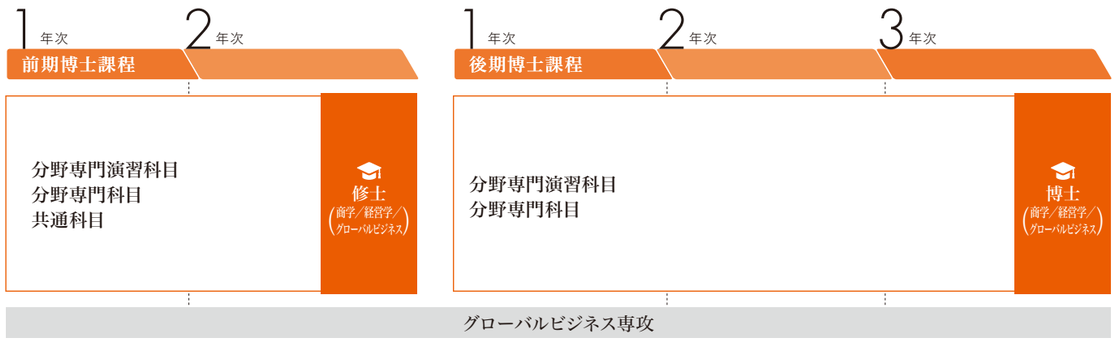
Curriculum



※1：「学部・大学院5年教育プログラム」（学部と大学院前期博士課程を5年で修了できる制度）には3年終了時に応募できます。 ※2：卒業論文は選択科目です。

大学院 経営学研究科

理論と実践、批判と創造をキー・コンセプトとして、66年間にわたって自由かつ緻密な教育・研究活動を行ってきました。研究者養成だけでなく、高度専門職の職業人養成大学院として、実績を積んでいます。



Study Program

商学科・公共経営学科

1880年開設の大阪商業講習所を源流とする商学部は139年の歴史と伝統を誇る商学教育・研究の草分けであり、一橋大学、神戸大学とともに「三商大」と称される本学の筆頭学部として経済界や地域で活躍する多くの人材を輩出してきました。現在、経営・商学・会計を広く専門的に学ぶ商学科と、2018年4月に新設の公共経営学科で連携したプログラムを展開しています。公共経営学科はマネジメントやビジネスを扱う点は商学科と同じですが、「社会性」と「地域性」をキーワードとして学習を進める点に特色があります。双方とも、現代の企業や社会が直面する多様な課題や問題を自ら発見、分析、解決する能力を身に付け、社会に貢献する人材の育成を目指しています。

	学科共通専門科目	経営	商学	会計
商学科	・会計基礎論演習 ・中級簿記 ・経営分析論 ・財務諸表論 ・原価計算論 ・情報処理演習 ・基礎統計学　等	・経営管理論　・経営戦略論 ・経営組織論 ・経営財務論　・経営史 ・イノベーション・マネジメント ・国際経営論　・経営統計論 ・人的資源管理論 ・事業戦略論　等	・環境論　・商業論 ・工業論　・技術論 ・金融機関論　・貿易論 ・統計方法論　・証券市場論 ・マーケティング経済論　等	・財務会計論 ・管理会計論 ・企業評価論 ・国際会計論 ・会計監査論 ・会計情報システム論 ・管理会計システム論　等
公共経営学科		・公共経営論 ・ビジネス・モデル論 ・ソーシャルビジネス論 ・地域経営論 ・ベンチャー・ビジネス論 ・政策形成論　等	・地域金融論 ・地域デザイン論 ・地域マーケティング論 ・地域再生論　・文化政策論 ・産業立地論　・産業集積論 ・中小企業論　等	・公会計論 ・社会関連会計論 ・自治体財政論　等

相互の学科科目も履修可能

商学部の ココもCHECK!

2つの学科による専門的かつ体系的な教育システム

2018年4月から商学科に加え新たに公共経営学科を設置し、非営利組織、公的機関、地域企業、CSR（企業の社会的責任）等について重点的に学ぶ機会を拡大させることになりました（2年次後期からいずれかの学科に所属）。経営・商学・会計を体系的に学びつつ、それぞれの学科の専門科目をベースに、より専門的な学習ができます。

理論と実務との融合を目指したインタラクティブ型キャリア教育

商学部が独自に開発した教育システムです。少人数でのグループワークを中心とした「キャリアデザイン論」と「プロジェクト・ゼミナール」において実施しています。学生がビジネスの現場に入り込み、現場が抱える課題に擬似的に向き合うことができる授業であり、「自ら問題や課題を発見し、解決する」能力を高めることを狙いとしています。

講義紹介

データ分析論
高田 輝子先生

利用可能データの増大・多様化と情報技術のハード・ソフト両面での高度化を背景に、データを基に判断する力があらゆる分野においてますます重要になってきています。さまざまな統計情報技術を用いたデータ分析の出力結果を適切に理解・判断し、意思決定に役立てる方法や、プログラミングを用いてそれを本格的に実行する方法を学びます。

会計基礎論
浅野 信博先生

企業においては、お金が「血液」に、会計システムが「神経」に例えられるほど、簿記・会計は必要不可欠のスキルです。商学部出身者ならば当然勉強していると考える企業も多く、また経営・経済系の学問を学ぶ際にも必須の知識です。一緒に簿記・会計を基礎から学び、社会で生かせるスキルを身に付けていきましょう。

学部ごとの注目情報をお届け

TOPICS

キャリアデザイン論

企業の第一線でご活躍されている方などを学外講師（パートナー）としてお招きし、過去の経営課題とその解決策を参考として、提示されたミッションに対して「企画書」という形で解決策を提案する授業です。受講生は複数のチームに分かれ、チーム内でリーダーをはじめメンバーがそれぞれの役割を果たしながら、要求されたミッションを達成していきます。

卒業生紹介

海外における日本メーカーの活躍をゼミで実感したことが将来の道を決めるきっかけになりました。

ゼミではTQM（総合品質管理）を学び、実際にベトナムにあるメーカーを訪問して作業工程の改善提案を行いました。その際に発展途上国の力強さ、日本メーカーの海外での活躍を肌で感じたことで私も世界を相手に仕事がしたいと強く思うようになりました。今はメーカーの購買担当として国内外の鉄鋼メーカーを相手に仕事をしており、ゼミでの出会いが今の自分につながっていると感じています。皆さんの未来は可能性に満ち溢れており、また市大はそんな皆さんが挑戦する機会を多く与えてくれる場所です。ぜひ市大でさまざまなことに挑戦し、新しい自分を見つけてください。

商学部 商学科
2015年3月卒業
宮崎 沙織

住友電気工業株式会社

Q&A キャリア教育にも力を入れているということですが？

高校のこれまでの勉強では既存の「知識」を学ぶことに終始していませんでしたか？ もちろん、既存の知識体系を学ぶことは重要です。しかし、激動する世界情勢の下、今、社会で最も求められているのは「自ら課題を発見し、解決する能力」です。商学部では、キャリアデザイン論、プロジェクト・ゼミナールという新しいプログラムを通じてこうした能力の形成に力を入れています。

Q&A 卒業後はどのような進路がありますか？

商学部の卒業生は、公認会計士や経営コンサルタントといったスペシャリストのほか、製造業、情報、銀行、証券、保険、流通、商社、新聞・出版・広告、国家・地方公務員、公団など、実社会の多方面で活躍しています。本学経営学研究科も含め、大学院に進学する人もいます。また商学部には独自の同窓会として「商友会」があり、在学生の就職活動のサポートをしています。

Faculty of Economics

経済学部

https://www.econ.osaka-cu.ac.jp/
06-6605-2251

仮説と検証に基づく柔軟な思考力で
常に時代に即した解決策を創造していく。

学びの特長

グローバル・プラクティカル・エコノミスト（GPE）を育成

グローバルな経済・社会が直面する課題を的確に捉え、経済学の知識を生かしてそれを分析し、複眼的な構想力と周りとの協力によって解決方法を立案できる人材＝GPEを育成します。

少人数演習・2段階サイクルで自主性と思考能力を伸ばす

1・2年次には少人数の演習型授業で基礎を固め、3・4年次にはゼミ討論会などで応用力を伸ばす2段階サイクルを採用し、経済学を段階的に学びます。自己で課題を設定・分析、結論を報告し、論文で示す能力を養います。

興味に合わせて学びを深める6部門の多種多様な専門講義科目

経済理論・経済統計論・経済史・経済政策論・経済構造論・国際経済論の6部門の専門講義科目に加え、英語で講義を行う科目も設置。一人ひとりの興味関心に合わせて、専門知識を深めていくことができます。

Student Voice 在学生の声

地域の課題に財政面からアプローチ。現地での実体験が学びになりました。

香川県直島を調査対象とし、地域が抱える課題について研究しています。現地に赴いて聞き込み調査をし、社会経済の実態への理解が深まりました。地域の方への発表を通して見つかった課題に対して、今後は住民や行政との連携をさらに強化し、課題解決に取り組んでいきます。

経済学科 4年生 鳥井（とりい） 香歩（かほ）
京都教育大学附属高等学校卒業

Challenge of OCU 大阪市大の挑戦

少子高齢化・人口減少時代を生き抜く

経済学科 杉田 菜穂先生

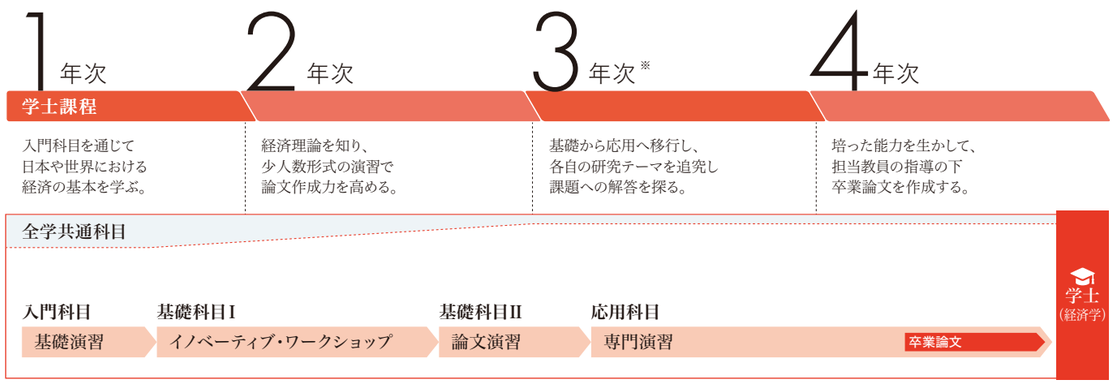
人口問題への政策的対応について学びを深めています。ポジティブ・アクション、ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティといった「人口減少時代の政策キーワードを自分たちに引き付けて考え、できることを見つけてやってみる」をスローガンに教室を飛び出して、高等学校や企業などとの連携による価値の創造に取り組んでいます。

Professor's MESSAGE
社会・経済問題について、教員や他の学生と共に考えましょう。

Q&A 経済学を学ぶメリットとは？

経済はどのように動くのか、金融の仕組み、政府の役割など、現代社会で働いて生活するためには、経済への理解が必要不可欠です。そして、経済の仕組みへの理解や洞察は、ビジネスはもちろん、家計の資産運用にも役立ちます。さらに、経済学の学習で身に付けた感性と論理的な思考は、生きていくためのさまざまな問題解決を助けてくれるでしょう。

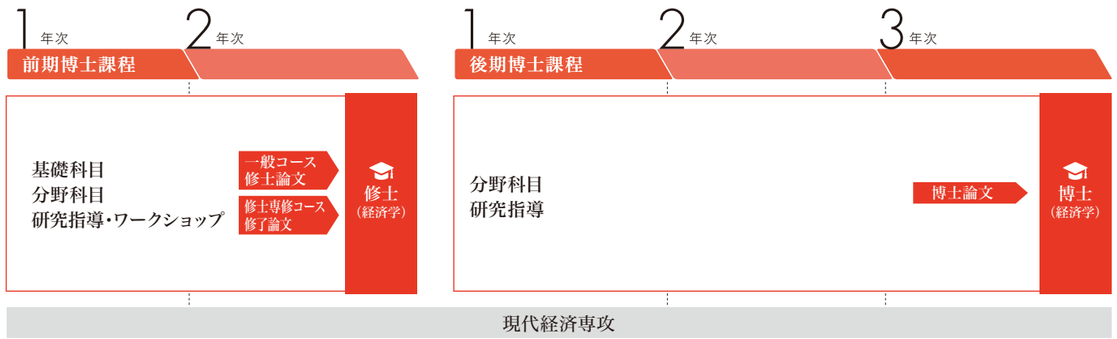
Curriculum



※:成績優秀者は3年次に大学院を受験することができます。

大学院 経済学研究科

世界経済の諸問題について総合的な視点から提言をなしうる「ジェネラル・エコノミスト」を養成します。前期博士課程修了後に実社会で活躍する人を育てる「修士専修コース」と、後期博士課程に進学する人のための「一般コース」を設けています。



Study Program

経済学科

経済学は人の活動の全てを分析対象とし、どうすれば社会・経済がより良くなるか考える学問です。問題に取り組む際には仮定の下で論理を積み重ね、データ分析により導き出した答えを検証します。また、グローバル化・情報化という時代の潮流に対応し、英語による講義やコンピュータ講座などを開講。学びやすく多彩なカリキュラムで、グローバルに活躍できるエコノミストを育成します。

三商大討論会

留学生討論会

専門講義科目[6部門]

経済理論	•経済原論Ⅰ •経済原論Ⅱ •経済変動論 •経済学説史 •社会思想史 •社会経済論 等	**経済統計論**	•統計解析論 •計量経済学 •経済統計論 •経済情報論 等 •計算機経済学
経済史	•日本経済史 •西洋経済史 •アジア経済史 •戦後経済史 等	**経済政策論**	•社会政策論 •公共経済学 •財政学 •地方財政論 •金融経済論 •経済政策論 •労働経済論 •日本経済論 等
経済構造論	•産業技術論 •経済地理学 •産業組織論 •産業経済論 等	**国際経済論**	•国際経済学 •国際通貨論 •経済開発論 •国際協力論 •中国経済論 •アジア経済論 等

英語で行われる講義 • Economic Reading • Introduction to International Economics • Global Economy • Lectures on Economics A・B

演習科目

•基礎演習(1年次前期) •イノベーティブ・ワークショップ(1年次後期・2年次前期)
•論文演習(1年次後期) •専門演習(3・4年次)

入門・基礎科目Ⅰ

•日本経済の論点 •世界経済の論点 •近代経済学(マクロ1、2) •近代経済学(ミクロ1、2)
•政治経済学Ⅰ、Ⅱ •基礎・経済統計 •経済数学

経済学部の ココもCHECK!

エクセレント・グローバル・プラクティカル・エコノミスト認定制度

経済学部のカリキュラムは、グローバルな視野を持ち、他者と協働して問題を発見し解決できる人(グローバル・プラクティカル・エコノミスト:GPE)を育成するものになっています。語学、グローバル・コミュニケーション、問題発見、理論・分析の4分野の全てで一定の条件を満たした学生を、エクセレント・グローバル・プラクティカル・エコノミストとして認定します。

英語学習相談室

英語科目やレポート等の相談、英語によるプレゼンテーションの添削や練習、英語論文のアドバイスはもちろん、「英語力をあげたい」、「英語のコミュニケーション力をつけたい」など、英語、英会話に興味のある学生に対して、イングリッシュスピーカーによる英語学習相談をしています。

講義紹介

各国経済論特殊講義(経済英語)(Economic English)
チャールズ・ウェザーズ先生

英語を駆使し、世界的な企業、企業家を題材にして、それらの実態、背景についての知識を深め、そこから議論を発展させることを目的にしています。毎週、2人ずつペアを組んで課題について報告してもらい、皆で活発な討論を行うことによって深い洞察力、コミュニケーション能力を身に付けるというゴールを目指しています。

統計解析論
中川 満先生

データサイエンスの基礎となる回帰分析の基礎、特に統計指標の確率分布について学びます。回帰分析の基本概念を分かっていることが、さまざまな先進手法を正しく活用することにつながると考えるからです。ゼミナールでは、フリーの統計ソフトRを活用して実際に統計分析を行いつつ、統計理論の勉強をしています。

学部ごとの注目情報をお届け

TOPICS

地域と連携しながら、自主的な学びを

松本ゼミ(財政学)では、「現場主義」を合言葉に地域との連携を通じて行財政の在り方について学んでいます。最も大事にしていることは、「自分の頭で考えること」です。地域の方々や教員のアドバイスをもとに自分たちで課題を設定し、解決の方策を考える。容易なことではありませんが、実社会でも役に立つスキルを身に付けることができます。

鳥取県での現地調査

卒業生紹介

学生時代の多様な経験を通して自ら行動する姿勢が身に付きました。

現在は、商社でインドネシアにおける都市開発事業に携わっています。学生時代は部活動、留学、アジア放浪など、さまざまなことを経験できた貴重な期間でした。市大では講義やゼミはもちろん、その他の経験を通して、自ら考え行動するという姿勢を学べたと考えています。学内の多様なカリキュラムはもちろんのこと、学外においても学びの場は無限にあるので、ぜひ皆さんも主体的に動き、好きなことをとことん追究して突き進んでいってください!

経済学部 経済学科
2012年3月卒業
塚田 竜也

双日株式会社
産業・都市基盤開発部

Q&A 社会に開かれた学問、学部としてどのようなことを行っていますか?

経済学部では、活動的で多様な潜在的能力を持った学生を広く求めたいと考えています。そのために、10年以上も前から学部・大学院において社会人入試やユニーク入試を行っています。もちろん、教員そして学生の国際交流や多くの留学生の受け入れなども率先して行っています。

Q&A 卒業後はどのような分野で活躍できるのですか?

経済分析が必要な金融や、国や自治体の全体を視野に入れる公務員は、経済学部出身者にアドバンテージがあります。また、経営には、自らの会社のことだけではなく経済全体のことを考える必要があるので、多くの卒業生が経営スタッフとして活躍しています。経済学を学ぶには多彩な才能が必要なので、他学部と比較しても幅広い業種と職種で通用します。

Faculty of Law

法学部

http://www.law.osaka-cu.ac.jp/
06-6605-2303

複雑に変化する現代社会を捉え、自らの考えを持って立ち向かう。

学びの特長

社会科学の素養とリーガル・マインドを身に付ける

現代社会の動きを分析し、将来の動向を的確に予測するために必要な「社会科学の素養」と、多様な人々が共生する社会で、現実に即した解決方法を導くための「リーガル・マインド」の両方を身に付けます。

研究熱心な教員集団による充実した少人数教育

法学部は、優れた研究者が良い教育者であることの必要条件と考え、教員の採用に努めてきました。研究水準の高い教員陣による密度の高い少人数教育を通じ、法学・政治学各分野の内容とともに、学問に対する姿勢も学ぶことができます。

将来設計（キャリアデザイン）を見据えた3つの履修コース

法曹などを目指す人のための法律基本科目を深める「司法コース」、公務員などを目指す人のための、法律科目に加え行政関係科目も学ぶ「行政コース」、政治学や国際関係法などを幅広く学ぶ「企業・国際コース」の3コースから、将来を見据えた選択が可能です。

司法コース　行政コース　企業・国際コース

Student Voice　在学生の声

法制度やルールを考え、健全な社会をつくりたい。

ゼミでは刑事法を学び、犯罪者を生まない環境づくりについて研究しています。法が定められた背景や社会的な機能など、社会で役立つ実用性の高い知識が身に付いていると感じます。将来は法曹実務家として、健全な社会づくりに貢献することが目標です。

法学科 3年生 中山（なかやま） 一仁（かずひと）
履正社高等学校卒業

Challenge of OCU　大阪市大の挑戦

自治体の現場から内閣まで細部に分け入って行政を考える

法学研究科　手塚 洋輔先生

行政は私たちの暮らしや仕事と密接に関係しています。こうした国や自治体の活動は法令という設計図に従って行われますが、だからといって機械のように全てが自動的に実行されるのではありません。職場内部の関係から始まって、民間を含めた他の組織との関係、政治家との関係、ひいては私たち一人ひとりとの関係の中で形作られているのです。その複雑な実態を解明するべく、過去の文書を調べ、当事者に聞き取りを重ねています。

Professor's MESSAGE

行政を知ることは
世の中のしくみを知ることに
つながります。

Q&A　法学部ではどのような勉強ができるのですか？

もっぱら法律の条文を暗記することが法学部の勉強ではありません。もちろん法律の細かい知識を知ることは大切ですが、同時にそうした知識が社会の中で持つ意味を考えなければなりません。そのために、法学と同時に広く政治学も学ぶのです。柔軟にルールを使いこなし、批判し、改良できる人材を育成するための、充実した諸講義を提供します。

Curriculum

1年次 2年次 3年次※1 ※2 4年次

学士課程

入門科目を通じて
早い段階から法学と
政治学の素養を深める。

コース選択

司法コース／行政コース／企業・国際コース
コースごとに科目選択をし、
自主的に学習していく。

演習（ゼミ）では、少人数体制で
より深い内容を学ぶ。
複数の演習（ゼミ）を履修することができる。

全学共通科目

専門教育科目
- 基礎法学部門
- 公法部門
- 私法部門
- 社会法部門
- 国際関係法・外国法部門
- 政治・行政学部門
- 共通部門 他

学士（法学）

※1：成績優秀者は、3年次に大学院を受験することができます。　※2：成績優秀者は、3年で卒業することもできます。

大学院 法学研究科

研究者の養成に力点を置き、教育を展開しています。研究科構成員相互のインテンシブな知的交流が可能な規模であり、高い研究水準を誇る教員集団による十分な指導の下、存分に研究できる環境を整えています。

1年次 2年次 修士（法学）
前期博士課程※3

1年次 2年次 3年次 博士（法学）
後期博士課程※3

法学政治学専攻

法科大学院（ロースクール）

大阪市内に設置された唯一のロースクールとして、大都市ゆえに生ずるさまざまな法的問題に即応できる高度な法的能力を備えた裁判官・検察官・弁護士などの法律実務家の養成に力を注いでいます。修了後に後期博士課程を受験することができます。

1～3年次 法務博士（専門職）
専門職学位課程※4

法曹養成専攻

※3：年限短縮制度＝成績優秀者は、前期博士課程の在学期間（標準2年）を短縮することができます。また、後期博士課程の成績優秀者は、在学期間（標準3年）を短縮して修了することができます。
※4：入学者は、所定の単位を3年間で修めなければなりませんが、法科大学院に提供される科目の一定範囲につき、すでに十分学力を有すると判定された者は、2年間で修了することも可能です。

Study Program

法学科

社会科学的な素養と法的思考（リーガル・マインド）を備えた、人権感覚豊かな現代社会の担い手となりうる人材の育成を教育理念としています。本学科の特長は、法学・政治学の各分野における研究の第一線を担う、中堅・若手の研究者を中心とした教員集団を擁していること。研究者としての水準が高い充実した教員集団の下で、少人数体制ならではの密度の高い教育を受けることができます。

専門教育科目

基礎法学部門
- 法哲学
- 法社会学
- 日本法制史
- 日本近代法制史
- 東洋法制史
- 西洋法制史
- ローマ法

公法部門
- 憲法第1～2部〈基本的人権、統治機構〉
- 行政法第1～2部〈総論、各論、行政救済法〉
- 租税法
- 刑法第1～2部〈総論、各論〉
- 刑事訴訟法
- 刑事政策

私法部門
- 民法第1～5部〈総則、物権法、債権総論、債権各論、家族法〉
- 商法第1～3部〈総則、商行為法、会社法、手形・小切手法〉
- 金融商品取引法
- 民事執行・保全法
- 民事訴訟法
- 倒産法

社会法部門
- 労働法〈集団的労働法、個別的労働法〉
- 社会保障法
- 経済法
- 知的財産法

国際関係法・外国法部門
- 国際法〈国際法の基本原則、紛争処理法〉
- 国際組織法
- ドイツ法
- 国際経済法
- フランス法
- 国際私法
- アジア法〈中国法〉
- 英米法

政治・行政学部門
- 政治学
- 比較政治学
- 政治過程論
- 政治学史
- 日本政治外交史
- 欧州政治外交史
- 国際政治
- 行政学
- 公共政策論

共通部門 他
- 法学入門
- 法曹実務入門
- 政治学概論
- 法学政治学計量分析
- 発展科目
- 基礎演習
- 法政2年次演習
- 専門演習
- 演習論文
- 外国語演習〈英語、ドイツ語、フランス語、中国語〉
- 特別研究

法学部のココもCHECK!

年次に応じた学習プログラム

法学部では、少人数教育の利点を生かして、思考を深め、論理的に語る力を身に付けられるよう、演習形式の科目を年次に応じて配置しています。1年次の基礎演習で基礎的な力を、また、法政2年次演習、外国語演習等で応用力を育み、専門演習では各人の問題意識に応じ、適切な資料に基づき、自分の意見を説得的に展開できるよう互いに切磋琢磨します。

学びの場作りへの自主的な関わり

専門演習に参加する学生の横のつながりを作っているのがゼミ幹事会です。ゼミ幹事会は、年度ごとに集まって、ゼミ紹介や外部講師を招いて行う講演会の企画を立てたり、講義、授業の在り方について意見交換を行ったり、また、ゼミ横断的な活動や教員と交流をするなどの活動を通して、学びの場の形成に自主的に関わっています。

講義紹介

専門演習（民事訴訟法）
岡成 玄太先生

民事訴訟に関する近時の重要な判例・論文の精読を通じて、民事訴訟の重要問題に関する理論・実務の現況を把握するとともに、法的なテクストの読み方、口頭での法的議論の方法に習熟することを目標としています。教員も学生の皆さんと対等な参加者として議論に加わることを心がけています。

刑事訴訟法
松倉 治代先生

日本における刑事手続の制度が何を目的として作られ、いかなる機能を果たしているかを学び、手続がどうあるべきかを考えます。刑事訴訟法学を通じて、皆さんが修得した専門知識を活用して具体的問題の妥当な解決を探る力を養います。自由と伝統ある大阪市立大学法学部で、法学・政治学を共に学びましょう。

学部ごとの注目情報をお届け

TOPICS

大阪市立大学無料法律相談所

60年以上の歴史を持ち、週1回、杉本キャンパスで所員（学生）による相談、春と秋には、市大出身の弁護士や教員も加わって出張相談を行います。相談者の話をよく聞き、問題のポイントをつかむ経験は、社会に出てからも役立っています。

卒業生紹介

法学部の知識を不動産取引に生かし、利便性の高い街づくりに貢献しています。

少子高齢化による生産年齢人口の減少が進む中、当社は鉄道の枠を飛び出し、多角的な経営を行っています。中でも私は、駅周辺用地の有効活用を考え、特に不動産分野で駅を中心とした街づくりに努めています。市大法学部で学んだ知識は、不動産取引を行う現在の仕事に通ずる部分も多く、駅周辺の利便性を向上させることで、地域の皆さまに喜んでいただくことに、大変やりがいを感じています。また、在学中はボート部に所属し、何物にも代え難い経験と仲間を手に入れました。最後の学生生活、自分次第で可能性は無限に広がります。

法学部 法学科
2017年3月卒業
大石 将司

西日本旅客鉄道株式会社

Q&A 卒業後の進路にはどのようなものがありますか？

裁判官・検察官・弁護士などの専門法曹を目指すなら、卒業後、法科大学院に進学します。そのほか、公務員、マスコミ関係、銀行・保険・証券、国際機関職員など、卒業生の活躍の場は広がっています。在学中は自分の就職の方向を決めつけず、教員や友人たちとの交流を通して、自己の才能を開拓、開花させる努力を継続することが大切です。

Q&A 法学・政治学の生きた姿を学ぶ機会が講義以外にもありますか？

法学部の全教員・学生を会員とする「法学会」が、弁護士や公務員など多様なキャリアを持つ方々の講演会などを企画して、法学・政治学の生きた姿を学ぶ機会を提供しています。このほか、教員と学生が所員である「無料法律相談所」も、その活動を通して市民の期待に応えるだけでなく、「生きた法学」を学ぶ機会になっています。

Faculty of Literature and Human Sciences

文学部

https://www.lit.osaka-cu.ac.jp/
06-6605-2353

探求心と知的好奇心を持って
人と人の作りあげてきた文化を知る。

学びの特長

4学科14コースの多彩な学び

01

哲学や史学を学ぶ哲学歴史学科、社会や地域、心、そして教育について学ぶ人間行動学科、文学や言語、文化を学ぶ言語文化学科、文化創造を社会的実践に結びつけて学ぶ文化構想学科と、多彩な「知」につながる豊かな学びがあります。興味関心に合わせて専門を深めることが可能です。

哲学歴史学科 | 人間行動学科
言語文化学科 | 文化構想学科

一人ひとりの探究心を満たす少人数編成

02

各コース1学年数名から十数名という徹底した少人数編成で、それぞれの探究心を満たす充実したカリキュラムを組み立てられます。コース選択が2年次からのため、関心のある専門分野をじっくりと見極めることができます。

社会に通用する人間学の知識と実践力を伸ばす

03

多彩な領域に目を向け、文化や社会を知り思考することで人間の本質に迫ります。これからの国際社会で求められる人間学の知識とコミュニケーション能力などの実践的な力を体得することができます。

Student Voice 在学生の声

文化や作品を新たな視点で見つめ、その可能性に挑む。

興味のある映画について、その技法やスタイルを学びながら制作者の意図を発見する授業に力を入れています。専門的な分析スキルだけでなく、現代文化にまつわる歴史や理論についても幅広く学んだことで、多様な思考力が身に付きました。今後はミュージカル映画を題材に学びを深めていきたいです。

言語文化学科
表現文化コース 3年生 西原（にしはら） 華（はな）
大阪教育大学附属高等学校
天王寺校舎卒業

Challenge of OCU 大阪市大の挑戦

平安時代の漢詩文と和歌

言語文化学科 山本 真由子先生

平安時代の文学作品、主に漢詩文と和歌を研究しています。平安時代の人々は、その作品をどのように理解し鑑賞していたのか。当時の理解に近づくことを目指して、作品に用いられた言葉の意味や、表現の成り立ちなどから考察しています。平安時代には、漢文学と和歌などの和文学とが密接に関わっていました。『百人一首』の和歌や『源氏物語』なども、漢文学の影響を考えるとより理解が深められると思います。

Professor's MESSAGE

言葉の奥行きに目を向けると、
文学作品の面白さを
発見できます。

Q&A 文学部の特色とは？

文学部を「小さな総合大学」だと思ってください。学問の幅、間口の広さが最大の特色です。伝統ある「哲学コース」から、思想・文学・演劇・音楽・美術・映画・モード・サブカルチャーなどを現代的な視点から研究する「表現文化コース」まで、多彩な「知」へとつながる扉が用意されています。学生は多様な選択肢から勉強したい領域を選ぶことができます。しかも、しっかりと専門的に学ぶことができます。

Curriculum

1年次 学士課程
コース選択に向け
多様な分野を学び、
幅広い教養を身に付ける。

2年次
所属コースに特化し、
人間、文化、社会、歴史に対する
専門的な見方を修得する。

3年次
専門の学びを深め、
論理構成力を磨きながら
興味のあるテーマを探る。

4年次
自らの研究テーマについて、
担当教員の指導の下
卒業論文を作成する。

全学共通科目

学科共通の必修科目

コース選択

哲学歴史学科　哲学概論、日本史通論、考古学実習、世界史特講など
人間行動学科　社会学概論、発達心理学特論、教育方法学、地理学野外調査実習など
言語文化学科　国文学史、中国語学演習、英米文化概論、ドイツ語圏文学史など
文化構想学科　表象文化論、アジア地域文化論、観光文化論など

学士（文学）

大学院 文学研究科

本研究科には4専攻が設置され、既存の学問の垣根を越えて、人間と文化を複合的に捉える新しい試みを行っています。
国際交流や文化行政に関わる内外の研究・教育機関、官公庁への就職実績を積み上げてきました。

前期博士課程（1年次・2年次）

人間文化学研究、東洋史学研究演習、
人間行動学研究、教育学特殊問題研究、
フランス語圏言語文化論、言語応用学研究、
文化構想学研究、ポピュラー文化論研究など

修士（文学）

後期博士課程（1年次・2年次・3年次）

自ら設定した研究課題に基づく調査、
研究発表、論文執筆を行う

博士（文学）

哲学歴史学専攻／人間行動学専攻／言語文化学専攻／文化構想学専攻

PICK UP!

文化構想学専攻
※2020年4月開設予定

文化構想学専攻は、文化への深い理解に基づいて、多様な文化的事象を社会の中で積極的に活用することで、
現代社会が抱える諸問題の解決に取り組み、21世紀型成熟社会を文化の面から担う人材を育てます。

Study Program

哲学歴史学科

▶ 哲学コース
世界の存在と人間がそこに占める位置、知識の成り立ちと根拠といった哲学の古典的テーマ、また私たちの生き方に関わる倫理学的および宗教学的問題、さらには現代に固有の哲学的諸問題について、古代ギリシアから現代に至る西洋哲学の伝統を踏まえて考えます。

▶ 日本史コース
遺跡・遺物、記録や日記、古文書などの史料をもとに、社会史、都市史、文化史など多様な視点から、古代から現代に至る日本の歴史を学びます。博物館などの文化行政や教育の現場で活躍する人材を養成します。

▶ 世界史コース
全世界を対象に、古代から現代までの歴史を探究します。古今東西の史料を読み解き、各地域の特質や、各社会の政治的、文化的背景を明らかにし、広い視野を持つ国際的な教養人を育成します。

人間行動学科

▶ 社会学コース
人間がつくりだした社会に焦点を当て、そこにたち現れる現象を科学的に分析します。諸制度、都市、家族、産業と労働、文化と情報、メディアなど、生活の諸相を多角的に学びます。

▶ 心理学コース
心のはたらきという目に見えない現象を、行動という客観的な指標を通して明らかにします。さらに生理、感覚・知覚、認知、学習、発達、社会、性格といった、心のはたらきのさまざまな側面について、深く学びます。

▶ 教育学コース
教育は、個人の自己形成によい影響をもたらすものであると同時に、社会的な価値・規範の伝達に資するものです。本コースでは、人間と社会について深く理解するために、教育の思想、制度、方法等について学びます。

▶ 地理学コース
地理学はさまざまな地域・場所の成り立ちと現状を解き明かし、将来像を描きだす実践的な学問です。旺盛なフィールドワークを通じて、地域の現実やメカニズムを把握し、その成果を社会にフィードバックする能力を養います。

言語文化学科

▶ 国語国文学コース
日本語を体系的・歴史的に学び、また、日本の文学を散文・韻文・芸能といった分野からバランスよく学びます。古典作品の緻密な読解と着実な論証を重視し、日本文化の究明を目指します。

▶ 中国語中国文学コース
文学・語学・文化の3分野からなります。中国語の歴史やしくみに関する深い知識を得るとともに、近現代文学や演劇、映画などを幅広く学びます。

▶ 英米言語文化コース
世界の共通言語と化しつつある英語の運用能力を培い、英米文学・英語学・英米文化の3分野について、広い視野と深い洞察力をもって学びます。

▶ ドイツ語フランス語圏言語文化コース
EUの中心をなす独仏の専門家を擁し、広く独仏語圏（欧州やほかの大陸）に関わる事柄（多文化社会、多言語社会、汎欧州文化など）のほか、独語圏、仏語圏の個別分野について学ぶことができます。

講義紹介

教育学演習III
島田 希先生

教育学コースの「教育学演習III」では、特色ある教育実践に関する文献を読み説きながら、その意義や課題を分析していきます。各回の授業では、学生自身が文献を読み説き、その要点を発表し、全体で議論を行います。そうした活動を通じて、教育学のものの見方・考え方を身に付けることを目指します。

西洋史購読II
北村 昌史先生

世界史コースでは多様な世界の歴史研究を進めるためにさまざまな言語で書かれた文献・史料を読み込む力が必要となります。この授業では、ドイツ語の研究文献を受講生と読み説いています。ドイツ語は大学で初めて学ぶ言語ですが、授業を通じて、ドイツ語を読んでいく基本的な力が次第に身に付いていきます。

文学部のココもCHECK!

公認心理師　https://www.lit.osaka-cu.ac.jp/psy/

公認心理師は、さまざまな職場において、心の健康の問題を扱う心理職従事者のための国家資格です。文学部の心理学コースでは、公認心理師資格取得希望者を対象に、資格取得のためのプログラムを用意しています。資格取得には要件があります。詳しくは本学Webサイトをご確認ください。

教育促進支援機構　https://www.lit.osaka-cu.ac.jp/education

教育促進支援機構では、学生の「学び」を支援する多彩な事業を、学生自らが企画・立案し、教員と協働して実施・運営しています。その内容は、新入生歓迎キャンプ、1・2年生のための就活ガイダンス、自主ゼミ支援事業、進路セミナー、文学部案内の編集・出版など、多岐にわたります。学生主体の創発的な学びの場が提供されています。

卒業生紹介

**大学でさまざまな人々と
関わった経験が、
将来を決めるための
重要な要素となりました。**

もともと幅広い分野に興味があり2年次から専攻を選択できる市大を志望。その中でも、将来海外と関わる仕事をしたいと思い、英米言語文化コースを選択しました。また部活動などを通し社会（学校、世代、国籍を超えた多様な立場の人）と関わることができた経験は、その後の将来選択の原体験になっています。現在、私は化学メーカーで働いていますが、海外企業との付き合いや折衝の中で、大学で学んだことや議論した経験が生きていると感じます。市大はあらゆる機会を与えてくれますので、ぜひ好奇心に任せて幅広く挑戦してみてくださいね。

文学部 言語文化学科
英米言語文化コース
2012年3月卒業
高田 さくら

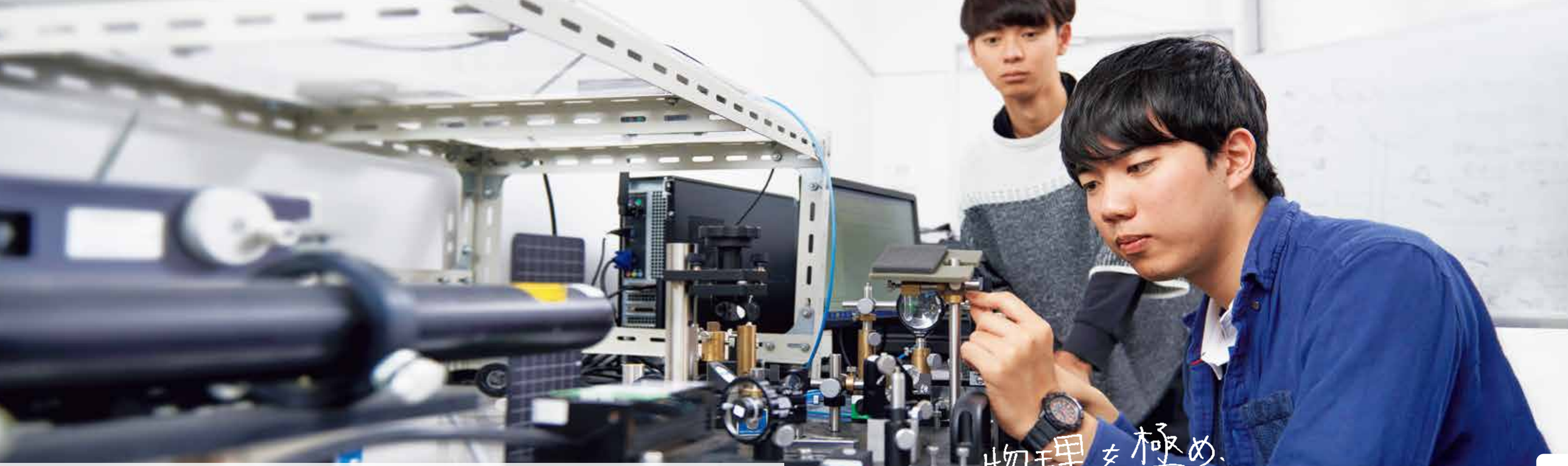
東洋紡株式会社

Q&A　コースはどのように選べばよいのでしょう？

各コースに分かれるのは2年次からです。入学後の1年間は、学科・コースを決めないまま幅広く講義を受けることになります。その間に自分を見つめ直し、最も関心のある専門分野は何かを見極めて、進路を選択してください。1年次の担任教員のアドバイスや教員によるガイダンス、教育促進支援機構主催の先輩学生によるガイダンスを参考にしてください。

Q&A　卒業後はどのような進路がありますか？

文学部では、社会・地理歴史・公民・国語・外国語（英中独仏）の教員免許状のほか、博物館学芸員の資格を取得することができます。卒業後の進路は、流通業・情報関連産業・教員・学芸員・官公庁・マスコミ・出版等多岐にわたっており、各界の第一線で活躍する専門職業人を輩出しています。文学部で培い、身に付けた「人間学」の知識とコミュニケーション能力などの実践的な力は、社会において十分に有効性を発揮します。



Faculty of Science

理学部

http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/
06-6605-2504

最先端の技術・知識を運用し、謎に満ちた自然界の本質に迫る。

学びの特長

1 あらゆる角度から自然界を捉える5学科構成

数学、物理、化学、生物、地球の5学科で、多くの謎に満ちた自然界をあらゆる角度から捉えます。自然科学の全分野をカバーした研究・教育拠点で、自然界の謎に「なぜ」を問いかけ、人類の知的財産へと高めていきます。

数学科 | 物理学科 | 化学科 | 生物学科 | 地球学科

2 一人ひとりの問題解決能力を伸ばす少人数教育

教員1人当たりの1学年の学生数が1.7人と、国公立大学の中でも有数の少人数教育を行っています。自由な学風の下、学生一人ひとりに対するきめ細かい指導を行い、基本や原理に戻って自ら考え問題を解決する能力を養います。

3 世界を牽引する高いレベルの研究を実施

各分野で世界をリードする最先端の研究に取り組み、その研究を生かした教育を行っています。さらに、学部卒業生の大半が大学院に進学し、より高いレベルの研究に挑戦。高度な専門的職業人を目指します。

Student Voice 在学生の声

理論の成り立ちを学び、物事の真理を紐解きます。

興味のあった宇宙について学びたいと理学部に入学。高校までの“問題を解く”ための物理ではなく、一つひとつの現象や理論、その成り立ちの過程まで掘り下げ“物事の真理”を探究できるのが魅力です。物理のほか数学や生物学など幅広く学びを深め、宇宙全体の重力の研究に携わることが目標です。

物理学科 3年生 古田（ふるた） 悠真（ゆうま）
大阪教育大学附属高等学校池田校舎卒業

Challenge of OCU 大阪市大の挑戦

複合分子化学：ハイブリッド錯体システムの創成

化学科 森内 敏之先生 板崎 真澄先生

自然が創りあげたナノテクノロジーを応用することにより、機能創発的な分子配列制御法を確立するとともに、変幻自在な機能特性を有するハイブリッド錯体システムの創成を目指して研究を行っています。本研究室では生体関連分子・機能性金属錯体・π共役系分子の機能を融合した複合分子システムの開発に関する研究を展開しています。特に、遷移金属錯体による有機分子変換反応の開発も行っており、地球上に豊富に存在する鉄やバナジウムを金属中心とする錯体を用いて、その特長を活用した有機合成反応を見出し、触媒機構の全貌を明らかにすることにも重点を置いています。

Professor's MESSAGE
想像を創造に変える
化学の力で夢のある未来を
切り開きましょう。

Q&A 理科選択制度とは何ですか？

前期入試にある「理科選択制度（定員9名）」とは、所属学科を定めずに理学部に入学する制度です。物理、化学、生物、地球それぞれの学問領域について広く学び、1年終了時に所属学科を決定します。自分の適性を見極めて進路を決めたい人には注目すべき制度です。受験時には「理科選択」と他の学科を併願することも可能です。

Curriculum

1年次 学士課程
基礎的な数理科学を修得し、多様な分野の学びを通じて多面的な見方を身に付ける。

2年次
専門分野について理論・知識・技術を正しく修得する。

3年次※1 ※2
専門的な講義や実験を通じ、問題解決能力や結果の考察力、報告に関する能力を養う。

4年次
研究室に所属し、自ら立てたテーマに基づき最先端の研究を行う。

全学共通科目
基礎物理学実験Ⅰ・Ⅱ、基礎化学実験Ⅰ・Ⅱ
専門生物学実験A・B
専門科目
位相数学Ⅰ
地球学野外実習A・B
特別研究※3
学士（理学）

※1：3年次への編入学ができます（化学科のみ）。 ※2：成績優秀者は、3年次に大学院を受験することができます。 ※3：物理学科は、「特別実験・特別理論演習」です。
上記授業名は開講科目の一部です。

大学院 理学研究科

数物系（数学分野、物理学分野）、物質分子系、生物地球系の3専攻を擁する理学研究科は、全国で最も早く博士課程が設置された研究科の一つで、最先端の研究により優れた業績をおさめてきました。多くの修了生が大学や国公立研究所をはじめ、民間企業など国内外で活躍しています。

前期博士課程（1年次・2年次）
10月入学 ※4
講義・演習科目
前期特別研究
修士（理学）

後期博士課程（1年次・2年次・3年次）
10月入学 ※4
ゼミナール
後期特別研究
博士（理学）

数物系専攻（数学分野、物理学分野）／物質分子系専攻／生物地球系専攻

※4：通常は4月入学ですが、10月入学制度もあります（前期博士課程は外国人留学生、後期博士課程は一般、社会人、外国人留学生）。
◆成績優秀者は、前期博士課程の在学期間（標準2年）および、後期博士課程の在学期間（標準3年）を短縮することができます。
◆一定の条件を満たした場合、在学年限（前期博士課程は4年、後期博士課程は6年）の範囲内で長期履修が認められる長期履修制度があります。

Study Program

数学科

自然界のあらゆる所に数理的な構造が潜んでいます。その探求の中で数学は成長し、現在の姿になりました。その現代数学の基礎概念を修得することを目標とした教育を行います。微積分と行列、群や位相といった基本的事項を自分の思考の道具とするまでじっくり時間をかけ、さらに特別研究における教員との真剣な議論を通して、個性を生かし自由に考えること、アイディアを実現する過程を自ら歩むことの悦びと大切さを学びます。

- 数理構造論：代数系、多様体論、表現論、位相幾何学
- 数理解析学：実解析・複素解析学、応用数学、偏微分方程式論、確率論、微分幾何学

物理学科

自然界を支配する基本的な法則を物理学の両輪である理論と実験の両面から学びます。一貫したカリキュラムにより、基礎の古典物理から現代物理に至る専門知識を学び、最先端の研究を通じて論理的な思考力を養い、その研究方法の修得を目指します。

- 基礎物理学：素粒子論、原子核理論、宇宙物理、数理物理
- 宇宙高エネルギー物理学：宇宙線物理学、宇宙・素粒子実験物理学、高エネルギー物理学、重力波実験物理学
- 物性物理学：超低温物理学、光物性物理学、生体・構造物性物理学、素励起物理学、レーザー量子物理学、電子相関物理学

化学科

物質の基本単位である原子や分子の構造と、それらが相互作用して起こる化学反応などの現象を理解し、物質を自由自在に扱おうというのが化学という学問です。国際的かつ自由な雰囲気の下で、化学の基礎から先端までを、幅広く学びます。

- 物理化学：量子機能物質学、分子物理化学、生命物理化学、構造生物化学、光物理化学
- 有機化学：分子変換学、有機反応化学、合成有機化学、物性有機化学、精密有機化学
- 無機化学：生体分子設計学、機能化学、複合分子化学、先端分析化学

位相数学Ⅰ

現代数学における「距離」についての基本的な考え方を学びます。

基礎物理学実験Ⅰ・Ⅱ

基礎的な物理現象について理解を深めるとともに、基本的な測定機器の取り扱い、実験手法を学びます。

基礎化学実験Ⅰ・Ⅱ

卒業研究を始めるために必要な化学実験の技術と考え方を修得します。

生物学科

生物学は、急速な発展を遂げつつある学問です。本学科では、生体分子を対象とした生化学・生物物理学などから、細胞や器官を対象とした分子生物学・細胞学・発生学・生理学、さらに、個体や個体群を対象とした生態学・進化学までの幅広い分野で、最先端の教育と研究を行っています。

- 生物分子機能学：生体高分子機能学、生体低分子機能学、代謝調節機能学
- 生体機能生物学：動物機能生物学、植物機能生物学、細胞機能学
- 自然誌機能生物学：動物機能生態学、植物機能生態学、情報生物学、植物進化適応学

地球学科

地殻を中心とする固体地球の総合的理解を目指し、鉱物単位から全地球規模までの広範な対象について、基礎的・応用的な教育研究をしています。このような研究教育活動を通して、人類の活動や生存条件と密接に結びつく現在の地球環境の把握と未来の予測に貢献しています。

- 環境地球学：人類紀自然学、地球情報学、都市地盤構造学
- 地球物質進化学：地球物質学、地球史学、岩石学

専門生物学実験A・B

生物学科の全研究室で担当します。さまざまな生物材料にふれ、幅広い生命現象への理解を深めます。観察や実験操作の基本と実際を学びながら、卒業研究のための技術と考え方を修得します。

地球学野外実習A・B

合宿方式で、主要な地質現象が観察される地域の野外見学と調査を行います。地質図や地質柱状図などの作成方法を学ぶとともに、結果をまとめ、発表する能力を養います。

卒業生紹介

深く考え抜く力が身に付き、細部まで考察が必要な今の仕事で役立っています。

私は、オフィスで使用される複合機のソフトウエアの開発を担当しています。ソフトウエアを開発する中で大切なことの一つに設計があります。この設計ではどのようなソフトウエアを作成するかを、細かいところまで考える必要があります。在学中、私は一つのテーマに対してじっくりと細かいところまで考え抜く経験をし、このことが今の仕事で行っている設計に生かされています。市大の数学科は少人数であるため、先生方に相談できる時間も多くあり、一つのことを深く学ぶには最適な環境です。また学べる分野は多岐にわたりますので、きっと皆さんが学びたいことが見つかるはずです。

理学部 数学科
2015年3月卒業
理学研究科 数物系専攻
2017年3月修了
山上 結

京セラドキュメントソリューションズ株式会社

Q&A 本学理学部の特長は何ですか？

何といっても、世界をリードする最先端の研究を行い、それを教育にも生かしているのが特長です。5学科でミクロの世界から宇宙に至る幅広い自然科学の分野をカバーし、自由な学風の下でレベルの高い研究を進めています。また、教員1人当たりの1学年の学生数が1.7人と少なく、それぞれの学生に合ったきめ細かな教育を行っています。さらに、推薦入試や編入学制度を設け、社会の変化に合わせて多様な人材を受け入れています。

Q&A 卒業後はどのような進路がありますか？

過半数の卒業生が大学院に進学して、より高度な学問研究を目指します。科学的な思考力と実践力は21世紀の社会に貢献することでしょう。各種製造業、官公庁、教員に加えて、ソフトウエア、報道、出版など情報や通信産業からの求人も増えており、卒業後の進路は広範囲です。豊かな感性をもって多様な問題に対処できる人材を現代社会は求めています。卒業後はあらゆる分野で活躍できるでしょう。

Faculty of Engineering

工学部

http://www.eng.osaka-cu.ac.jp/
06-6605-2653

最新のテクノロジーと豊かな知識を駆使し可能性あふれる未来を創造する。

学びの特長

より良い暮らしを実現するための知識と技術を身に付ける

「工学」とは、人々の安全で快適な暮らしや人類の夢を実現するためのしくみを生み出す学問。本学部では、豊かな生活を創るためのモノづくりに必要な幅広い知識と、高度なテクノロジーに対応していく力を身に付けます。

21世紀の多岐にわたる難問に立ち向かう6学科の学び

多様化・高度化する時代の要請に的確に対応できる人材を育成するため、「機械」「電子・物理」「電気情報」「化学バイオ」「建築」「都市」といった幅広い領域をカバーする6学科で、さまざまな難問に立ち向かう力を培います。

- 機械工学科
- 電子・物理工学科
- 電気情報工学科
- 化学バイオ工学科
- 建築学科
- 都市学科

専門を深める充実した研究環境と少人数教育

原子レベルの観察ができる顕微鏡や建築構造物の強度を測る装置など、各専門分野に最先端機器を完備。最新の研究設備と少人数制によるきめ細かな研究指導で、一人ひとりの「やってみたい」を叶える豊かな学びが可能です。

Student Voice 在学生の声

モノづくりのプロセスを、体験しながら学んでいます。

電気と物理の分野が融合する学科なので、学びのテーマはもちろん、在籍されている先生方もさまざま。多様な角度から知識を深めることができます。実験や論文購読による理論の学習から製作の実践まで、モノづくりのプロセスを体験できたことが、成長につながりました。

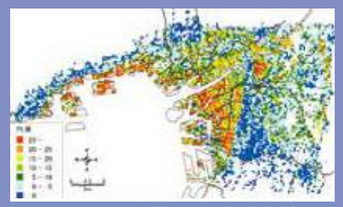
電子・物理工学科 4年生
小林（こばやし） 礼佳（あやか）
三田学園高等学校卒業

Challenge of OCU 大阪市大の挑戦

地盤工学分野（防災から環境まで）

都市学科 大島 昭彦先生

大阪地域では海溝型の南海トラフ地震と直下型の上町断層帯地震による沖積砂層の液状化被害が予想されています。そこで、地盤情報を集約して作成した「250mメッシュ地盤モデル」によって液状化危険度マップを求めています。また、その対策として「地下水位低下工法」を適用すること、さらに地下水を有効利用する方策も提案しています。以上のような地下水制御による地盤防災と環境保全に関する研究を行っています。



大阪・神戸地域の液状化危険度マップ
（PL値が大きいほど危険度が高い）

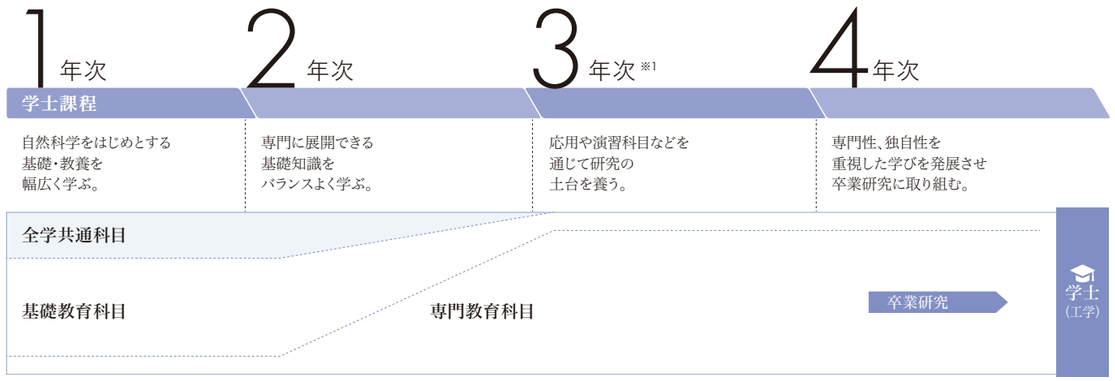
Professor's MESSAGE

地震・豪雨による
自然災害に備える対策を
一緒に研究しよう！

Q&A 他大学の工学部と比べてどんな特長がありますか？

日本最大級の公立大学に設置された本学部は全国的に高い知名度と教育研究実績を持ち、創設時から基礎と応用の結合を重んじる教育理念の下、優秀な人材を多数育成しています。教員1人当たりの学生数が1学年2～3名と少なく、きめ細やかな指導が可能。関連する専門基礎科目を幅広く受講できるカリキュラムで、専門領域を堅持しつつその幅を広げることができます。さらに、プレゼンテーション能力に優れた自立的技術者・研究者の育成にも力を注いでいます。

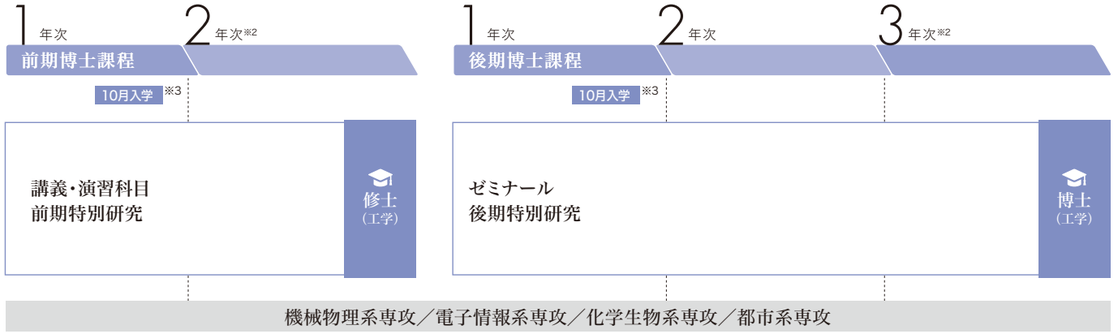
Curriculum



※1：飛び級入学制度＝成績優秀者は、学部3年次に大学院を受験することができます。

大学院 工学研究科

機械物理系専攻、電子情報系専攻、化学生物系専攻、都市系専攻の4つの専攻で、世界の先端技術研究の一翼を担い時代をリードする高度専門技術者・研究者を育成します。少人数教育と高い研究水準により、民間企業、研究機関、官公庁などで活躍する優れた人材を輩出しています。



※2：年限短縮制度＝成績優秀者は、前期博士課程の在学期間（標準2年）を1年短縮して後期博士課程に進学することができます。また、後期博士課程の成績優秀者は、在学期間（標準3年）を1～2年短縮して修了することができます。
※3：通常は4月入学ですが、10月入学制度もあります（前期博士課程は外国人留学生、後期博士課程は一般、社会人、外国人留学生）。

Study Program

機械工学科

機械工学は、エネルギー、環境、ロボット、マテリアル、航空・宇宙、輸送、医療など、幅広い産業分野で必要とされる基盤的学問分野であり、高度な社会的ニーズに応える柔軟な応用力、それを支える確かな基礎知識と将来を担う専門知識が求められます。環境・エネルギー、システムダイナミクス、マテリアルデザインのそれぞれを主体とした先端的な3つの教育分野が連携し、広く深い知識の習得を目指します。

研究分野
- 環境エネルギー領域（環境熱工学、熱プロセス工学、流体工学）
- システムダイナミクス領域（機械力学、材料数理工学、ロボット工学、動力システム工学）
- マテリアルデザイン領域（生産加工工学、材料物性工学、材料機能工学、材料知能工学）
- 共通領域（応用数学、機械工作室）

電子・物理工学科

電子工学、電気工学および物理工学は、携帯電話、コンピュータなどの現代社会を支える電子機器、情報・通信機器、計測機器の開発やレーザー、半導体、さらに光通信などの先端技術の開発に不可欠な学問です。本学科では、これらについて物理学的基礎から応用まで幅広く学ぶためのカリキュラムを提供。また、未来に向けた多様な研究を通して新しい技術を切り開くことができる技術者と研究者を育成します。

研究分野
- 光機能工学領域（光物性工学、フォトニック工学、波動物理工学）
- マテリアル機能工学領域（ナノマテリアル工学、数理工学、物性制御工学、応用分光計測学、検出器物理工学）
- エネルギー機能工学領域（パワーエレクトロニクス、材料計測工学）

電気情報工学科

電気情報工学科は、電気工学、電子工学、情報工学、通信工学、計算機科学などを基礎とし、幅広い科学技術を融合した新しい学科。ここから発する技術は、新たな先端技術領域を生み出すと同時に、現代社会の産業基盤、生活基盤として必要不可欠となっています。電気・電子・情報・通信などの問題に対する適応能力を養成し、未知の問題を自らの手で解決していく自主性と独創性を養成します。

研究分野
- エレクトロニクス領域（光電子工学、電磁デバイス工学、スマートエネルギー工学、システム制御工学）
- 情報処理領域（情報システム工学、情報処理工学、知識情報処理工学）
- 情報通信領域（情報ネットワーク工学、情報通信工学、マルチメディア工学）
- 応用システム領域

化学バイオ工学科

私たちの生活や地球環境を支えている全ての科学技術は、化学や物理、生物などの多様な学問が織りなす知的ワールドの中で成り立っています。本学科では、化学・食品・医療・材料・環境・エネルギーなどの分野で基幹を成している化学と生命科学の基礎科目を効率よく学べるように、また学生が志望する進路に合わせて選択し専門的に学べるように機能的にデザインされたカリキュラムを提供します。

研究分野
- エネルギー物質化学領域（無機工業化学、物理分析化学）
- 分子科学領域（有機工業化学、高分子科学、材料化学）
- 化学バイオプロセス工学領域（反応化学工学、生物化学工学）
- バイオサイエンス領域（生体機能工学、生物分子工学）
- バイオエンジニアリング領域（細胞工学、生体材料工学、創薬生命工学）

建築学科

建築はさまざまな環境づくりを通して人間と密接に関わり社会を形成する、重要かつ大きな可能性を有した分野です。本学科は芸術・学術・技術に立脚した「総合建築教育」が特色。成熟期を迎えた社会の要求や課題を的確に把握し、理論的かつ実践的に対応しうるデザイナーやエンジニアの育成を目指します。さらに、都市学科との連携によって、より幅広く「建築」から「都市」までを学修することもできます。

研究分野
- 構造領域（建築構造、建築防災、建築材料）
- 環境領域（建築環境）
- 計画領域（建築デザイン、建築計画、建築史、建築構法）
- 共通領域（図形科学）

都市学科

都市固有の歴史と文化を継承・発展させながら自然と調和した、豊かで安全・安心な「環境都市」の創出を目指して、グローバルな視野に立ちローカルな実問題に対処できる複眼的な視点を備えたプランナーとエンジニアを育成する教育を行います。3つの専門領域を軸とし、環境都市づくりのために必要な要素技術と、それらを総合的に利用し計画・設計・保全する技術に関する多面的なカリキュラムを提供します。

研究分野
- 都市デザイン領域（環境都市計画、交通計画、交通環境）
- 環境創生領域（熱環境、熱エネルギー設備、水圏生態工学、水圏環境工学、水処理工学、廃棄物リサイクル）
- 安全防災領域（複合構造、コンクリート構造、橋梁工学・鋼構造、地盤環境工学、地盤防災工学、河海工学、水理学）

講義紹介

ネットワーク論
阿多 信吾先生

いまや情報ネットワークは社会を支える重要なインフラとして、当たり前のように使われています。この講義では、遠く離れた、お互いに知らない機械同士が、どのようにして情報を正確にやり取りしているのか、その考え方・本質を中心に、屋外演習や例を交えながら分かりやすく説明します。

材料力学I
内田 真先生

材料力学では、さまざまな材料を安全かつ適材適所で使用するために必要な知識を習得します。変形を扱わなかった高校までの剛体の力学から大きく前進し、外から与えられた力によって材料はさまざまな形に変形します。社会における材料力学の貢献を実感しながら、材料と機械のつながりを楽しく学んでください。

学部ごとの注目情報をお届け

TOPICS

工学研究科では3つの教育研究センターを設置し、工学に基づいた先進的な都市環境の実現を目指して、分野横断的にさまざまな活動をしています！

- 機能創成科学教育研究センターは、電子情報系専攻、化学生物系専攻、機械物理系専攻の6分野で構成されています。分野間の連携、外部との連携を通じて、材料科学、材料技術の立場から持続可能な社会の実現に貢献します。あわせて将来を担う人材を育成します。
- 医工・生命工学教育研究センターは、健康・長寿社会の実現に必要な再生医療やがん治療に資する最先端医療工学技術の基盤構築を目指します。異分野教員が連携し“スマートエイジングシティ”における医工学分野でのイノベーションとそれを牽引する人材育成に貢献します。
- 都市科学教育研究センターでは、自然科学・社会科学・工学の融合による俯瞰的見地から、都市における人間活動と自然・生活・産業の変容の関係性を探求します。研究・教育を通じ、未来社会の目指す姿を描き、その具現化に向けた社会システム創造に貢献します。

卒業生紹介

身に付けた多角的な視点と探究心を生かして独創的なアイデアを生み出していきたいです。

現在、株式会社大林組に勤務し、建築設計に携わっています。仕事ではデザイン検討や図面作成だけでなく、チームの取りまとめ、客先へのプレゼン等も行います。大学院では、大学で学んできた多角的視点を要する都市・建築デザインの知識を応用しつつ、小学校のトイレ改修・遊具の計画・高齢者シェアハウスの提案等を行い、多様な人々との関わりの中でコミュニケーション力、プロジェクトの推進力を学んできました。入社後は推進力だけでなくスピード感が求められ、短い時間の中で独創的なアイデアを生み出す能力を鍛えている最中です。学ぶのではなく、探究心を持ちながら新たなアイデアを生みだす人材が市大から輩出されることを楽しみにしています。

工学部 建築学科
2014年3月卒業
工学研究科 都市系専攻
2016年3月修了
法山 千穂
株式会社 大林組

Q&A 卒業後の進路にはどのようなものがありますか？

本学部の実績は、産業界、広くは社会から高く評価されており、卒業生は企業、国、自治体などに就職して大いに活躍しています。また、卒業生の4人に3人の割合で大学院に進学し、修士（工学）あるいは博士（工学）の学位を取得します。大学院修了者の多くは、国や企業等で研究、技術開発に携わり、社会や人々の生活の進展・発展に貢献しています。博士（工学）の学位を取得するために、企業等に勤務しながら社会人学生として大学院に入学する人もいます。

Q&A どのような資格が取得できますか？

全学科で教員免許（高校一種・工業）を取得できる可能性があります。また、P12・13の表に示すように、危険物取扱者、建築士、測量士などの受験資格等を得ることが可能な学科があります。ただし、これらの免許・受験資格等の取得には、資格ごとに定められた科目を在学中に修得することが必要です。また、卒業後に所定の実務経験を経ることが必要なものもあります。卒業することのみで資格が取得できるわけではありません。

School of Medicine

医学部医学科

http://www.med.osaka-cu.ac.jp/
06-6645-3611

最先端知識と技術をもって全人的な医療人を育成する。

学びの特長

1 「智・仁・勇」を理念としたカリキュラム

医師に必要な高度な医療知識[智]はもちろん、勇気をもって信念を貫く技術と行動力[勇]を修得し、人の悩みや痛みを深く温かく受け入れる慈愛の心[仁]を育みます。これらを基本理念に据えたカリキュラムを設置しています。

2 1年次から現場に出て、最先端の知識と技術を体感する

早期臨床実習(1～3年次に実施)で附属病院や教育協力病院などで現場に触れ、実際の医療を体験します。実習を通じて医学・医療の最先端知識と技術を体感し、全人的な医療人の育成を目指します。

3 21世紀の医学・医療に対応した豊かな学び

大阪市にある唯一の医学部医学科として、これまで5,046人の卒業生を輩出。近年の目覚ましい医学・医療の発展に対応し、社会に貢献していく学びを提供するため、教育・研究・診療体制の改革に取り組んでいます。

Student Voice 在学生の声

知識と技術が医療の現場でつながり、スキルとして身に付きます。

人の命を救う仕事がしたいと医学科を志望。授業では常に新しい発見があり、得た知識を実習で生かせたときや、実習での経験を授業で再確認できたときに成長を感じます。患者さん一人ひとりと向き合い、医療現場で連携して治療ができる医師を目指して、学びを深めていきたいです。

医学科 3年生 松本(まつもと) 峻介(りょうすけ)
東大寺学園高等学校卒業

Challenge of OCU 大阪市大の挑戦

希少難病の新規診断・治療法の開発

医学研究科 発達小児医学 **濱崎 考史**先生

小児科では、希少難病を抱え生活されているお子さんの診療に携わっています。個々の疾患はまれなため社会の認知が低く、研究者も少ないため、その診断法や治療法の開発は残念ながら進んでいません。一方で、遺伝子解析技術はもちろんのこと、生体物質を網羅的に分析できる質量分析技術の急速な発展に伴い、多くの希少難病の研究に光が当たるようになってきました。新生児マススクリーニングの拡大もその一例であり、現在われわれは、学部を超え、多くの研究機関と連携して新しい技術を希少疾患克服に応用する研究を続けています。

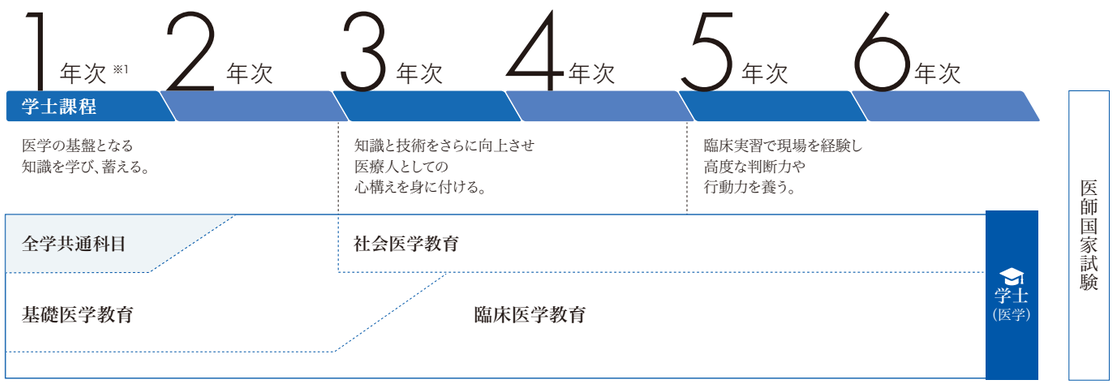
Professor's MESSAGE

子供たちの健やかな成長を
支える社会の実現へ
共に活動しましょう!

Q&A 医学科では、どのような入試を行っていますか?

医学部医学科の入学試験は2009年度より、従来の分離分割方式から変更し、一般入試前期日程で募集しています。2019年度より、新たにAO・推薦入試での募集も行っています。
詳細については、医学部Webサイト(URL:http://www.med.osaka-cu.ac.jp/admission/index.shtml)をご覧ください。

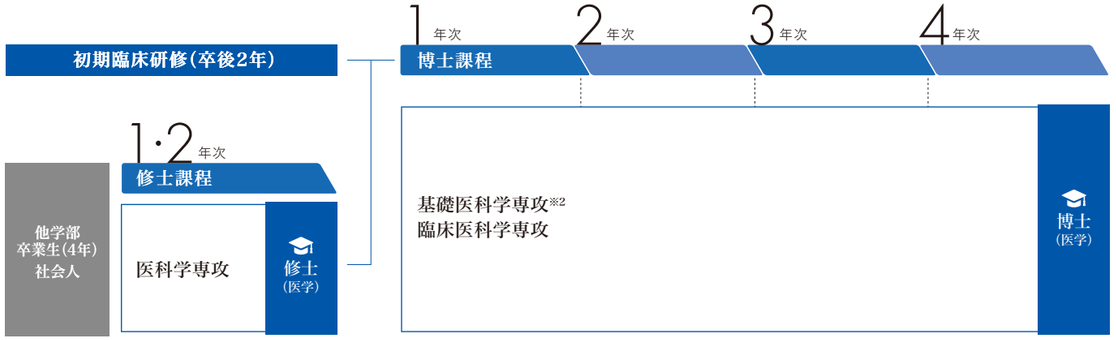
Curriculum



※1：大学院準備コース 大学院基礎医科学専攻への進学を希望する学生が登録可能です。

大学院 医学研究科

博士課程では、社会が求める医学・医療のさまざまな問題に対応するため、都市医学や老年医学、遺伝子治療などの分野やがん専門医師養成のためのコースを設置。高度な専門知識と技術を持つ医師や医学研究者、医療従事者を養成します。



※2：MD-PhDコース 大学院準備コースを修了し、所定の条件を満たした学生は最短10年で博士号が取得できます。

Study Program

基礎・社会医学教育

基礎医学では、まず人体の構造と機能のしくみを分子から個体レベルまで総合的に学修します。次に、病気の概念や細菌、ウイルス、医動物などの病原性とその感染機序、生体の免疫機構や薬物療法の基礎を学びます。社会医学では、健康事象の地域的・経年的分布、生活環境要因の健康への影響、地域・国・世界の保健システム、法的問題や心身への影響など、健康を取り巻く社会的要因について学びます。その後、基礎・社会医学系の各講座を選択し、教員の指導の下で特定のテーマについて学生が自ら研究する「修業実習」に進みます。

臨床医学教育

1年次より早期臨床実習を行い、一般病院や診療所で実際の医療現場を体験します。また、関連施設を使用した心肺蘇生法実習も実施しています。3～4年次にかけて臓器別講義や臨床スターター実習で共用試験（CBT・OSCE※）に向けた準備をします。本格的な臨床実習は4年次の終わり頃から始まり、5年次には附属病院の各診療科、6年次には教育協力病院でそれぞれ実習を行い、幅広い臨床技能を修得します。実習先の病院・診療科の選択と調整は、学生の自主性を尊重しています。海外の施設での臨床実習も可能で、毎年、数名の学生が参加しています。

※CBT: Computer Based Test 医学知識と問題解決能力を、コンピュータを用いて評価する試験
OSCE: Objective Structured Clinical Examination 態度・臨床技能を客観的に評価する試験

医学部の附属施設

▶ 医学部附属病院
電子カルテを含む病院情報システムや高度先端医療を支える最新鋭の診断・治療設備と優秀な教員・医師・医療技術職員・看護師によって高度医療を実施するとともに、優れた医師の養成と、先端医療の研究開発を行っています。

▶ 附属刀根山結核研究所
結核をはじめとする抗酸菌感染症における分子機序の解明、さらに、新規診断法や治療法の開発など、戦略的制圧研究に貢献しています。

▶ 医学情報センター
大学内外の研究者や医療関係者へ、医学・医療に関する最新情報を積極的に提供しています。

▶ 医療研修センター
医師や看護師をはじめ医療関係職員等が、より質の高い保健・医療の提供を目指し、多様な研修を行っています。

▶ 学術情報総合センター医学分館
医学雑誌・図書・マルチメディアを豊富に揃えています。

▶ 高度融合画像解析支援センター
最先端の画像解析・診断装置の高度活用を目指して、診療部門を越えた情報や技術の共有を実現し、装置の操作や画像の評価に関して支援を行う組織です。

附属病院

医学分館

医学部医学科の ココもCHECK!

子育てとキャリアアップの両立を目指して

女性医師や看護師などの女性医療人が、出産・子育てをしながらも仕事を継続できるように、病児保育室の開設や子育て中の女性医師の短時間勤務を実施し、「女性医師・看護師支援センター」が窓口となってそのマネジメントにあたっています。また離・退職した女性医療人に向けて復帰研修プログラムなども提供し、女性医療人を取り巻く社会への働きかけを行っています。

講義紹介

基礎・社会医学教育
分子病態学 徳永 文稔先生
修業実習

修業実習は、基礎医学の全科目修了後に実施されます。約3カ月間、基礎医学の教室・研究室に配属され、特定のテーマについて、基礎系教員の指導の下、研究に取り組みます。実習を通じて、自ら課題を発見し、適切な解決方法を導き出す研究態度の基礎を身に付けることを目的としています。

臨床医学教育
総合医学教育学 首藤 太一先生
臨床実習（外来型CC）

外来型CC※では、将来どの診療科でも必要な医療面接や診療記録を実践的に学びます。学生は外来部門で実習を行い、症例検討会で受け持った患者さんの症例について報告し、プレゼンテーションスキルを磨きます。本実習で修得したことをベースに、より専門的な臨床実習（5年次：ユニット型CC、6年次：選択型CC）に進んでいきます。

※CC…クリニカル・クラークシップ：診療参加型臨床実習

学部ごとの注目情報をお届け

TOPICS

スキルスシミュレーションセンター（SSC）

総合医学教育学・総合診療センター 首藤 太一先生

SSCは、医学・看護学生、研修医、看護師、ならびに全ての病院職員にシミュレーション医療教育を実施する施設で、さまざまな手技に関する講習会を定期的に開催しています。その中でも、学生がインストラクターを務める「AED講習会」は大変好評で、「学生たちの学習効果からみても有用」と多方面から評価されています。毎年、他学部学生や近隣住民、医学部を目指す高校生らも受講しており、学生が「Teaching is Learning」を体験する場となっています。

卒業生紹介

恵まれた環境の中、実践的な手技や深い知識が身に付きます。

本学では低学年のうちから臨床現場に触れる機会が多いです。臨床現場では採血など、患者様に侵襲的な手技を要する場面に遭遇します。恵まれたことに本学にはSSCがあり、納得のいくまで手技の練習をすることができます。臨床経験を積むことによって煩雑な座学への理解もより深まります。加えて非常に立地が良く、切磋琢磨する同志や先輩・後輩、先生方と輝かしい日々を過ごすことができます。本学での経験や得た知識、人脈は、かけがえのない財産です。充実したキャンパスライフを満喫し、皆様と共に働ける日が来ることを楽しみにしております。

医学部 医学科
2017年3月卒業
北川 大貴

大阪市立大学
医学部附属病院
消化器内科 前期臨床研究医

Q&A 6年間の学部を卒業すれば、すぐに医師になれるのですか？

学部を卒業後、医師国家試験に合格すれば、医師免許を取得することができます。医師免許により医療行為はできますが、臨床経験が少ないので、研修医療機関で2年間の初期臨床研修を行うことが必要です。さらに、後期臨床研修として専門医（内科系、外科系など）のコースに進むことにより、医師としての臨床経験を積みます。また、大学院へ進み、博士の学位を取得するコースを選択することもできます。

Q&A 高齢化社会に向けて医学部での取り組みは？

高齢化社会に対応して、老化の現象の研究、老年疾患の原因解明と治療法の開発を行うために、1998年に老年医学研究部門が開設され、2000年には老年医科学大講座となりました。老化に関する分子制御、免疫学、遺伝子制御、脳・神経系、生体調節物質などの基礎研究や高齢者に多い腫瘍疾患や循環器血管の病気の研究や認知症研究、専門教育を行っています。

School of Nursing

医学部看護学科

http://www.nurs.osaka-cu.ac.jp/nurs/
06-6645-3511

幅広い教養と高い倫理観を備え、豊かな心で人々の健康に寄与する。

学びの特長

洞察力と判断力に優れた、感受性豊かな看護職者を育成

看護学科では、幅広い教養と倫理的態度、豊かな人間性を兼ね備え、科学的思考に基づいた判断力や高度な実践能力を持った看護職者を育成する充実のカリキュラムを設置しています。

社会の変化に即した看護を学ぶ豊かな学習環境

高度医療や少子高齢社会に対応し、大阪市立大学医学部附属病院など多様な実習施設で学びます。学術情報総合センター医学分館やスキルスシミュレーションセンターなども利用できます。

時代に対応できる看護実践者・教育者・研究者を育成する研究科

看護学の学問体系を構築できる教育・研究者、看護の質を改善するための組織的指導を行う実践者を育成する大学院研究科への進学が可能。看護学の発展に寄与する力を養います。

Student Voice 在学生の声

臨床現場で役立つ実践的なスキルが身に付きました。

最先端の医療について附属病院での実習を通して実践的に学べるという環境が本学の魅力。医学科の学生とのチーム医療の授業もあり、臨床現場で役立つ知識と技術を確実に身に付けることができています。これらを生かし、患者さんやその家族に寄り添える看護師を目指しています。

看護学科 3年生 柳原（やなぎはら） 理子（りこ）
四天王寺高等学校卒業

Challenge of OCU 大阪市大の挑戦

女性が安心して子育てできる、健康に過ごせるための支援を考える

母性看護学領域 玉上（たまがみ） 麻美（あさみ）先生

少子高齢化の社会の中、晩婚化による高齢での出産や不妊治療などの医学の発展により、女性を取り巻く環境が大きく変化を続けています。社会や環境の変化が、妊娠することや子育てをすることにどのような影響を及ぼしているか、またどのような支援が求められているかを研究しています。助産師として、女性が安心して妊娠、出産、子育てができるために、また、看護者として患者さんやその家族が健康に過ごせるために何ができるかを探求し、女性と赤ちゃんそして家族に貢献したいと思っています。

Professor's MESSAGE
看護とは何か、
看護職者として何ができるのかを
ともに探求しませんか

Q&A

医学部看護学科では、どのようなことを学ぶのですか？

看護学科ではあらゆる人々が前向きに自立した生活をするための援助をします。講義・演習・実習を通して、豊かな教養と看護技術の基礎を修得し、それぞれの生活全体を捉えて、問題解決していくシステムや援助を具体化する方法を学びます。

Curriculum

1年次 学士課程
- 看護の基盤を学ぶ。早い段階から医療の現場を体験する。
- 全学共通科目
- 専門基礎科目
- 専門科目：看護学の基盤

2年次
- 専門科目：看護学の基盤

3年次
- 社会の医療ニーズに対応できるように看護の理論に基づき、看護職者としての必要な基礎力を養う。
- 専門科目：看護学の理論と実践 保健師教育課程選抜

4年次
- 看護の統合と発展について学ぶ。
- 専門科目：看護の統合と発展

学士（看護学）

看護師国家試験・保健師国家試験

大学院 看護学研究科

生命の尊厳と人間理解に基づき、複雑化・高度化する医療保健福祉分野における専門性の高い看護実践能力と看護の教育、研究能力を有する人材を育成します。

1・2年次 前期博士課程
- 生活看護学分野※1
- 臨床看護学分野※2

修士（看護学）

1~3年次 後期博士課程
- 生活看護支援システム領域※3
- 看護支援システム領域※4
- がん看護支援領域
- 慢性看護支援領域
- 看護支援基礎科学領域

博士（看護学）

※1：基礎、公衆衛生、老年、在宅　※2：がん・急性、慢性、精神、母性、小児、看護支援基礎科学　※3：基礎、地域、老年、在宅　※4：精神、母性、小児

Study Program

本学科では、高度医療および少子・高齢化社会に対応するために多様な実習施設を整備しています。大阪市内中心部という恵まれた環境を十二分に生かし、隣接する大阪市立大学医学部附属病院をはじめ、市内の保健福祉センター、地域包括支援センター、訪問看護ステーション等多くの施設で充実した臨地実習を行います。

専門科目

看護学の基盤
- 基礎看護学
- 臨地実習（早期体験実習／基礎看護学実習）

看護学の理論と実践
- 成人看護学
- 母性看護学
- 老年看護学
- 小児看護学
- 精神看護学
- 在宅看護学
- 公衆衛生看護学
- 臨地実習（各論実習）

看護の統合と発展
- 看護学研究方法論
- 国際看護論
- 統合看護実習
- 看護マネジメント
- 卒業研究

専門基礎科目
- 人間科学
- 健康基礎医学
- 保健社会学
- 医療援助学

医学部看護学科のココもCHECK!

卒業後の資格・進路

本学科の所定の単位を取得すれば、看護師と保健師*になるための国家試験受験資格が得られます。また、本学科を卒業した人は助産師学校への進学、養護教諭の養成課程や大学院への進学も可能です。
卒業生は、大阪市立大学医学部附属病院や国公立・私立の病院、保健センター、企業、学校等へ看護師や保健師として就職しています。看護師の国家試験の結果は、開設以来合格率ほぼ100%です。

＊保健師教育課程の履修は学内選抜による定員制

看護師国家試験	保健師国家試験
98.2%	95.0%
（全国平均89.3%）	（全国平均81.8%）

（2018年度卒業生実績）

講義紹介

老年看護学概論
白井 みどり先生

老年看護学を学ぶ最初の科目です。老年期の人々の健康や生活の特徴、ライフスタイルや環境を考慮した生活支援など、老年看護学の基本的な視点や考え方を学びます。高齢者施設の見学、リフトや車椅子などの福祉用具の体験なども行います。

公衆衛生看護学概論
横山 美江先生

この科目は専門科目群「看護学の理論と実践」に含まれ、3年次前期に学びます。地域で生活する人々の健康増進とQOLの向上に寄与する公衆衛生看護全般について学習します。また、公衆衛生看護の歴史的過程を踏まえて、公衆衛生看護における実践活動の理念と目的、課題を通して、公衆衛生看護学について理解を深めます。

学部ごとの注目情報をお届け

TOPICS

教育体制の特色

医学部看護学科・大学院看護学研究科では、充実した実践的な看護教育を行うために、大阪市立大学医学部附属病院看護部とユニフィケーションし、看護部に所属する看護師を「臨床特任講師」として採用し、教員と臨床特任講師による教育を行っています。臨床特任講師は、臨床の最前線で活躍する現役看護師ですので、学生は演習や実習を通して、看護の基本的な技術や先進医療を担う看護師の役割について学ぶことができます。

卒業生紹介

体系的な看護の学びや知識の積み重ねが現場での看護に生きています。

学生時代に、それまでは漠然と考えていた看護を学問として考えることを知り、系統だった知識体系という考え方に触れることができました。手術室で勤務を開始してからは学習内容の多さから、知識の整理が難しく感じたり、手術看護に戸惑うこともありました。しかし、働き続けていくうちに、看護学であるという基礎は変わらないということや、学生時代に触れることができた過去の知識の積み重ねであるという考え方が、目の前の患者様に良い医療を提供するために必要だと実感できています。今後も、この経験を大事にして看護に励んでいきます。

医学部 看護学科
2009年3月卒業
山本 達典

大阪市立大学
医学部附属病院
看護主任

Q&A 他の看護系大学とはどのような違いがありますか？

大阪市立大学は総合大学であるため、さまざまな学部の学生との交流が可能であり、人間・医療・看護について深く、広く学ぶことができます。また、さまざまな教育ニーズに応えるべく学士・社会人入試も実施しています。

Q&A 卒業後の資格や進路にはどのようなものがありますか？

本学の所定の単位を取得すれば、看護師と保健師になるための国家試験受験資格が得られます（ただし、保健師教育課程の履修は、学内選抜による定員制です）。また、本学を卒業した人は助産師学校や大学院への進学も可能です。

Faculty of Human Life Science

生活科学部

https://www.life.osaka-cu.ac.jp/
06-6605-2803

身近な暮らしや健康を科学し、人々の生活の質と幸福を考える。

学びの特長

人々の暮らしを科学的に研究する3学科の学び

人間生活と取り巻く事象を研究し、生活の質の向上と人間らしく生きるための条件を科学的に研究する生活科学という学問を、「食品栄養科学科」「居住環境学科」「人間福祉学科」の3学科構成で学びます。

食品栄養科学科　居住環境学科　人間福祉学科

実体験を通じて、現実社会への応用方法を学ぶカリキュラム

「生活」を科学するためには理論的考察にとどまらず、実体験を通して、現実社会へ応用していく方法を学ぶことが大切です。実験・実習・フィールドワークなど、学内外での実践の場を数多く用意しています。

幅広い視野で捉える力を養い、社会に還元する多様なプログラム

健康・環境・福祉の各分野において専門的教育と研究を行い、総合的な視野で捉える力を培います。グローバルな視野を養う国際交流や生活者の視点で地域貢献活動を行い、社会に還元しています。

Student Voice　在学生の声

人々の暮らしについて、本気で学べる学科です。

人の心や暮らし、生活を支える制度など、心理や福祉といった多様な視点からアプローチできる点が魅力です。社会保障制度を取り巻く課題について研究していくうちに、社会や人の考え方は想像以上に多様であることに気付きました。今後も学びを深め、実社会で生かせるよう知識を蓄えたいです。

人間福祉学科 4年生
貞広（さだひろ） 真幸（まさゆき）
東京都立三田高等学校卒業

Challenge of OCU　大阪市大の挑戦

食を介した健康寿命延伸へ、小さな生き物からの挑戦

食品栄養科学科　中台 枝里子先生

超高齢社会に突入した今、健康寿命の延伸は喫緊の課題です。私たちは、老化に伴うQOL（生活の質）の低下や免疫力低下を緩和するための食を介したサポートを目指して研究を行っています。老化の基礎研究モデルとして、体長わずか1mmほどの線虫C.エレガンスという生き物を使っています。小さな体ですが、ヒトの遺伝子のうち60-70%ほどを有し、餌を食べたら規則正しく排便をし、記憶や学習もできます。センチュウからヒトの健康寿命延伸へ、一緒に挑戦しませんか？

Professor's MESSAGE
食品の持つ力、
最新の科学で
一緒に解明してみませんか？

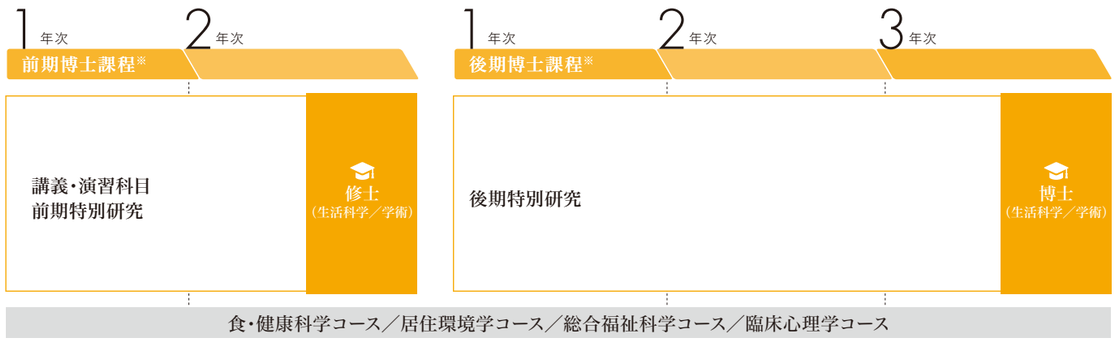
Q&A　食品栄養科学科の卒業後は？

健康増進のために食品栄養分野の専門家として活躍できます。所定の単位を修得すれば、卒業と同時に「栄養士免許」や「栄養教諭免許」、「家庭科教諭免許」を取得することができ、「管理栄養士」国家試験受験資格が得られます。これらの資格を生かして、病院、保健所、学校、その他各種施設で専門的な仕事に就くことができます。また、食品関連産業で活躍することや、「食品衛生監視員」になる道も開かれています。

Curriculum

大学院 生活科学研究科

4つの履修コースからなる生活科学研究科は、さまざまな生活問題を学際的、複合的に解明して解決することのできる、幅広い知識・能力と応用力を持った専門職業人と研究者の育成を目指しています。修了者はそれぞれの分野に関わる民間企業、研究機関、官公庁で活躍しています。



※：長期履修学生制度＝一定の条件を満たした場合、長期履修が認められることがあります。適用していない履修コースもあります。

Study Program

食品栄養科学科

バイオサイエンスを通じて健全な食生活とは何かを学び、食品と栄養に関する基礎的・実践的な知識を身に付けた「食」の専門家を目指します。食品の成分や栄養価などの特性に加えて、安全性の確保から調理と給食経営に至るまでを体系的に学び、食品の栄養素や機能を活用して、国レベルの健康増進施策からベッドサイドでの食事療法まで対応できる基礎能力を培います。消費者の立場から食品の利用と生産を考える能力、また疾病の予防や健康の維持・増進のための食生活を指導する能力を養います。

主な授業科目

【専門基礎科目】
- 食品有機化学
- 生化学
- 食品衛生学
- 食品機能化学
- 微生物学
- 公衆衛生学
- 食品学
- 調理科学
- 栄養生命情報学
- 解剖生理学
- 病態生理学
- 生体防御学
- 社会保健学
- 分子栄養学 等

【専門科目】
- 給食経営管理論
- 栄養生理学
- 応用栄養学
- 臨床栄養学
- 病態栄養学
- 栄養教育プログラミング論
- 公衆栄養学
- 栄養教育カウンセリング論
- 食品栄養情報学
- 学校栄養教育論 等

居住環境学科

居住空間を中心に生活機器やインテリア、まちづくりに至るまで、生活者の視点から企画・デザインし、かつ適切に維持管理できる専門家を目指します。文化・芸術から技術・設計に至るまで文科系・理科系という枠を越えた幅広い領域を網羅し、研究や設計の第一線で活躍する教授陣が豊富な講義・演習メニューを提供しています。所定の科目の履修により、卒業と同時に2級建築士の受験資格が、さらに卒業後実務経験2年で1級建築士の受験資格が得られます。

主な授業科目

- 居住環境学概論
- 色彩学
- 基礎デザイン実習
- 構造力学
- 建築一般構造
- 建築材料学
- 居住環境工学
- 建築設備
- 人間工学
- 防災・安全科学
- インテリア計画学
- 生活機器学
- 居住福祉工学
- 都市計画
- 住居計画学
- 住居管理・経営論
- 住文化史
- 住生活論
- デザインワークショップ
- CAD／CGデザイン演習
- プロダクトデザイン演習
- 環境システム設計及び実験
- 設計製図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- 学外セミナー 等

人間福祉学科

人間のウェルビーイングという視点から、個人・家族への心理的・福祉的支援の在り方、地域・社会の在り方について科学的に考察します。加えて、社会福祉士や公認心理師の国家試験受験資格取得に必要なカリキュラムを提供しており、行政機関・福祉施設・医療施設・コミュニティなど国内外のさまざまな実践現場で活躍できる人材を養成します。実習・演習では対人援助のコミュニケーション力を養うほか、実践を振り返り洞察していく力も重視しています。

主な授業科目

- 人間福祉学概論
- 社会福祉原理論
- ソーシャルワーク原論
- 社会保障論
- 児童福祉論
- 障害者福祉論
- 高齢者福祉論
- 公的扶助論
- 介護学
- 社会開発学
- 家族社会学
- 社会福祉権利擁護論
- 共生社会論
- 社会福祉行財政論
- 医療福祉論
- 社会調査法
- 地域福祉論
- ソーシャルワーク論
- ソーシャルワーク演習
- ソーシャルワーク実習
- 発達臨床心理学
- 発達心理学
- 感情・人格心理学
- カウンセリング
- 心理学的支援法
- 教育臨床学
- 心理的アセスメント
- 人間関係の心理学
- コミュニティ臨床心理学
- 心理学基礎実験
- 発達臨床心理学実習
- 心理アセスメント実習 等

生活科学部のココもCHECK!

QOLプロモーター育成による地域活性化

生活科学部では、従来取り組んできた生活科学各分野のスペシャリスト養成に加えて、俯瞰的視点を持ち、各生活要素を統合・再構成する能力を修養させるために、生活科学におけるジェネラリスト「QOLプロモーター」教育の充実を図っています。本学部の教育目的である「生活や社会の問題解決に有為な人材の養成」に資することが目的です。そのため、QOLプロモーション演習を中核として、本学部3学科の学生・教員が学部横断的に展開する教育プログラムを実施し、この取り組みを通じてQOLプロモーターの育成を行います。

講義紹介

設計製図Ⅱ
小伊藤 亜希子先生、松下 大輔先生、中野 茂夫先生

2年次の後期の設計製図実習で、小規模集合住宅「都市に住む」と、「地域に開かれた保育園」の2つの課題に取り組みます。そこに住む人や使う人がどのような生活や活動を展開するのかを想定し、それを保障する空間を計画することを大切にしています。その成果を発表する学生の自主展覧会「芽流展」は、今年で14回目を数えます。

家族社会学
松木 洋人先生

日本の家族は、現在、過渡期の中にあります。共働きのカップルが増えたり、結婚しない人や結婚しても子どもを持たない人が増えたりすることによって、かつては「当たり前」だった家族の姿はゆっくりと「当たり前」ではなくなっています。家族社会学の講義では、これからの新しい日本の家族の姿を考えます。

TOPICS 学部ごとの注目情報をお届け

地域に開かれた 心の育ちに寄り添う心理臨床室

本学生活科学研究科には発達心理学や臨床心理学に基づき、さまざまな心の問題の解決過程を共にする、地域に開かれた心理臨床室があります。1950年代より「児童相談室」「児童・家族相談所」と名称を変えながら、大阪市・近隣都市の市民への発達支援や心理相談を行い、私たちの心や、家族が本来持っている成長のエネルギーを回復する場を提供してきました。このような地域貢献活動は2017年度150回以上の個人心理面接と500回を超えるグループ面接に及んでいます。臨床心理学の基礎研究機関としての役割だけでなく、心の専門家を目指す大学院生の専門職養成施設として、多くの人材を社会に送り出しています。

心理臨床室

卒業生紹介

幅広い領域で活躍する在学中の仲間や教授とのつながりが、一生の財産です。

本学では「住まい」や「まちづくり」について、生活にかかわるさまざまな実践的な学びがあります。建築家を相手にしたプレゼンテーションや、手仕事の跡が残る手書きでの設計製図など、自らの手を動かし得た知識は、実感を伴い身に付きました。卒業後はこれらの経験を生かし建築士として活躍しています。時には同志と知見を交換しながら、自らが世に発信した成果を議論し、切磋琢磨しています。学ぶ領域が幅広いため、多様な分野で活躍する卒業生や教授・建築家の方々と今でも交流を持てることは一生の財産です。本学で学び、自らの手で将来の道を切り開いてください。

生活科学部
居住環境学科
2014年3月卒業
春田 滉弥

大和ハウス工業株式会社
企画開発設計部
ホテル・高層建築グループ

生活科学部

Q&A 居住環境学科ではどのようなことが学べるのですか？

住まいを中心とする居住環境の計画、管理に関する理論をはじめ、新しい技術を研究開発する実験、居住環境等のフィールドワーク、デザイン・センスを磨く制作実習や設計製図など幅広いジャンルの講義や演習が提供されています。自分に最も適した専門分野を選択して居住環境を創造する能力を養うことができます。教員とのマンツーマンによる卒業研究・制作では、専門知識の応用力を磨きます。

Q&A 人間福祉学科で取得できる資格は？また、就職先は？

国家資格である「社会福祉士」の受験資格を得ることができます。大学院に進学すると、「臨床心理士」の受験資格なども取得できます。また、「公認心理師」受験資格に必要なカリキュラムを提供しています。卒業後は、公務員として児童相談所、福祉事務所、家庭裁判所などに勤めたり、ソーシャルワーカー、発達相談員、カウンセラーなどとして、病院、各種の相談機関、高齢者・障がい者福祉施設などで活躍したりしています。

Graduate School of Urban Management

都市経営研究科

http://www.gsum.osaka-cu.ac.jp/
06-6605-3508

都市の課題解決を探る
高度な専門家やリーダー、実務型研究者の道へ。

学びの特長

都市の課題解決を支援する人材を養成

1

付加価値の高い地域再生政策が求められる昨今、行政運営の課題、人材育成、法や制度の設計の研究が必要になっています。また、AIなど新産業の振興や医療・福祉の経営改善などの研究を深めます。

市大で培われた社会人大学院の参加型システムを継承

2

交通至便な梅田サテライトで開講し、平日夜2日と土曜だけで修了可能です。参加型科目が多く、ワークショップ→課題演習等→研究指導(論文作成)の3段階で構成されています。※

多種多様で新しい専門科目群を用意

3

まちづくり、地域再生、マーケティング、公民連携／PFI、公共経営、都市計画、アートプロジェクト、都市行政、法務、ベンチャー、AI、医療、福祉など、多様な研究に対応した科目群を用意しています。

コース編成※ | ① 都市政策・地域経済コース　② 都市行政コース　③ 都市ビジネスコース　④ 医療・福祉イノベーション経営コース

※ 博士前期(修士)課程

Student Voice 在学生の声

行政施策について多角的に見識を深め、新たな地方自治の在り方を考えています。

自治体における行政の在り方について、行政・市民・政治家とさまざまな角度から考察。全国の行政施策の最新事例を学びながら、いかにサスティナブルな街づくりを行うかについて研究を深めています。ここで得た生きた知識とノウハウを、新たな施策実現へと結びつけることが目標です。

都市行政コース 修士2年生
飯阪(いいさか) 光典(みつのり) 和泉市議会議員

Challenge of OCU 大阪市大の挑戦

地方行政が果たす役割

都市行政コース **髙野 恵亮**先生

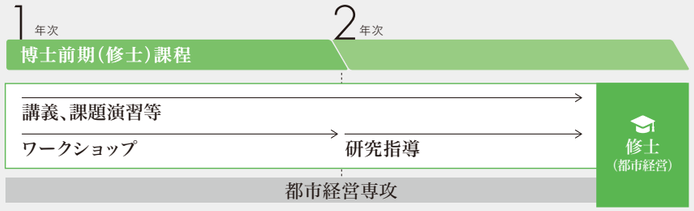
博士前期(修士)課程の2年間というものは、長いように見えてあっという間に過ぎていきます。本課題演習では、修了論文執筆を見据え、各院生が地方行政に関連する諸課題について論点を提示するとともに、各院生により示された研究テーマについて院生相互で議論を行うことを通じて、それぞれの研究課題に関する理解を深化させていきます。

Professor's MESSAGE

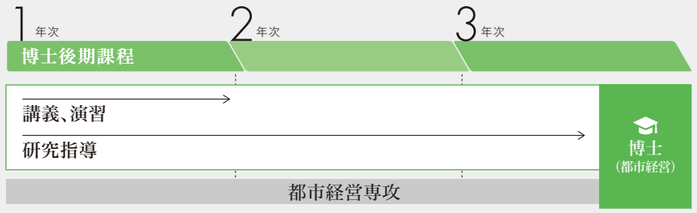
福祉、教育、まちづくり。
都市の暮らしを支える
行政の仕組みを理解する。

Study Program

世界的に「都市の時代」が到来していますが、先進国では、人口の減少、高齢化、産業の空洞化が同時進展し、公共需要はますます増大するにもかかわらず、財政が緊迫する「都市の危機の時代」となっています。これには「クリエイティブでスマートな解決」が必要で、革新(イノベーション)と持続可能性(サスティナビリティ)が求められます。博士前期(修士)課程では、参加型授業(ワークショップ、演習、研究指導)等を通じて、都市の課題解決ができる高度専門職、指導的人材や実務的研究者を養成します。



2020年度から開設予定の博士後期課程(文部科学省設置届出済)では、行政、NPO、プランナー、ビジネス、医療・福祉などの市民公益活動等の主要なセクターに属する人々が、新しい知見を開拓し、さらにそれを体系化・学術化・深化させるような、高度な企画立案能力と研究能力を涵養し、創造的で高い倫理的識見を備えた実務的研究者を養成します。講義、演習、研究指導の3ステップで、論文作成能力を涵養します。



講義紹介

地方行政学
髙野 恵亮先生

現代社会において生活する上で、行政活動が提供するさまざまな公共サービスは必要不可欠です。本講義では、教養ある市民として、地方行政の役割や課題を理解するとともに、よりよい行政の在り方を考える力を身に付けるために、地方行政の制度や歴史、中央地方関係、地方分権、市民参加などの論点について学んでいきます。

Graduate School for Creative Cities

創造都市研究科(募集停止)

創造都市研究科は、都市経営研究科の前身となる研究科であり、2003年の開設以降、社会人を中心に千人を超える修了生を輩出してきました。現在では、博士(後期)課程を中心に教育が行われています。
※修士課程は2017年度に、博士(後期)課程は2019年度に入試を終了しています。

広く、深く、自発的な学修でさらに自らを磨きたい学生のために

副専攻プログラム

グローバル・コミュニケーション副専攻
(GC副専攻:Global Communication minor)

グローバル・コミュニケーション副専攻(GC副専攻)は、入学した学部・学科で主専攻をしっかり学びつつ、もっと英語(外国語)で学べるようになりたいと考えている、意欲ある中〜上級者のためのプログラムです。

GC副専攻の受講者は、できるだけ早いうちに海外研修に参加することが求められます(必須)。GC副専攻の正式登録者に対して、カナダのビクトリア大学のグローバル研修「GC_Int」(2年次夏休み実施)が用意されています。「GC_Int」に参加し、グローバルな視点から学修することにより、英語のスキルをバランスよく伸ばすことができます。また、「GC_Int」以外にも、本学にはさまざまな交流協定先への研修プログラムがあり、積極的な参加が求められます。

ビクトリア大学ELC(English Language Centre)外観

コミュニティ再生副専攻
(CR副専攻:Community Regeneration minor)

5分野から地域の「再生・賦活」「安全・安心」の達成にアプローチする

コミュニティ再生副専攻(CR副専攻)は、都市や地域社会が抱える多様化・複合化した課題に向き合い、その解決の方策や理論を、学部の枠を超えて学生が教員とともに、実際の現場で学修するプログラムです。積極的に地域社会をデザインしたりコーディネートする知識・行動力を備えた人材の育成を目指しています。CR副専攻は、「地域実践演習」「アゴラセミナーⅠa/Ⅰb」「アゴラセミナーⅡ」「CR認定専門科目」の科目群から成り立っており、「地域活性」「環境・防災」「地域福利」「地理・空間」「地域・文化資源」という5分野の視点に立って授業が展開されます。

授業の流れ

地域実践演習では、まず地域に飛び込み、その地域の課題を自分たちの目・耳で識ることから始まり、その課題に対して、正面から取り組む姿勢や方法を学びます。授業は、複数の分野から一つを選択します。
(1・2年次/共通教育科目)

アゴラセミナーⅠa/Ⅰbでは、広く5分野全ての現場に赴き、「すごい人やすごい現場に出会う」ことを出発点に、実践家の多彩で卓越した活動に間近で接しながら、交流や意見交換を重ねて課題を明確化していきます。
(2年次〜)

アゴラセミナーⅡでは、CR副専攻での学びの集大成として、学生自身が地域課題・テーマを設定し、課題解決に向けて調査や活動を行い、現場との接し方やアウトカムの出し方、社会への伝え方を身に付けていきます。
(3年次〜)

CR認定専門科目では、大阪市立大学の各学部・学科で開講されている「地域」に関連する専門科目を、学部の垣根を越えて、幅広く学ぶことができます。これにより、地域課題解決の専門的知識を習得します。

教員研究テーマ 一覧 (2019年4月1日現在)
Research Fields

ここでは、教員の研究テーマを学部ごとに紹介します。興味ある研究テーマを探すための参考にしてください。

商学部・経営学研究科

中瀬 哲史
日本電力産業経営史、大阪を中心とした産業集積地域の歴史的考察

石井 真一
企業間提携に関する研究

小林 哲
マーケティング理論・戦略論

高田 輝子
大規模金融データ解析:群衆行動解析と相転移予測

翟 林瑜
企業の財務政策と資本市場

清田 匡
ドイツの金融実務と金融理論の発展、地域経済と地域金融

高橋 信弘
ソフトウェア産業における海外へのアウトソーシング

本多 哲夫
地域・中小企業の発展と自治体政策

鈴木 洋太郎
多国籍企業の立地展開と国際分業

藤井 輝明
社会集団分布の形成と個別主体の遷移確率

向山 敦夫
企業の社会環境情報開示の理論と実務(社会環境会計論)

石川 博行
会計情報と株価の関連性に関する理論的・実証的研究

浅野 信博
ディスクロージャー行動の経済的影響

田口 直樹
産業技術発展と産業競争力に関する研究

田村 晃二
マーケティング・チャネル行動の動態に関する実証・理論研究

卜 志強
原価管理と業績管理に関する研究

宮川 壽夫
コーポレートファイナンス理論に関する実証的研究

山田 仁一郎
事業創造の経営戦略と企業統治、アントレプレナーシップと人材育成

除本 理史
地域環境政策、環境再生のまちづくり、環境被害の責任と費用負担

吉村 典久
コーポレート・ガバナンス(企業統治)の制度・実態・規範に関わる研究

小形 健介
グローバル経済下の会計規制に関する研究

小沢 貴史
市場環境のダイナミクスと戦略・組織

李 捷生
日本企業と中国企業の経営と労使関係に関する研究

王 東明
中国の資本市場に関する研究

藤塚 吉浩
大都市衰退地区の再生に関する研究

立見 淳哉
産業集積地域の発展と制度・慣行の役割に関する研究

松永 桂子
地域経済、都市と地方の持続発展に関する研究

岡野 浩
グローバル企業における製品開発マネジメントの欧州・アジア展開、アメーバ経営

神野 光指郎
アメリカの金融システムの歴史

廣瀬 喜貴
公会計におけるテキスト分析および実験研究

牧 良明
日本自動車産業の歴史的発展過程に関しての研究

圓丸 哲麻
小売市場における消費者行動、コミュニティ消費

王 亦軒
人的資源管理と組織

経済学部・経済学研究科

中嶋 哲也
経済成長理論および不況理論の研究

岡澤 亮介
マクロ経済学の制度と経済成長、公共選択論

北原 稔
応用ミクロ経済学

中島 義裕
理論・実証・計算機実験による市場の進化的理解

森 誠
分配、投資行動と資本主義経済の成長

中村 英樹
国内不平等、機械化の影響

中川 満
単位根分析に対する構造変化の影響に関する研究

若森 みどり
カール・ポランニー研究、現代社会経済思想、経済思想史

中村 健吾
マックス・ヴェーバー研究、欧州統合と国民国家、シティズンシップと人権

齋藤 幸平
「資本論」研究、環境政治経済学

杉田 菜穂
日本を中心とする人口問題と社会政策の歴史研究

塩谷 昌史
ロシア地域研究、近代統計制度の比較経済史

C・ウェザーズ
日本と欧米の雇用制度と政治経済の比較研究

福原 宏幸
失業・非正規雇用、貧困および社会的排除についての研究

松本 淳
公的年金制度改革、年金課税、日本の社会保障制度と租税制度の関係について

柴田 淳
生産から消費に至るまでの分業と価格形成メカニズムの分析

辻 賢二
金融契約に関する理論モデル分析

坂上 茂樹
技術史論に基づく産業技術論

小川 亮
地方財政および都市・地域経済に関する実証研究

浦西 秀司
公益事業の規制政策に関する計量分析

滋野 由紀子
日本経済と家計行動の相互関連

高塚 創
空間経済の諸問題に関する研究

朴 一
朝鮮半島地域研究、日韓・日朝関係論、国際労働移動及び移民労働者に関する実証研究

彭 浩
海外貿易と国内の産業構造の相互関連、貿易制度・商人組織の史的研究

森脇 祥太
アジア諸国を対象とした経済発展の比較研究

久保 彰宏
国際マクロ経済分析

岩波 由香里
国際制度を通じた国家間協力に関する国際政治経済分析

有賀 敏之
多国籍企業・グローバル企業、国際貿易体制に関する研究

金子 勝規
タイ地域研究、ASEAN経済論、社会開発および社会福祉に関する実証分析

法学部・法学研究科

阿部 昌樹
法実現過程の経験的研究、法の社会理論

安竹 貴彦
近世における江戸法・大坂法の比較研究、明治初年の刑事法・刑事訴訟

渡邊 賢
出入国管理行政と外国人の人権・公務員の労働基本権

阿部 和文
憲法(特にプレスの自由)

重本 達哉
行政代執行をはじめとする伝統的な行政上の義務履行確保制度の現代的意義、墓地埋葬法

高田 倫子
裁判所による行政統制、権力分立における裁判所の地位

三島 聡
警察活動の透明性、裁判員裁判の評議

金澤 真理
中止未遂論、社会内処遇制度の比較研究

徳永 元
刑事責任の基礎理論、適法行為の期待可能性論

松倉 治代
自己負罪拒否特権、供述拒否権

高橋 眞
安全配慮義務、損害賠償法、担保法の研究

森山 浩江
契約法および家族法

杉本 好央
日独仏契約法制の歴史的研究

藤井 徳展
ヨーロッパ諸法を対象とした契約法・担保法の比較法研究

坂口 甲
日独給付障害法研究

青井 敦子
企業統治および金融法の比較法研究

高橋 英治
日独会社法の比較研究、企業結合法の研究、コーポレート・ガバナンスの比較法的研究、ヨーロッパ会社法の研究

小柿 徳武
企業統治における監査および開示制度

鶴田 滋
民事訴訟における多数当事者訴訟・訴訟追行権・判決効に関する研究

岡成 玄太
財産管理と民事手続法、当事者論

根本 到
日独労働契約法の研究

川村 行論
年金法制における資産管理・運用の法規範

桐山 孝信
国際組織の活動が国際法の発展に及ぼす影響

国友 明彦
法適用通則法の解釈、国籍法

勝田 卓也
陪審制度、米国最高裁判例研究

守矢 健一
ドイツ近現代法史研究

王 晨
民法の比較研究、中国法全般

稗田 健志
先進民主主義諸国の政治経済・社会保障政策

宇羽野 明子
ルネサンス・初期近代のヨーロッパ政治思想史

野田 昌吾
戦後ドイツの政治体制

永井 史男
東南アジアの国際関係、東南アジア諸国の中央・地方関係、タイの政治行政

手塚 洋輔
過誤と帰責をめぐる政治行政分析、戦後行政の史的研究

原田 裕彦
租税法律主義の自由主義的側面

教員研究テーマ 一覧 Research Fields

文学部・文学研究科

哲学歴史学

仲原 孝
宗教学、宗教哲学、西洋近代哲学史

高梨 友宏
近現代ドイツ美学、近代日本の芸術論

土屋 貴志
倫理学、医療倫理学、人権問題研究、道徳教育論

佐金 武
分析哲学、形而上学、時間論

塚田 孝
近世の都市史、身分制

仁木 宏
中世の都市史、地域社会論

岸本 直文
古墳時代史

佐賀 朝
近代大阪の都市社会史

磐下 徹
日本古代史（郡司制度の研究、古記録の註釈）

平田 茂樹
中国近世の政治史・社会史

野村 親義
近現代インド経済史

渡辺 健哉
中国近世・近代の都市史、文化史

上野 雅由樹
オスマン帝国史

北村 昌史
近現代ドイツ社会史

草生 久嗣
ビザンツ帝国宗教史

向井 伸哉
中世フランス史、村落史、国制史

人間行動学

進藤 雄三
理論社会学・医療社会学・家族社会学

石田 佐恵子
文化社会学、映像社会学、メディア文化研究

伊地知 紀子
生活世界の社会学、地域社会学、朝鮮地域研究

川野 英二
社会政策の社会学、比較社会学

笹島 秀晃
都市社会学、文化社会学、歴史社会学

池上 知子
社会心理学、社会的認知、社会的アイデンティティと偏見

山 祐嗣
認知心理学、思考と推論、認知と文化

川邉 光一
生理心理学、学習・記憶を中心とした高次認知機能の脳内機構

佐伯 大輔
学習心理学、行動分析学、意思決定

添田 晴雄
比較教育学、教育メディアとしての音声・文字の研究

柏木 敦
日本教育史、教育制度政策史

森 久佳
教育方法学、カリキュラム論、教師論

辻野 けんま
教育経営学、学校経営・教育行政論

島田 希
教育方法学、授業研究

大場 茂明
都市地理学、ドイツ地域社会

水内 俊雄
都市社会地理学、政策支援NPO研究、近現代都市研究

山﨑 孝史
日本および沖縄に関する政治地理学的研究

祖田 亮次
人文地理学・東南アジア地域研究

木村 義成
地理情報システム・疫学研究

言語文化学

丹羽 哲也
日本語文法、主として現代語

小林 直樹
中世文学、主として説話伝承

久堀 裕朗
近世文学、主として人形浄瑠璃

奥野 久美子
近代文学、主として芥川龍之介を中心とする大正期文学

山本 真由子
中古文学、漢文学、和歌の研究

岩本 真理
現代中国語文法、中国語文法史・語彙史、および呉語の研究

張 新民
映像文化を中心とする近現代の文化論

大岩本 幸次
近世を中心とした音韻論

杉井 正史
イギリス演劇と文化、英米比較文化

田中 孝信
19世紀イギリス文学と文化、特にヴィクトリア朝小説

イアン・リチャーズ
英語圏の文化研究

古賀 哲男
20世紀アメリカ文学・文化、批評理論

豊田 純一
認知言語学、歴史言語学、文化人類学

高井 絹子
20世紀ドイツ文学

長谷川 健一
18・19世紀のドイツ文化・文学

福島 祥行
コミュニケーション論、会話分析、言語教育学、劇場論

白田 由樹
19世紀末フランス文化、文学

原野 葉子
20世紀フランス文学および文化研究

文化構想学

野末 紀之
イギリス19世紀末文化研究、文体論

高島 葉子
ケルト文化圏研究、物語文学の比較研究

増田 聡
ポピュラー音楽研究、著作権論

海老根 剛
文化理論、映画論、近現代ドイツ研究

松浦 恆雄
中国近現代の文学と演劇

多和田 裕司
文化人類学、マレーシアの地域研究

堀 まどか
国際日本研究、比較文学研究、境界者の文学

小田中 章浩
フランス演劇、比較演劇

菅原 真弓
日本美術史、文化資源学

天野 景太
観光学、観光文化論、都市社会文化論

野崎 充彦
朝鮮古典文学および文化史(民俗信仰など)に関する研究

理学部・理学研究科

数学

秋吉 宏尚
双曲幾何と3次元多様体論

阿部 健
偏微分方程式論

大仁田 義裕
微分幾何学、調和写像論

尾角 正人
可積分系と表現論

加藤 信
大域解析学（多様体の幾何解析）

金信 泰造
結び目理論

小池 貴之
複素幾何学、多変数函数論

佐野 昂迪
L関数の特殊値と岩澤理論

高橋 太
変分法、非線形偏微分方程式論

田丸 博士
等質空間の微分幾何学

西尾 昌治
ボテンシャル論

橋本 光靖
可換環論と不変式論

瀬野 佐知子
複数解析、多変数関数論

古澤 昌秋
保型表現と保型L函数

枡田 幹也
変換群の幾何学

宮地 兵衛
Hecke環の表現論と圏化

山名 俊介
モジュラー形式とL関数

吉田 雅通
エルゴード理論、力学系に基づく作用素環論

物理学

石原 秀樹
相対論的宇宙物理学

糸山 浩
場の量子論および弦理論

中尾 憲一
重力理論および宇宙論

櫻木 弘之
原子核理論：核反応理論、核物質中の有効相互作用

浜端 広充
プラズマ中の非線形磁気流体波と乱流

有馬 正樹
クォーク模型とハドロン間相互作用

丸 信人
超対称性、高次元理論に基づく標準模型を超える物理

森山 翔文
弦理論とゲージ理論の数理

神田 展行
重力波検出実験、重力波宇宙物理学

清矢 良浩
高エネルギー物理学、ニュートリノ・ミューオンの物理

荻尾 彰一
高エネルギー宇宙線物理学、高エネルギー天文学

山本 和弘
ニュートリノ物理、ミューオン物理、陽子・反陽子物理

中野 英一
素粒子実験物理、宇宙線観測

常定 芳基
超高エネルギー宇宙線物理学

岩崎 昌子
素粒子実験物理学

伊藤 洋介
重力波宇宙物理学・天文学

石川 修六
超低温物理学：量子液体の相転移現象と量子渦

坪田 誠
物性理論：量子流体

小栗 章
物性理論：電子系の多体効果、量子輸送

井上 慎
量子エレクトロニクス実験：レーザー冷却とボース凝縮

矢野 英雄
超低温物理学：量子液体の相互作用と位相欠陥

杉﨑 満
時間と空間の極限で陽になる物理現象の探索

鐘本 勝一
有機半導体の光・スピン・デバイス物性

小原 顕
超低温物理学：量子液体中の音波の伝播

西川 裕規
物性理論：強相関電子系、量子輸送

竹内 宏光
量子流体力学：量子気体および
量子液体の流体静力学と流体動力学

化学

佐藤 和信
分子性有機磁性化合物の電子状態、新しい電子磁気共鳴分光法の開発、分子スピン量子コンピュータの開発

手木 芳男
分子磁性と有機スピン系の光励起状態および分子素子の研究

細川 千絵
光誘動による細胞内分子機能の解明

八ッ橋 知幸
高強度超短パルスレーザーと分子との相互作用

迫田 憲治
光の量子性を取り入れた顕微分光法の開発と
複雑分子系への応用

塩見 大輔
結晶性有機固体の磁性・磁気共鳴

宮原 郁子
タンパク質の立体構造と機能

吉野 治一
低次元伝導体の輸送現象と高効率熱電材料の探索

豊田 和男
分子の磁性・励起状態に関する理論化学・計算化学

藤原 正澄
量子ナノフォトニクスに立脚した
革新的分子機能計測法の開拓とその応用

小嵜 正敏
高機能精密巨大分子の創出

佐藤 哲也
触媒を用いた有機合成反応の開発

品田 哲郎
高度生体応答物質の合成研究

西村 貴洋
触媒的不斉合成反応の開発

森本 善樹
合成有機化学・天然物有機化学

白柄 克之助
生物有機化学：生物活性物質の構造決定・合成・機能解析

坂口 和彦
反応活性種の設計・制御と分子変換法の開発

舘 祥光
生体の機能解明と分子構造の精密制御による
機能分子の創成、開発

西川 慶祐
高活性天然有機化合物の合成と新規合成手法の開発

保野 陽子
生体機能制御分子の合成とケミカルバイオロジー研究

篠田 哲史
分子認識素子の開発と機能

坪井 泰之
ナノ・マイクロ分析化学・分光計測とプラズモニクス

中島 洋
金属タンパク質を基盤とする機能性材料の開発

森内 敏之
ハイブリッド錯体システムの創成

西岡 孝訓
機能性錯体および無機材料の設計

三宅 弘之
動的超分子錯体の創成と機能化

板崎 真澄
遷移金属錯体による分子変換反応の開発

東海林 竜也
非平衡開放系における分子の顕微分光分析

三枝 栄子
分子認識素子の集積化と機能性材料の開発

生物学

寺北 明久
シグナル伝達タンパク質の構造と機能の多様性

増井 良治
DNA修復と翻訳後修飾の分子機構

伊藤 和央
酵素の構造・機能相関と調節およびその応用

藤田 憲一
薬剤耐性機構を標的とする生理活性物質

小柳 光正
光受容タンパク質の構造と機能の多様性

山口 良弘
細菌におけるアポトーシス様細胞死の生理的役割

保尊 隆享
植物の成長調節および環境応答機構

宮田 真人
モリクテス綱細菌における三種の運動メカニズムとその起源

中村 太郎
分裂酵母における有性生殖の分子メカニズム

小宮 透
動物発生の分子生物学

若林 和幸
植物細胞壁の構造と機能

曽我 康一
環境要因による植物の成長と形態形成

水野 寿朗
中胚葉誘導における細胞間相互作用

藤原 郁子
細胞骨格のダイナミクス

幸田 正典
脊椎動物の行動生態学と認知行動学

伊東 明
植物の更新過程と多種共存機構

後藤 慎介
動物の季節適応の生理学

山田 敏弘
植物の進化発生学と古植物学

植松 千代美
花の色と形の分子生物学

名波 哲
植物の性表現と個体群維持機構

安房田 智司
魚類の繁殖戦略についての行動生態学的研究

潤渭 太郎
動物社会のリズム生態学

厚井 聡
植物の多様性と適応進化

地球学

升本 眞二
地質情報の定式化と表現方法

山口 覚
地震発生域（断層・スラブ周辺）の構造・状態

三田村 宗樹
都市地質学：大阪平野の地盤特性

原口 強
地質工学：地質災害とヒューマンインパクト

井上 淳
第四紀地質学：人と自然の相互関係史

根本 達也
地質情報の共有と利活用方法

益田 晴恵
地殻表層部の水循環に伴う物質移動

江﨑 洋一
地球環境変遷史：化石刺胞動物の系統

篠田 圭司
X線回折法と分光法を用いた鉱物の研究

奥平 敬元
地殻ダイナミクス：下部地殻の変成・変形作用

柵山 徹也
マグマ生成・分化とマントル熱・物質循環過程

足立 奈津子
礁生態系の変遷様式と地球表層環境の変動

工学部・工学研究科

機械物理系（機械工学）

西村 伸也
ソーラークーリング、ヒートアイランド対策技術の開発など
環境熱工学に関する研究

伊與田 浩志
過熱水蒸気および高湿度空気の高度利用研究
（湿度制御、乾燥、食品加工など）

加藤 健司
表面張力が関わる流動現象、流動抵抗を抑制した
高効率伝熱促進法の開発

脇本 辰郎
界面活性剤溶液の特異流動および波力発電システムの開発

川合 忠雄
機械システムの評価・診断に関する研究

今津 篤志
福祉ロボット、動力学を利用したロボットなどの研究

金崎 順一
光に対する物質の応答、
時空間極限光計測・精密光加工技術の開発

川上 洋司
微生物と材料の相互作用

瀧山 武
自動車パワートレイン統合制御による燃費と排出ガスの最適化

高田 洋吾
アクアロボットや橋梁検査ロボットの開発、
ロボットのモデリングや血流の数値解析

逢坂 勝彦
複合材料／高分子材料のヘルスモニタリング、
複合材料の接着接合

中谷 隼人
炭素繊維複合材料構造の損傷許容性評価およびスマート化

山崎 友裕
超音波による複合材料の損傷評価、
探傷用電磁超音波センサの開発

大島 信生
磁気粘性流体を用いた制振技術、複合材料の知的成形技術の開発

兼子 佳久
ナノ多層膜、先進走査型電子顕微鏡法、
超微細粒組織制御、金属疲労

内田 真
不均一変形の評価とモデル化、
材料の階層性に基づく力学特性の解明

横川 善之
ミクロからメソサイズの構造を制御したセラミックスおよび
医用・歯科材料、環境材料の開発

電子情報系（電子・物理工学、電気情報工学）

重川 直輝
半導体新機能デバイスの構成・作製と
パワーエレクトロニクス応用開拓

武智 誠次
高速・高エネルギー粒子検出器の開発

白藤 立
新規プラズマ生成法の開発とその材料プロセシングへの応用

村治 雅文
電気を用いた生体情報計測

田中 健司
電界発光素子、複合構造薄膜の生成と応用

中山 正昭
半導体量子構造とナノ薄膜における
光と物質の相互作用と光機能性

竹内 日出雄
超高速分光を用いた半導体物性物理の解明と
テラヘルツ電磁波特性の制御

福田 常男
物質表面での機能制御と新規デバイス創製

菜嶋 茂喜
ミリ波から赤外光領域までの
広帯域電磁波計測システムの開発と応用

小林 中
イオン化過程および電子放出過程における電子スピン制御

金 大貴
半導体ナノ粒子・酸化物薄膜の作製とその光機能性

寺井 章
低次元電子系の量子相転移および非線形光学応答

杉田 歩
量子カオスと量子情報

梁 剣波
表面活性化接合法により作成するワイドギャップ半導体とナローギャップ半導体からなるヘテロ接合の基礎的物性解明と
パワーデバイスへの応用

呉 準席
プラズマ計測に基づいた低温大気圧プラズマを用いた材料プロセス、バイオ、農業、医療に関する研究

宮崎 大介
三次元ディスプレイ、三次元計測、光情報処理、生体光計測

辻本 浩章
マイクロマシン、マイクロ電磁デバイス、生体電気情報計測

仕幸 英治
磁気工学およびスピントロニクスを用いたデバイス創製に関する研究

蔡 凱
ネットワークシステムの分散制御理論に関する研究

高橋 秀也
3次元画像入出力、ウェアラブルコンピュータ、ヘッドマウントディスプレイ、医用画像など生体モニタリングシステム、医用システム

教員研究テーマ 一覧 Research Fields

吉本 佳世
生体モニタリングシステム、医用システム

林 和則
統計的信号処理、スパースモデリング、確率推論、有線・無線通信

中島 重義
遺伝的アルゴリズム、神経回路網、画像認識、
加速度センサの医療応用

田窪 朋仁
自律移動ロボット、移動マニピュレーション、UAV、脚ロボット

上野 敦志
人工知能、ロボットの学習

岡 育生
無線および光通信における高能率符号化方式ならびに変復調方式

阿多 信吾
高速データ転送、トラヒック計測、ネットワーク、性能評価など

原 晋介
無線通信システムにおける信号処理応用

杉山 久佳
災害救助用群ロボットシステム、電力パケットネットワーク

辻岡 哲夫
無線・光通信方式、誤り訂正符号、コンピュータネットワーク

大西 克実
ネットワーク環境上の計算機を効率的に利用することに関する研究

吉田 大介
空間情報を対象としたWebサービスとクラウド情報基盤に関する研究

安倍 広多
分散システムと基盤ソフトウェアに関する研究

石橋 勇人
分散システムとネットワークに関する研究

村上 晴美
情報検索、人工知能、ユーザインタフェースに関する研究

永田 好克
地理情報システムを活用した
タイ国北東部農村の変容に関する研究

化学生物系(化学バイオ工学)

山田 裕介
活性点構造が明らかな固体触媒材料の研究

有吉 欽吾
新規蓄電材料の研究と次世代蓄電池への応用

畠中 康夫
光学活性触媒の開発と触媒的不斉合成への展開

南 達哉
分子触媒を用いる有機合成反応の研究

辻 幸一
X線・電子線を用いた微小部・微量・元素分析法に関する開発研究

米谷 紀嗣
高温高圧流体の特性、反応、光化学に関する研究

堀邊 英夫
ポリマーアロイや感光性高分子に関する研究

佐藤 絵理子
高分子の精密合成と高機能・高性能有機材料への展開

小畠 誠也
光機能材料の設計・合成・物性評価に関する研究

北川 大地
フォトクロミック分子を用いた光機能材料の創生

北村 昌也
補因子結合タンパク質の構造機能相関、
有用物質の遺伝子工学的生産

中西 猛
高機能人工抗体の開発研究

五十嵐 幸一
医薬等の結晶化技術・バイオマス

長﨑 健
バイオポリマーをベースとする医用材料の創製

東 秀紀
天然生理活性物質の合成とその応用

立花 亮
核酸医薬の開発、エクソソーム医薬の開発

東 雅之
有用細胞の構築とバイオ産業への展開

立花 太郎
バイオ医薬品の創製

尾島 由紘
細胞機能制御に基づくバイオプロセスの効率化

都市系(建築学、都市学)

谷口 与史也
各種構造要素の力学特性、立体骨組構造の耐震性能

吉中 進
空間構造の応答制御、シェルの形状決定に関する研究

谷口 徹郎
自然風の下での非定常な風力特性に関する研究

ガヴァンスキ 江梨
強風災害による低層住宅の被害低減に関する研究

梅宮 典子
建築・都市環境の適応的評価に関する研究

岸本 嘉彦
室内熱湿気環境のパッシブ制御、熱水分移動に伴う壁体の劣化機構

宮本 佳明
建築設計、建築設計論、土建空間概念を用いた包括的景観形成

倉方 俊輔
日本近現代建築史に関する研究

横山 俊祐
人間力に基づく住まい・福祉・教育・地域環境の創発的計画

徳尾野 徹
都市型住宅・住宅地・集住体の計画論

鈴木 裕介
鉄筋コンクリート構造、木質骨組構造の耐震性能評価

石山 央樹
都市計画・建築計画、木質科学、建築構造・材料に関する研究

鬼頭 宏明
鋼・コンクリート複合構造の力学特性と合理的設計法

角掛 久雄
コンクリート構造物の力学特性

山口 隆司
美しい橋の開発、部材接合技術、橋の設計・性能評価技術

大島 昭彦
地盤・地下水環境に関わる問題の研究、
宅地の地盤調査と基礎工法

山田 卓
自然斜面の風化と安定問題、地盤の地震時挙動に関する諸問題

内田 敬
情報通信技術を用いた都市活動・交通行動分析

吉田 長裕
都市交通の安全と環境の評価方法に関する研究

重松 孝昌
沿岸域の物質循環機構の解明と環境修復、都市の広域複合災害

中條 壮大
波・流れと輸送現象、災害リスク評価・持続可能性評価と適応策

嘉名 光市
都市計画、都市デザイン、景観論、環境都市計画の計画技術開発

蕭 閔偉
まちづくりの効果に関する検証、都市デザイン・開発制度の実証的研究

西岡 真稔
都市の熱環境調整、エネルギーの有効利用技術

鍋島 美奈子
都市エネルギー消費と熱環境に関する空間分析評価

相馬 明郎
水圏生態系の機構解明、社会・生態システムの予測・評価

遠藤 徹
都市沿岸域における環境悪化構造の解明と
水辺の都市型自然再生

貫上 佳則
水環境保全技術と資源・エネルギー回収システムの評価

水谷 聡
廃棄物の適正処理とリサイクルに伴う環境影響評価

ベンカテッシュ・ラガワン
オープンソース空間情報システムの開発と都市情報への応用

米澤 剛
時空間情報を用いた都市の空間モデリングと持続可能性

共通分野(応用数学)

松岡 千博
非線形力学系にカオス理論・数値解析・流体力学における
渦層ダイナミクス

小林 祐貴
幾何学、グラフ理論などの数理に基づいた
建築・都市の設計手法の探求

共通分野(機械工作室)

吉岡 真弥
非晶性プラスチックの塑性変形機構の探索と
その成形・加工への応用

医学部医学科・医学研究科

基礎医科学専攻

分子生体医学講座

冨田 修平
循環代謝学、生体の低酸素応答と疾患、血管生物学と疾患、組織リモデリング

徳永 文稔
炎症・免疫シグナルの分子細胞生物学的解析と疾患との関連

大谷 直子
がん微小環境、細胞老化とSASPの生体における役割、肥満と腸内細菌

池田 一雄
肝硬変を代表とする臓器線維症に関する研究

水関 健司
神経生理学、睡眠の機能解析、海馬における情報処理、記憶のメカニズム

広常 真治
中枢神経系構築のメカニズム、形態形成と細胞極性

中島 裕司
循環器系の発生生物学

松原 勉
臓器老化と肝疾患に関する研究

魏 民
環境化学発癌、発癌リスク評価、発癌予防、膀胱癌の分子病理

吉田 佳世
哺乳動物のDNA損傷と修復機構の研究

松永 慎司
がん微小環境、腫瘍血管、薬物動態

及川 大輔
新規因子を介した炎症・免疫シグナルの制御機構解析と疾患

北西 卓磨
神経生理学、海馬における情報処理、シナプスの機能変化、
記憶のメカニズム

千葉 秀平
神経内非定型微小管の解析

金 明月
細胞内物質輸送の制御機構の解明

山岸 敏之
心臓の発生生物学

甲斐 理武
発生における集団的細胞移動の分子機構

塩田 正之
がんのプロテオスタシスと悪性化機構

德留 健太郎
低酸素ストレス、精神発達遅滞

山口 雄大
結核菌の休眠・潜伏に関する研究、循環器疾患の病態形成の
分子機序解明

寺脇 正剛
オートファジーを介した免疫応答制御機構と炎症性疾患発症
機構の解明

山岸 良多
転写後調節を介したがん微小環境制御、細胞老化とmRNA代謝

神谷 知憲
共生細菌代謝物の生体恒常性維持に関する研究

宇留島 隼人
肝星細胞と肝臓構成細胞との相互作用の解明

湯浅 秀人
肝臓構成細胞が形成する細胞間ネットワークの解明

松本 英之
神経生理学、モチベーションと学習、報酬系の神経回路解析、
適応的行動の神経基盤

宮脇 寛行
神経生理学、睡眠の機能解析、記憶の形成と固定のメカニズム

松本 早紀子
神経内物質輸送の制御機構解明

東島 沙弥佳
ヒトはどのように尻尾を失くしたのか:羊膜類における尾部形態
形成機構の解明

都市医学講座

鰐渕 英機
環境化学発癌、発癌予防、膀胱癌の病理、分子病理

林 朝茂
糖尿病、慢性腎臓病などの生活習慣病の疫学、日系米国人の
糖尿病疫学、内臓脂肪の疫学、透析の疫学

福島 若葉
感染症、難病、肝疾患の疫学

吉川 貴仁
ヒトの生活習慣に関する医学・脳科学(無意識、ストレス、疲労、
食欲、食と運動のクロストーク)

岡崎 和伸
運動トレーニングおよび環境適応による運動能および生理機
能の改善メカニズムに関する研究

石川 隆紀
急死の病態生理(ホルモン動態を中心に)、法中毒学・法医血
清学的検査法の開発、法医画像診断学

金子 幸弘
①難治性感染症に対する新たな診断および治療法の開発/薬剤
耐性菌の分子生物学的解析、多剤耐性アシネトバクター
を中心とする病原細菌の分子疫学および新規治療薬開発、
高病原性肺炎桿菌感染症に対する新規治療戦略の開発
②応用研究、橋渡し研究/ムーコル症の新規診断系の確立、
希少菌種の同定

金子 明
Global Malaria Eradication:南西太平洋ヴァヌアツおよびケ
ニア・ビクトリア湖島嶼モデルにおける撲滅対策実施、化学療
法、分子・血清疫学に関する研究

鈴木 周吾
環境化学発癌、発癌リスク評価、膀胱癌および前立腺癌の病理

佐藤 恭子
糖尿病、慢性腎臓病などの生活習慣病の疫学、日系米国人の
糖尿病疫学、内臓脂肪の疫学、透析の疫学

大藤 さとこ
肝疾患、難病、感染症の疫学

横山 久代
糖・エネルギー代謝、高齢者の健康増進における運動の効果
に関する臨床的研究

福井 充
数理統計学、医学分野への応用、健康・疾病標価尺度の研究

城戸 康年
病原体と宿主のエネルギー代謝相互作用、代謝リモデリングを
標的とした薬剤開発と早期探索的臨床開発(Neglected
Tropical Disease、トリパノソーマ、マラリア、悪性腫瘍)、ゲノム
疫学による病原体とヒトの共進化

綾田 稔
麻疹ウイルスの神経病原性と亜急性硬化性全脳炎の発症機構

梯 アンナ
化学発癌、分子病理学、発癌リスク評価、発癌予防、肝発癌の
メカニズム

上原 新一郎
生活習慣病の疫学

宇治 正人
呼吸困難と脳

今井 大喜
環境ストレス負荷時の生理機能および運動能に関する研究

仁木 満美子
休眠現象の解析および新規抗結核ワクチンの開発

CHIM WAI CHAN
ヴァヌアツ島嶼における持続可能なマラリア撲滅:
人の移動、伝播再興、疾病構造転換

加瀬 哲男
感染症の対策およびリスク評価

坪内 泰志
深海微生物由来の新規抗菌薬・抗ウイルス薬探索

鈴木 雄太
身体運動のバイオメカニクスの研究

池田 知哉
急死の病態生理、血清学的検査の死後変化、浮腫の病態生理
および評価法の開発

谷 直人
急死の病態生理、法医血液生化学、法医分子生物学、法医公
衆衛生学

老沼 研一
病原性細菌の薬剤耐性機構および細胞間情報伝達機構(クオ
ラムセンシング)の解析

西内 由紀子
①非結核性抗酸菌のバイオフィルム形成メカニズムの解明
②非結核性抗酸菌の環境分布動態研究
③抗酸菌の病原性研究:抗酸菌と赤血球の相互作用

柴田 幹子
腎疾患の疫学、生活習慣病の疫学

中釜 悠
遺伝性/先天性疾患および非感染性疾患(NCD)のグローバル
な社会経済的影響、寄生虫感染(マラリア、NTDs)の発達期に
おける影響と介入可能性、代謝リモデリングにみる不全心と感
染性病原体のアナロジー

加賀谷 渉
分子疫学的手法によるマラリア伝播ダイナミクスの解明とマラ
リア撲滅に向けた介入研究

老年医科学講座

中嶋 弘一
細胞増殖・分化の決定機構とシグナル伝達性転写因子群

植松 智
自然免疫、粘膜免疫、メタゲノム解析

富山 貴美
神経変性疾患の診断・予防・治療法の開発

庄司 哲雄
リポ蛋白代謝、糖尿病・腎不全の動脈硬化、認知機能・サルコペニア

八代 正和
難治癌に対するトランスレーショナルリサーチ

小島 裕正
細胞の運命を制御する情報伝達機序の解明

趙 虹
感染症におけるmiRNAの役割とシグナル制御技術の開発

塩井 淳
動脈硬化・血管石灰化の発症機構、老化とカルシウム、慢性腎
不全・腎線維化の発症機構

福岡 達成
大腸癌における個別化した集学的治療、炎症性腸疾患におけ
る外科治療

國本 浩之
細胞内シグナルによる遺伝子発現制御

藤本 康介
自然免疫、粘膜免疫、メタゲノム解析

梅田 知宙
認知症の診断・予防・治療法の開発

臨床医科学専攻

臓器器官病態内科学講座

茂山 稔
循環器病学、臨床心臓病学、心臓研究における基礎と臨床の
トランスレーショナルリサーチ

川口 知哉
呼吸器病学、呼吸器疾患の診断・治療、肺癌の基礎的・臨床
的研究

河田 則文
肝臓病学、肝病態における遺伝子発現の解析、
肝胆膵癌の微小環境

藤原 靖弘
消化管疾患の病態と治療

稲葉 雅章
カルシウム代謝異常、内分泌学、リウマチ学

日野 雅之
血液悪性疾患の病態と治療、造血幹細胞移植医療に関する研究

井上 幸紀
ストレスと精神疾患の関連(産業精神医学)、
摂食障害の病態生化学

伊藤 義彰
神経変性疾患、脳血管障害を中心に幅広く神経内科疾患を研究

花谷 彰久
心不全の病態解明と再入院抑制治療の開発

石村 栄治
腎臓内科学、腎臓病理学、透析医学

泉家 康宏
心不全の発症機序解明とその臨床応用研究

根来 伸夫
膠原病の病態と治療

金澤 博
呼吸器病学、アレルギー病学、呼吸器疾患の診断・治療

浅井 一久
呼吸器病学、慢性気道炎症疾患の炎症機序の解明・制御、
呼吸器内視鏡

田守 昭博
肝臓病学、肝胆膵領域におけるヒト遺伝子多型の解析と臨床
応用、輸血学

榎本 大
ウイルス性肝炎その他、肝臓病におけるプレシジョン・メディ
シンの開発

渡邉 俊雄
消化器炎症および悪性疾患の病態生理の解明

谷川 徹也
消化管炎症・粘膜障害、
消化管癌の病態生理の解明と治療・予防

永見 康明
表在型食道癌、早期消化器癌内視鏡切除、内視鏡治療、
内視鏡診断、食道狭窄

綿本 正憲
糖尿病学、代謝病学、動脈硬化学、透析医学

今西 康雄
骨粗鬆症、くる病、骨軟化症、副甲状腺疾患

中前 博久
①HLA半合致造血細胞移植
②造血幹細胞移植に伴う合併症の病態解析および予防
③慢性骨髄性白血病 病態解析と治療

岩崎 進一
産業精神医学、神経質

安部 貴人
脳虚血における神経細胞障害メカニズム

江原 省一
血管内超音波、マルチスライスCT、MRIによる急性冠症候群の
病態解析

岩田 真一
超音波を用いた弁膜症、動脈硬化、高血圧、心不全の病態解明

森 克仁
腎臓病学、代謝学、糖尿病学

渡辺 徹也
呼吸器病学、重症嘔息の病態解明・制御、呼吸器内視鏡

打田 佐和子
肝臓病学および肝胆膵癌治療、超音波を用いた新規画像診断
法の開発

萩原 淳司
消化器病学、肝胆膵癌の基礎的研究および診断法、
治療法の開発

藤井 英樹
肝臓病学、代謝性肝疾患の病態と治療

細見 周平
炎症性腸疾患の病態と治療

平良 高一
消化器癌の化学療法、内視鏡治療、内視鏡診断

大谷 恒史
消化管の炎症・癌および原因不明の消化管出血の病態と治療

森岡 与明
糖尿病、肥満、動脈硬化、サルコペニア

山田 真介
リウマチ学、慢性疾患における睡眠障害と夜間血圧動態に関
する研究

越智 章展
糖尿病、糖尿病性腎症、慢性腎不全患者の病態に影響を与え
る因子についての研究

藏城 雅文
高尿酸血症・内分泌代謝病学

津田 昌宏
腎血行動態、糖尿病性腎症、高尿酸血症

仲谷 慎也
慢性腎臓病の病因病態生理に関する研究

康 秀男
血液疾患・造血幹細胞移植の疫学、
血液疾患患者における感染症の診断法と治療

中根 孝彦
造血幹細胞移植医療に関する研究

中嶋 康博
血液悪性腫瘍に対する免疫監視機構の研究および臨床応用

片上 素久
インターネット依存障害

宮脇 大
児童期精神障害の臨床研究

山内 常生
摂食障害、職場の精神障害

出口 裕彦
産業精神医学、うつ病、双極性障害

原田 朋子
摂食障害

内田 健太郎
神経画像、器質性精神障害

中尾 吉孝
緩和ケア

光岡 茂樹
呼吸器病学、腫瘍内科学、肺癌の基礎的・臨床的研究、QOL

髙田 強司
神経生理学的研究

武田 景敏
神経疾患および神経変性疾患の高次脳機能障害

松原 三佐子
肝線維化および肝がんにおける肝星細胞形質転換の意義

金田 裕靖
肺がん薬物療法、新規抗がん剤の臨床試験・早期開発(国際
治験など)、がんの分子標的治療

紙森 公雄
冠動脈疾患患者を対象とした、心血管イベント発現率を調査
する単施設後ろ向き研究

山崎 貴紀
血管内視鏡による動脈硬化性疾患の病態解析

LE THUY THI THANH
肝臓の炎症、線維化、ならびに発がんの分子機構

教員研究テーマ 一覧 Research Fields

後藤 彩子
児童期精神障害の臨床研究

病態診断・生体機能管理医学講座

三木 幸雄
神経放射線診断学、脳MRI、下垂体の画像診断、脱髄疾患のMRI

澁谷 景子
高精度放射線治療技術の開発、難治癌に対する新規放射線療法レジメンの開発

大澤 政彦
悪性リンパ腫の病理

西川 精宣
麻酔薬の交感神経活動および刺激伝導系に及ぼす影響、イオンチャネルへの作用、慢性疼痛の分子生物学的機序

溝端 康光
救急医療システム、外傷外科学

嶋田 裕之
認知症疾患の画像診断、認知症の診断治療、家族性アルツハイマー病

下野 太郎
放射線診断学全般（主にCTとMRIを駆使した生理学的検討と臨床面での応用）

小山 孝一
放射線診断学、核医学（腫瘍核医学、ポジトロン核医学、核医学治療）

細野 雅子
がん治療後の有害事象低減を目指したワークアウトプログラムの開発

河邉 譲治
臨床核医学（核医学治療学・核医学診断学）、臨床漢方医学によるがん緩和医療

土屋 正彦
麻酔薬による活性酸素病態の調節、区域麻酔

森 隆
麻酔薬のミクログリア機能への作用、
神経ニコチン受容体と鎮痛機構、麻酔薬の薬理作用

山田 徳洪
急性肺障害、術後管理、低侵襲心臓手術の麻酔、虚血再灌流障害

山本 啓雅
骨盤外傷、脊椎・脊髄損傷の病態と治療、災害医学

西村 哲郎
外傷外科学、蘇生学、医療機器開発、熱傷、救急医療人材の国際トレーニング

福本 真也
生活習慣病の疫学、食事療法の臨床研究、検診コホートによる疫学研究、バイオバンクを活用した新規バイオマーカーの開発、血管新生療法の機序の解明と増幅装置の開発研究

森川 浩安
消化器・肝臓病学、脂肪肝の病態解明、新規超音波診断装置開発

中原 寛和
がんの基底膜浸潤の分子機構、口腔癌のウイルス療法、
周術期口腔ケアの有効性

山本 晃
Interventional Radiology全般、門脈圧亢進症に対するIVR、RFAおよび免疫RFA、腹部画像診断

濵本 晋一
画像診断学（CT、MRI）、Interventional Radiology

城後 篤志
IVR学（門脈圧亢進症に起因する静脈瘤治療）・画像診断学

大隈 智尚
画像診断学

堤 真一
高精度放射線治療におけるAIを用いた治療計画法の開発

造酒 慶喬
難治癌に対する化学放射線療法レジメンの開発

東山 滋明
臨床核医学（認知症核医学、腫瘍核医学）

和田 直樹
悪性リンパ腫の病理

松浦 正
電気生理学的手法を用いたイオンチャンネルに対する麻酔薬の影響に関する研究、脂肪乳剤治療の作用機序、肥大心筋の局所麻酔薬感受性の変化

田中 克明
静脈麻酔薬の薬物動態、麻酔管理とアウトカム解析、
卒前医学教育

矢部 充英
疼痛管理医学、術後悪心嘔吐対策、緩和医療

舟井 優介
麻酔薬の鎮痛メカニズム、脊髄後角のシナプス伝達

末廣 浩一
周術期血行動態モニタリング、周術期Goal-directed therapy、水素吸入の臨床応用

山﨑 広之
周術期体温管理、慢性痛のメカニズム

堀 耕太郎
Calsium-release activated calcium (CRAC) チャンネルの麻酔における役割

木村 達郎
呼吸器病学、腫瘍内科学、腫瘍疫学、
肺癌の基礎的・臨床的研究

灘谷 祐二
消化管炎症および消化器癌の病態生理の解明、
消化管疾患におよぼす腸内細菌の影響の解明

中野 朱美
婦人科がん検診受診者の精度管理および疫学調査に関する研究

寒川 悦次
画像診断学、Interventional Radiology (Vascular Intervention)

桑江 優子
小児軟部腫瘍の病理

晋山 直樹
Acute care surgery、メディカルコントロール

泌尿生殖・発達医学講座

古山 将康
骨盤底臓器の解剖学的支持機構の解析、生殖免疫医学

角 俊幸
婦人科腫瘍

濱崎 考史
iPS細胞を用いた、小児先天性代謝疾患の病態解明

仲谷 達也
腎移植、実験的急性腎不全、薬剤性腎障害・尿路悪性腫瘍、血液浄化法、慢性腎臓病

橘 大介
胎児循環の生理と病的意義

安井 智代
婦人科悪性腫瘍・癌悪液質、女性排尿障害

時政 定雄
小児難治性悪性腫瘍に対する大量化学療法の検討、先天代謝異常症に対する骨髄非破壊的造血細胞移植、小児急性リンパ性白血病における白血病幹細胞の研究

瀬戸 俊之
小児神経・代謝疾患の臨床研究、中枢神経感染症のウイルス学的研究、臨床遺伝学、障がい学

武本 佳昭
血液透析膜の生体適合性、人工臓器、腎不全疾患

内田 潤次
腎移植、薬剤性腎障害、慢性腎臓病、
ABO血液型不適合腎移植

三枚 卓也
哺乳動物の卵の加齢現象、顆粒膜細胞の内分泌機能

羽室 明洋
卵管水腫症例における卵管開口術の有効性と予後予測因子となるバイオメーカーの検討

田原 三枝
陣痛発来および分娩進行のメカニズム

市村 友季
子宮筋腫の自然史解明・子宮内膜症の治療・婦人科疾患の病理診断

橋口 裕紀
婦人科悪性腫瘍

福田 武史
癌悪液質の病態解明とその改善法、婦人科悪性腫瘍

笠井 真理
婦人科悪性腫瘍・子宮筋腫・子宮内膜症

山内 真
婦人科悪性腫瘍

川村 智行
小児糖尿病、腎臓病の病因・病態の研究

德原 大介
消化器疾患の病因・病態解明と予防・治療薬の開発、粘膜免疫学

佐久間 悟
難治性てんかんの病態解明を目指した神経病理学・神経生理学研究

大西 聡
新生児慢性肺疾患の病因・病態解明と予防・治療薬の解明、多施設共同研究"左房容積および動脈管開存症評価"のサブ研究としての動脈管開存症と慢性肺疾患の関連性

西垣 五月
小児内分泌疾患に関する病態生理の解明

鞍作 克之
前立腺癌に対する免疫療法および遺伝子療法・尿路上皮癌に対する化学療法・ED、男性不妊症

長沼 俊秀
血液浄化法・腎移植・アフェレシス・動脈硬化・血管石灰化・発展途上国への医療支援（教育・手術）

玉田 聡
転移性腎癌に対する治療、癌関連疲労に関する基礎的研究

岩井 友明
腎移植領域における臨床研究

井口 太郎
前立腺癌遺伝子多型、尿路結石症発症機序の解明、泌尿器における酸化ストレスの役割

山﨑 健史
腹腔鏡手術

春日 彩季
小児アレルギー疾患に関する臨床研究、病態解明

外科学講座

大平 雅一
食道癌・胃癌の外科治療、外科代謝栄養、門脈圧亢進症の病態と外科治療

柴田 利彦
心臓弁膜症手術の低侵襲化へ向けての研究

六車 一哉
胃癌に対する外科治療・化学療法および集学的治療

久保 正二
肝胆膵疾患の病態と外科治療、肝移植、外科感染症

小野田 尚佳
内分泌腫瘍の病態解明と外科治療

藤井 弘道
末梢血管の外科治療

西山 典利
呼吸器疾患、縦隔疾患の病態と外科的治療

豊川 貴弘
胃癌・食道癌に対する外科治療と集学的治療

永原 央
大腸癌化学療法における個別化治療、大腸癌に対する腹腔鏡手術、炎症性腸疾患の外科治療

李 栄柱
食道癌に対する外科治療および集学的治療

澁谷 雅常
大腸癌における癌微小環境、
大腸癌化学療法におけるバイオマーカー

天野 良亮
局所進行膵癌の根治を目指した集学的治療の確立・肝胆膵悪性疾患に対する栄養療法の可能性

山添 定明
肝胆膵癌に対する外科治療ならびに集学的治療

竹村 茂一
肝癌、膵癌、胆道癌の外科治療、胆道癌の化学療法、肝硬変の進行抑制、膵癌の早期診断、生体肝移植

田中 肖吾
肝胆膵領域悪性腫瘍に対する外科治療、腹腔鏡下手術、肝移植、術後合併症の予防

木村 健二郎
肝胆膵癌の癌微小環境における癌線維芽細胞の機能解明、膵・胆道癌ならびに稀少癌におけるPDX（患者由来腫瘍組織）の樹立、膵臓疾患に対する内視鏡外科手術の確立

高島 勉
乳癌の集学的治療

野田 諭
乳癌ならびに内分泌腫瘍に対する集学的治療

柏木 伸一郎
トリプルネガティブ乳癌における新たな治療戦略の検証

高橋 洋介
心房細動患者における房室弁逆流の手術治療

森崎 晃正
大動脈基部疾患、大動脈弁疾患の手術治療

泉 信博
肺悪性腫瘍、縦隔腫瘍、気腫性肺疾患の外科治療

月岡 卓馬
肺癌に対する気道形成手術

堀池 正樹
新生児外科疾患の低侵襲治療、小児胆道疾患の外科治療

感覚・運動機能医学講座

鶴田 大輔
自己免疫性水疱症の発症機序解明研究、毛髪再生科学、乾癬発症機序解明研究

本田 茂
網膜硝子体疾患、未熟児網膜症、神経眼科

大畑 建治
頭蓋底外科、脳腫瘍外科、脊椎・脊髄外科

中村 博亮
脊椎外科、低侵襲脊椎外科、側弯症、骨粗鬆症脊椎疾患

元村 尚嗣
再建外科、マイクロサージェリー、皮膚悪性腫瘍に対する集学的治療、皮膚難治性潰瘍に対する集学的治療

橋本 隆
皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患10部の臨床研究、自己免疫性水疱症の新規自己抗体の同定と網羅的診断法の確立、自己免疫性水疱症の自己抗体のクラススイッチ機序の研究、人工知能（ディープラーニング）による蛍光抗体法自動診断法の開発、各種自己免疫性水疱症のレジストリ作成、CRISPR-Cas9法によるラミニンガンマ1ノックアウトHaCaT細胞を用いた抗ラミニンガンマ1類天疱瘡の自己抗原の解析

坂本 博昭
小児期発症の脳神経外科疾患の病態解析研究

菅原 弘二
円形脱毛症および乾癬の病態解析に関する研究、内因性カンナビノイドが皮膚付属器・粘膜に与える影響に関する研究、肥満細胞の機能解析、かゆみに関する研究

小澤 俊幸
光線力学療法(PDT)による感染症治療の研究

河野 剛也
眼外傷、眼循環、黄斑疾患、加齢黄斑変性

阪本 浩一
小児機能性難聴、アレルギー性疾患の臨床的研究

角南 貴司子
内耳障害（特に平衡機能）、中耳疾患の臨床的研究、
音声言語認知の基礎研究

高見 俊宏
脊髄腫瘍、脊髄機能回復、脊椎生体力学

後藤 剛夫
頭蓋底外科手術法の開発、
頭蓋底微小解剖研究、経鼻内視鏡手術法の開発

乾 健太郎
リウマチ外科、骨軟骨代謝、足の外科

寺井 秀富
医用デバイス開発、脊椎・脊髄外科、骨再生医学、側弯症

星 学
骨軟部腫瘍、転移性骨腫瘍、ナビゲーション手術

羽多野 隆治
外傷、熱傷に対する集学的治療

山本 学
加齢黄斑変性、網膜レーザー治療、網膜硝子体手術

田上 瑞記
網膜硝子体手術、眼炎症疾患、眼腫瘍、眼窩疾患

高野 さくらこ
感音難聴・耳鳴の臨床的研究と聴覚生理

森迫 拓貴
後頭蓋窩の静脈解剖についての研究

川原 慎一
脳腫瘍・脊髄腫瘍の核医学診断、悪性グリオーマに対する新規治療の開発

宇田 武弘
てんかんの外科治療、脳波および脳磁図による臨床神経生理に関する研究

内藤 堅太郎
脊椎脊髄疾患の画像診断および外科治療

有馬 大紀
脳腫瘍における栄養血管の解剖学的研究

一ノ瀬 努
解剖と病理学的所見に基づく血管外科手術の開発と教育

箕田 行秀
膝関節外科、股関節外科、人工関節、バイオマテリアル、
バイオメカニクス、コンピューター支援手術

橋本 祐介
スポーツ整形外科、骨、軟骨、靭帯再生、バイオメカニクス

大田 陽一
軟骨代謝（関節軟骨変性予防）、骨代謝、骨形成タンパクを用いた骨再生、膝、股関節外科

岡田 充弘
末梢神経障害における神経栄養血管の血流量の解析、皮弁開発と解剖学的検索、手外科、末梢神経外科、微小血管外科

星野 雅俊
低侵襲脊椎外科、骨粗鬆症、臨床疫学

池渕 充彦
関節外科におけるNavigatic System、整形外科・リハビリテーション分野における医工連携、Wearable加速度計による歩行解析

鈴木 亨暢
脊椎外科、低侵襲脊椎外科、脊椎脊髄腫瘍、骨再生・神経再生、黄色靭帯肥厚メカニズムの解明

大村 玲奈
アトピー性皮膚炎の発症機序解明研究、接触皮膚炎およびアナフィラキシーの発症機序解明研究、薬疹の発症機序解明研究

夏見 亜希
乾癬における基底膜分子に関する研究、内因性カンナビノイドが表皮ケラチノサイトに与える影響に関する研究

岡林 綾
難治性皮膚疾患に対する病理学的研究

平山 公美子
網膜硝子体疾患、レーザー治療

大石 賢弥
頭頚部癌の臨床的研究

医療管理医学講座

日下部 哲也
薬事行政、レギュラトリーサイエンス、医療イノベーション創出、研究倫理

首藤 太一
医学教育学、総合診療学

掛屋 弘
細菌および真菌感染症の診断と治療に関する研究・感染制御に関する研究

新谷 歩
臨床研究における質を担保した効率的な生物統計データマネジメント手法の開発

朴 勇植
医療情報学、医療情報システム、病院管理学

立石 千晴
レギュラトリーサイエンス、医療イノベーション創出、研究倫理

竹本 恭彦
医学教育学、総合診療学、心血管機能評価学、循環器学、分子生物学、臨床薬理学の橋渡し研究

山口 悦子
医療安全管理・患者安全学全般、医療の品質管理に関する研究、芸術&デザインの質・安全管理に関する研究

斯波 将次
認知症研究

吉田 寿子
臨床研究における階層ベイズモデルの適用についての研究

栩野 吉弘
医学教育学、総合診療学、呼吸器内科学、睡眠医学

鎌田 紀子
医学教育学、総合診療学、消化器内科学、炎症性腸疾患

豊田 宏光
医学教育学、総合診療学、整形外科学、脊椎脊髄外科学、
骨粗鬆症、骨生体材料

並川 浩己
医学教育学、総合診療学、感染症学、臨床疫学

山田 康一
耐性菌の疫学研究・抗菌薬適正使用に関する研究

藤井 比佐子
臨床研究体制構築に関する研究、健常人を対象とする臨床研究の効率的な実施システムの構築に関する研究

高橋 佳苗
小規模臨床試験の統計的デザインおよび解析に関する研究

加葉田 大志朗
観察研究における統計手法の開発と教育

医学部看護学科・看護学研究科

熊谷 たまき
看護教育に関する研究、患者家族と医療者関係に関する研究、職場環境に関する研究

森木 ゆう子
患者家族の特性・看護師の能力・システムの相互関係に関する研究、看護師の倫理的行動に関する研究

三宮 有里
看護教育に関する研究、看護職のキャリア形成に関する研究

横山 美江
児童虐待予防に関する研究、母子保健に関する国際比較研究、発育・発達に関する研究、多胎児における虐待予防のための介入研究、国際双生児研究、保健師活動に関する研究、ネウボラに関する研究

白井 みどり
認知症高齢者の環境支援に関する研究、シーティングなど高齢者の生活機能向上に向けた研究

佐々木 八千代
高齢者の健康づくりに関する研究、認知症高齢者の環境支援に関する研究

（在）河野 あゆみ
高齢者のフレイル、介護予防、地域包括ケアシステム、地域見守りに関する研究

作田 裕美
がん看護学、急性期看護学、災害看護学

村川 由加理
急性期看護学、がん看護学、災害看護学

山口 曜子
慢性看護、患者教育（睡眠・生体リズム）、看護基礎教育・看護教育に関する研究

岡山 加奈
感染管理、腸内環境と排便に関する研究

松田 光信
統合失調症をもつ当事者のための心理教育、精神障害者の地域生活支援、プログラム評価

（精）河野 あゆみ
統合失調症をもつ当事者に対する看護に関する研究、精神科看護師に対する教育研究

玉上 麻美
周産期の育児支援に関する研究、流産を経験した女性・不妊症女性への看護に関する研究

和木 明日香
医療職のセクシュアリティ理解促進に関する研究、ツボ指圧刺激が分娩時間にもたらす影響と安全性の検証、国際保健・看護教育に関する研究

平谷 優子
小児看護学、家族看護学に関する研究

森口 由佳子
小児看護教育、子育て支援、健康行動、病児の保育・看護等に関する研究

今中 基晴
周産期医学、不妊、更年期医学、産婦人科感染症

藤田 寿一
生化学、分子生物学および細胞生物学的手法を用いた癌細胞の増殖や転移に関する基礎的研究

生活科学部・生活科学研究科

食・健康科学

西川 禎一
食・水系感染症の疫学と生体防御に及ぼす加齢と栄養の影響

羽生 大記
慢性肝疾患、脂肪肝患者における栄養学的評価と治療、
高齢者の栄養学的評価と治療

由田 克士
健康増進と生活習慣病予防に関する公衆栄養学的研究

佐伯 茂
コレステロール代謝に関する分子栄養学的研究

増田 俊哉
ポリフェノールなど植物性フェノール成分の有機化学

古澤 直人
化学物質の食品残留に関する研究

市川 直樹
エネルギー代謝調節系に関する生化学・分子生物学的研究

小島 明子
生活習慣病の予防に関する病態栄養学および栄養機能科学的研究

金 東浩
リボタンパク質代謝に関する分子栄養学的研究

上田 由喜子
学校給食マネジメントと食育に関する研究

安井 洋子
テーラーメード栄養指導に関する臨床栄養学的研究

福村 智恵
生活習慣病予防と栄養・食生活支援に関する研究

中台 枝里子
環境ストレスと生体防御に関する分子生物学的研究

早見 直美
思春期・青年期の食行動と栄養教育法に関する研究

居住環境学

永村 一雄
温熱環境解析と省エネルギーのための熱環境計画

岡田 明
生活機器・環境設計のための人間工学的研究

森 一彦
居住福祉環境設計に関する研究

教員研究テーマ 一覧 Research Fields

渡部 嗣道
住宅の保全方法および新構法の研究

小伊藤 亜希子
子ども・家族の住生活に関する研究

松下 大輔
行動計測に基づく設計方法の研究

瀧澤 重志
情報・数理と居住空間の関係の探求

中野 茂夫
建築都市空間に関する計画学的研究

上田 博之
高齢者住居および住居人類学に関する研究

福田 美穂
生活空間の史的研究

酒井 英樹
環境材料に関する研究

小池 志保子
住空間デザインの研究

ファーナム クレイグ
空調設備と熱的快適性に関する研究

生田 英輔
居住環境の防災・安全に関する研究

岡本 滋史
木造建築の構造性能に関する研究

西岡 基夫
生活弱者を中心とした機器・環境に関する研究

総合福祉・心理臨床科学

中井 孝章
教育臨床学、進化人間行動学

三船 直子
精神病理・発達障がいの研究、心理療法の研究

岡田 進一
社会福祉学および地域ケアに関する研究

所 道彦
家族の多様化に対応した社会保障の理論・政策研究

堀口 正
社会開発・中国経済・生活改善

大西 次郎
精神科ソーシャルワーク、エンドオブライフケア

篠田 美紀
高齢期の心理臨床に関する研究、心理療法の研究

長瀬 輝代
母子心理臨床の研究、心理療法の研究

野村 恭代
コミュニティにおけるコンフリクト・マネジメント手法に関する研究、居住福祉に関する研究

松木 洋人
家族社会学、子育て支援に関する社会学的研究

鵜川 重和
高齢者の生活と健康に関する疫学研究

垣田 裕介
貧困の実態分析と社会政策の在り方に関する研究

後藤 佳代子
青年期の心理臨床実践および青年期心性についての研究

鵜浦 直子
ソーシャルワークにおける権利擁護の研究

清水 由香
精神障害者の地域生活支援サービスの在り方に関する研究

舘 直彦
精神分析学、児童青年期精神医学

弘田 洋二
パーソナリティー・アセスメントおよび心理療法関係の研究

中島 尚美
地域を基盤とした子ども家庭福祉に関する研究

都市経営研究科

都市政策・地域経済

遠藤 尚秀
公会計の観点から、自治体経営を含む公共経営とパブリック・ガバナンスの研究

小長谷 一之
都市の経済地域構造と都市政策・まちづくり・地域活性化に関する研究

佐藤 道彦
まちづくりに関するイノベーションの研究

佐野 修久
公民連携等を通じた公共経営・地域経営に関する研究

永田 潤子
パブリックセクターの組織および人に関するマネジメントの研究

吉田 隆之
都市文化政策、文化資源論、アートプロジェクト論

都市行政

高野 恵亮
立法過程、行政の意志決定過程、行政手続きに関する研究

久末 弥生
行政訴訟の研究、欧米の公園法制の研究

五石 敬路
東アジアの社会政策に関する国際比較研究

水上 啓吾
都市財政および都市経営に関する研究、政府債務に関する国際比較研究

都市ビジネス

梅原 清宏
中小企業経営、ICTビジネスに関する研究

金井 一頼
アントレプレナーシップと産業クラスターおよびソーシャル・ベンチャーに関する研究

新藤 晴臣
コーポレート・ベンチャリングと大学発ベンチャーに関する研究

近 勝彦
情報経済論、情報社会論、情報投資の評価技法に関する研究

村上 憲郎
AIとエネルギーの新産業論

小関 珠音
アントレプレナーシップ、イノベーションと戦略的提携に関する研究

医療・福祉イノベーション経営

阿久澤 麻理子
人権教育・啓発、国際人権基準・人権概念と市民意識、人権調査法

岩崎 安伸
医療・福祉の国際比較、医療・福祉組織のリーダーシップおよび経営幹部コーチング

川村 尚也
多文化社会における知識創造経営・組織

新ヶ江 章友
セクシュアルマイノリティの生の様式に関する研究、科学技術と身体に関する研究

服部 俊子
医療組織倫理の構築にむけた基礎的研究

教育研究組織・附属施設

大学教育研究センター

大久保 敦
高校大学間の接続に関する研究、科学教育、古植物学

飯吉 弘子
大学教育のあり方研究、高等教育論、大学教育史、教育学

西垣 順子
青年の発達保障と大学教育・大学評価、発達心理学

平 知宏
高大接続と大学教育、言語理解の認知科学

都市健康・スポーツ研究センター

渡辺 一志
種々刺激に対する生体応答に関する研究、アーチェリーに関する研究、都市防災における健康・体力に関する研究

荻田 亮
生理活性物質の代謝応答および
生体分子機能に関する基礎的応用的研究

岡崎 和伸
運動トレーニングおよび環境適応による運動能および
生理機能の改善メカニズムに関する研究

横山 久代
糖・エネルギー代謝、高齢者の健康増進における
運動の効果に関する臨床的研究

今井 大喜
環境ストレス負荷時の生理機能および運動能に関する研究

鈴木 雄太
身体運動の力学的評価に関する研究

人権問題研究センター

古久保 さくら
近現代日本ジェンダー史、ジェンダー平等教育研究

阿久澤 麻里子
人権教育・啓発、国際人権基準・人権概念と市民意識、人権調査法

新ヶ江 章友
セクシュアルマイノリティの生の様式に関する研究、科学技術と身体に関する研究

廣岡 浄進
部落問題論、近現代史、マイノリティ研究

都市研究プラザ

水内 俊雄
都市社会地理学、政策支援NPO研究、近現代都市研究

岡野 浩
製品・サービスに関する「社会デザイン」、
都市間の国際ネットワークの構築

全 泓奎
東アジア都市の不利地域における
貧困住民・コミュニティによる地域再生論、居住福祉論

沼田 里衣
コミュニティ音楽療法、即興音楽、
社会的弱者を含むアート活動に関する研究

英語教育開発センター

関 茂樹
音韻論、統語論など英語を対象とすることばの研究

井狩 幸男
心理言語学、神経言語学、応用言語学

山崎 雅人
満洲語研究、アジア諸言語の認知類型論による言語地理学研究

田中 一彦
意味論、語用論

山本 修
認知言語学、認知文法

野田 三貴
英語教育、イギリス・ロマン派文学

複合先端研究機構

天尾 豊
太陽光エネルギー変換のための人工光合成系の創製に関する研究

吉田 朋子
人工光合成実現のための固体光触媒の創製、
放射光分光による機能性材料の物性分析

藤井 律子
光合成機能性分子の構造と光化学

4月 入学式

5月

▲ 第128回ボート祭
1889年、市立商業学校時代の「堂島川の水上運動会」を原点とし、市大はもとより大阪の初夏の風物詩として親しまれている伝統行事です。

8月

▲ オープンキャンパス

▼ 大学祭「第69回銀杏祭」
毎年11月に、「銀杏祭」が催されます。音楽ライブや各種模擬店などの多彩な企画が行われるビッグイベントです。

11月

CAMPUS Calendar

大阪市立大学では、年間を通じてさまざまな行事が開催されます。
学生生活の思い出がたくさん作られています。

4 April
- 入学式
- 前期授業開始
- 新入生歓迎祭「第14回ふたば祭」
- 市大授業

5 May
- 第128回ボート祭

6 June
- 創立記念日(6月1日)
- 第44回対大阪府立大学総合競技大会
- 第59回三大学体育大会

7 July
- 前期試験

8 August
- 夏季休業
- オープンキャンパス

9 September

10 October

11 November
- 大学祭「第69回銀杏祭」

12 December
- 三大学学生研究討論会
- 学生国際交流会
- 冬季休業

1 January

2 February
- 後期試験

3 March
- 春季休業
- 卒業式

▼ 数学や理科の好きな高校生のための市大授業
文学部を知りたい人のための市大授業
〜ひらけゆく世界 みえてくる人間〜
大学の授業の雰囲気や学内の様子を体験してもらうために、理学部・文学部の教員がそれぞれ模擬授業を行います。高校生・受験生の皆さんの最新の研究への興味や学習意欲をさらに高めることを目的とし、開催しています。

4月

▼ 三大学学生研究討論会
本学、一橋大学、神戸大学の学生が集い、1951年から毎年開催されている文科系討論会です。商学・経営学、経済学、法学・政治学(社会学を含む)の3部門からなり、相互の知的精神を刺激し合うと同時に親睦を深める機会となっています。

12月

12月
▲ 学生国際交流会

3月 卒業式

EXTRACURRICULAR *Activities*

公認団体 四者連絡協議会（四者協）

応援団
- 応援団（リーダー部・吹奏部・バトン部）

体育会 54団体
- 体育会
- アーチェリー部
- 合気道部
- アイスホッケー部
- アメリカンフットボール部
- 空手道部
- 弓道部
- 競技スキー・スノーボード部
- 競技ダンス部
- 剣道部
- 硬式庭球部
- 硬式野球部
- ゴルフ部
- サイクリング部
- 男子サッカー部
- 柔道部
- 準硬式野球部
- 水泳部
- 漕艇部
- ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 卓球部
- テコンドー部
- 軟式野球部
- 日本拳法部
- 二輪愛好会
- 馬術部
- 男子バスケットボール部
- バドミントン部（男子・女子）
- 男子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- 男子フィールドホッケー部
- 民族舞踊部フロイント
- ユースホステル部
- ヨット部
- ラグビー部
- 男子ラクロス部
- 女子ラクロス部
- 陸上競技部
- レスリング部
- ワンダーフォーゲル部
- 医学部競技スキー部
- 医学部硬式テニス部
- 医学部ゴルフ部
- 医学部サッカー部
- 医学部準硬式野球部
- 医学部水泳部
- 医学部軟式テニス部
- 医学部バスケットボール部
- 医学部女子バスケットボール部
- 医学部バドミントン部
- 医学部ラグビー部
- 日曜日よりの使者

文化系サークル連合 34団体
- 文化系サークル連合
- アイセック大阪市立大学委員会
- アニメーション研究会
- ESS
- 囲碁部
- 市大野鳥の会
- 映画研究会
- SHK市大放送研究会
- （お笑いライブマネジメントサークル）ダンデライオン
- 学術探検部
- 競技かるたサークル
- 劇団カオス
- 古都散策有史会
- 茶道部利休会
- 人権と多様性を考える学生企画「HRDP」
- 社会科学研究サークル学生ゼミナール
- 写真部
- 手話サークルふぁいたーず
- 将棋部
- 聖書を読む会
- 生物研究会
- 朝鮮文化研究会
- 鉄道同好会
- 天文部
- HAT
- 美術部青桃会
- 文化的創作団体「文紡」
- 文学研究会
- 勉強サークル センターわけ
- マイコン研究会
- 漫画研究会
- 落語研究会
- 旅行愛好会
- STUDY FOR TWO

音楽系サークル協議会 16団体
- 音楽系サークル協議会
- アカペラサークル Accord
- アコースティックギター部
- 市大テクノ部
- 合唱団フリーデ
- ギターマンドリンクラブ
- グリークラブ
- 軽音楽部
- 交響楽団
- コンサートバンド
- 混声合唱団
- Jazz 研究会
- FOLK SONG CLUB
- 邦楽くらぶ
- POP CHAPS
- Music Research Club

その他 65団体
- 大阪市立大学新聞Hijicho
- SPLASH
- 大学祭実行委員会
- チーム朱蘭
- フタマル ～TABLE FOR TWO 大阪市大～
- 医学部ライフサポートクラブ　など

登録団体 22団体

詳しくはこちらをチェック！

※2019年6月現在

ICHIDAI Report

クラブ・サークル、ボランティア活動、留学体験…。学業だけでなく、課外活動にも熱心な市大生。
日々活動に取り組み、充実した毎日を過ごす学生たちに、大学生活についてインタビューしました。

自分に負けずに 心ゆくまで楽しもう

Club

バトミントン部

法学部 3年生
北川（きたがわ） 倖玄（ゆきはる） 大阪府立八尾高等学校卒業

クラブの雰囲気は？

部員全員が練習の質を高めること、楽しむことを常に考えて日々の練習に励んでいます。試合の時は仲間を必死で応援するので、個人競技ながら団体競技のような雰囲気です。

成長したポイントは？

関西リーグで昇格することが目標。そこに向かってしなければいけないことを逆算して考える力とそのプロセスを実際の行動に移す力が身に付きました。

印象に残っていることは？

先輩方の引退試合です。入部を決めたのは真剣に練習する先輩方に惹かれたから。最後まで必死にプレーする先輩方の姿は今も印象に残っています。

学生生活を どう過ごすかは自分次第

Volunteer

STUDY FOR TWO

医学部医学科 4年生
藤井（ふじい） 厚一郎（こういちろう） 清風高等学校卒業

活動内容を教えてください

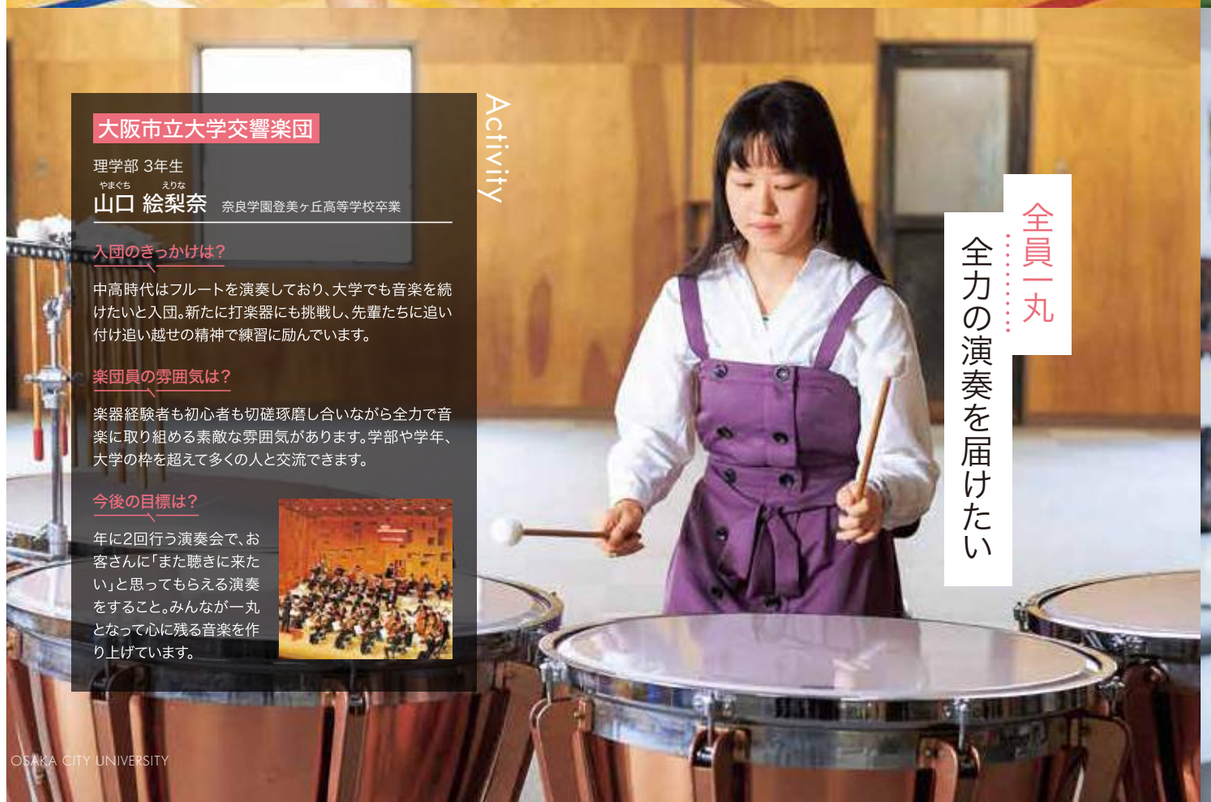
学生の寄付で集まった教科書を定価の半額で販売し、その利益で途上国の教育支援を行っています。自由でアットホームな雰囲気で、他大学との交流も盛んです。

成長したポイントは？

窮地に追い込まれてもアイデアとチームワークで困難に立ち向かう度胸が身に付きました。この度胸は、仲間を信じて試行錯誤し解決に導く自信につながっています。

これからの目標は？

今後も継続して教科書を販売し、メンバーを増やしていくこと。そして最大の目標は「勉強したいと願う全ての子どもたちが勉強できる世界に」することです。



全員一丸 全力の演奏を届けたい

Activity

大阪市立大学交響楽団

理学部 3年生
山口（やまぐち） 絵梨奈（えりな） 奈良学園登美ヶ丘高等学校卒業

入団のきっかけは？

中高時代はフルートを演奏しており、大学でも音楽を続けたいと入団。新たに打楽器にも挑戦し、先輩たちに追い付け追い越せの精神で練習に励んでいます。

楽団員の雰囲気は？

楽器経験者も初心者も切磋琢磨し合いながら全力で音楽に取り組める素敵な雰囲気があります。学部や学年、大学の枠を超えて多くの人と交流できます。

今後の目標は？

年に2回行う演奏会で、お客さんに「また聴きに来たい」と思ってもらえる演奏をすること。みんなが一丸となって心に残る音楽を作り上げています。

視野を広げて 世界の架け橋になる

Study abroad

留学経験者 中国｜上海大学

文学部 3年生
村井（むらい） 彩希（あやき） サウスデルタセカンダリースクール卒業

留学先の印象は？

上海は高層ビルなどの現代的な面と歴史ある建物などの古典的な面を兼ね備えているのが魅力です。現地には日本の漫画やアニメの影響で日本語を勉強している人が多く、驚きました。

力を入れて取り組んだことは？

現地では日本語学科の中国人学生と週一度、食事をとりながら交流。その他にも弁論大会や領事館でのボランティア活動、さらに夏休みには日系企業のインターンシップにも参加しました。

今後の目標は？

主体的に動いて異文化への理解や関心が深まったことで、語学力が向上しました。身に付けた語学力を生かして日本と中国をつなぐ架け橋のような存在になりたいです。

市大生の1日

CAMPUS life

大阪市立大学で
豊かなキャンパスライフを過ごす学生の、
ある一日に密着しました。

オンもオフも全力で。いろんなことに挑戦しています。

工学部都市学科で都市のシステムや計画、開発などについて学んでいます。所属するラグビー部ではリーグ昇格を目指し、部員同士切磋琢磨する日々。幹部の一員として、協力しながらチームをまとめています。週5日練習があり勉強との両立は大変ですが、時間を有効活用して取り組み、合間を縫って飲食店でのアルバイトも頑張っています。
ラグビー部はオフシーズンが長いので、旅行にいくこともしばしば。昨年はフランスへ一人旅に行きました。その他にも登山やスカイダイビングなど、興味を持ったことは何でもチャレンジしています。
将来はグローバルに活躍できる仕事に就くのが目標。そのためにも英語力を伸ばしながら専門分野を深め、夢に向かって邁進したいです。

工学部 3年生
大崎（おおさき） 仁（じん） 滋賀県立膳所高等学校卒業

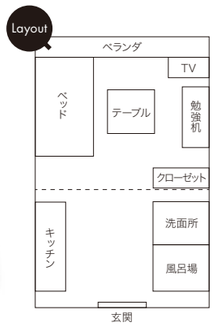
市大ラグビー部の自慢は部員同士の仲の良さ。チームの強い団結力の秘訣です。

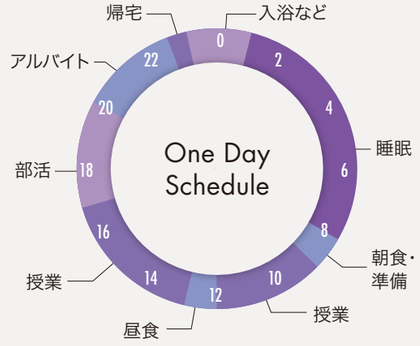
▶ One Week Schedule

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1	都市交通計画	建築構法	基礎物理化学A	流体力学	都市計画
2	土質力学1	都市電熱工学	都市緑地計画	ライフライン工学	構造力学1
3	筋トレ	水処理工学	技術者倫理	都市資源リサイクル工学	都市学実験
4	心理学への招待	振動工学		筋トレ or 友達と談笑	
5	アルバイト	技術英語	部活	アルバイト	部活

▶ My Room Style

大学に入ったら一人暮らしをしたいと思っていました。いいところは自分のペースで生活ができること。家では映画を見ながらゆっくり過ごすことが多く、毎月3本は必ず鑑賞しています。
インテリアを自分の好みにあわせてこだわれるところも一人暮らしの魅力。壁や床が白いので、家具はブラウンで統一しています。





08:30

自転車で登校

一人暮らしの家は学校から近く、通学に便利な距離。友だちがたくさん遊びに来ます。

09:00

工学部の授業

都市学の学びは幅広いので大変ですが、授業は分かりやすく面白いです。

12:00

友だちとランチ

お昼は友だちと一緒に食堂で食べることが多いです。部活に備えてスタミナをつけます。

17:00

ラグビー部の練習

キャプテンを中心に自分たちで考えてメニューを組み、練習に励んでいます。

20:00

飲食店でアルバイト

お客さんにまた来たいと思ってもらえるよう丁寧な接客を心掛けています。

学生生活のサポート

奨学金制度

勉学の意欲があるにも関わらず、経済的な理由により修学に支障のある学生のために、日本学生支援機構や公共団体・民間団体の奨学金、本学独自の奨学金などの奨学生募集を行っています。詳細については大学Webサイトで紹介しています。

日本学生支援機構奨学金（2019年度）

第１種奨学金（無利子貸与）

学部生月額	2万円、3万円、4万5千円（自宅通学）・2万円、3万円、4万円、5万1千円（自宅外通学）
大学院生月額（修士・前期博士課程／法科大学院）	5万円、8万8千円
大学院生月額（後期博士課程）	8万円、12万2千円

第２種奨学金（有利子貸与）

学部生月額	2万円～12万円で1万円ごとに選択可能
大学院生月額	5万円、8万円、10万円、13万円、15万円 法科大学院は上記に加え、19万円、22万円が選択可能

本学独自の奨学金　大阪市立大学奨学金　月額2万円（返還義務なし）

授業料減免・分納制度

家庭の経済的事情あるいは不慮の災害のため授業料の納付が困難となった場合に、授業料の減免または分納の許可を受けることができる制度があります。

保険制度（学研災）

在学生の教育研究活動中・通学中などの不慮の災害事故保障のために「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」と「学研災付帯賠償責任保険」への加入（任意）受付を行っています。

保健管理センター

定期健康診断の実施をはじめ、内科診察、保健指導、健康相談、クラブ検診、健康や感染症予防に関する周知活動、AED操作講習会などを実施しています。救急時には応急処置を行うほか、神経精神科相談、整形外科の特別診療も行っています。

カウンセリングルーム（保健管理センター内）

カウンセラー（臨床心理士）が、学生のメンタルヘルスの維持や悩みごとの相談を行っています。予約制（無料）です。

学生ホール

学生のための福利厚生施設として、会議室、多目的ホール、談話室などを備えています。食堂、購買部、書籍の販売コーナーやコンビニエンスストア、旅行サービス、住まいの紹介、プレイガイドなど生協関連の施設も入っています。本学の学生であれば使用できる施設ですので、幅広い活動に有効活用してください。

ボランティアセンター“ボラカフェ”

大阪市立大学ボランティアセンター“ボラカフェ”では、ボランティアに関する資料を掲示・配架しています。また、学生スタッフにより、ボランティアを希望する学生に情報を提供し、学生のサポートを行っています。

学生サポートセンター

履修、奨学金、課外活動、就職支援など、入学から卒業までの学生生活に関わる相談や各種手続きのサポートを行っています。

障がいのある学生へのサポート

障がい学生支援室（電話：06-6605-3650）では、大学における適切な支援を行うために、学生の所属する学部・研究科の教職員、学内関係部署と連携して支援を行っています。また障がいのある学生を支援する学生サポートスタッフを募集しています。
なお、入学試験における配慮については、入試課（電話：06-6605-2141）へお問い合わせください。

学生なんでも相談窓口

学生生活におけるさまざまな不安、悩み、疑問等々、どこに聞けばいいのだろう？
どんなことでも「学生なんでも相談窓口（電話：06-6605-3039）」にご相談ください。一緒に解決への糸口を見つけましょう。

OCUラーニングセンター（学修支援推進室）

開室時間 平日9:00～18:00
場　所 全学共通教育棟1階 815教室隣 自習室内

OCUラーニングセンターは、学生の自主的・能動的な学修とそれを促す教育をサポートするために開設されました。OCU指標（P9参照）を活用して学生の皆さんの学びの状況を振り返り、将来を考えてどの科目を履修するか考えたり、専属の教員が学生の皆さんの学修計画の立案をお手伝いします。他にも専属教員による「英語学修支援」および「数学学修相談」や、TAとSA※によって企画された学生のための学びのイベントも実施しています。室内には自習スペースの他、授業準備のためのグループディスカッションやグループワークの練習等が行えるスペースもあります。

※ TA（ティーチングアシスタント）/SA（スチューデントアシスタント）
…大学の授業や教育活動の補助を行う大学院生/学部生

進路・就職支援
Career Guidance

大阪市立大学では、「学生から社会人への移行」に重点を置いた就職支援を展開しています。
移り変わる社会のニーズや多様な課題に対し、修学中に学んだ「自ら考える力」と「他者と協働する力」で答えを導き出し、
社会で活躍できるよう、また、学生一人ひとりの特性や希望に合った進路を主体的に選択できるよう、さまざまな支援を行っています。

	職業意識の成長に応じた支援プログラム	就業意識の啓発	準備期間	行動期間
	1・2年	3年		4年
ガイダンス	■就職意識啓発に重点を置いたガイダンス	■インターンシップ・就職活動の基礎知識 ■インターンシップのためのエントリーシート対策講座 ■インターンシップのためのマナー・面接対策講座 ■自己分析講座 ■業界・企業研究の進め方 ■エントリーシート対策講座 ■適性検査の基礎知識 ■マナー・面接対策講座 ■ディスカッション講座		■フォローアップガイダンス
セミナー等	●リーディングカンパニーセミナー ●業界・企業研究セミナー ●公務員セミナー	●リーディングカンパニーセミナー ●業界・企業研究セミナー ●公務員セミナー	●学内企業セミナー ●公務員・教員等採用説明会 ●求人説明会	

■就職ガイダンス

就職活動を意識し始める3年次から3つのステージに分け就職ガイダンスを実施しています。

- 第1段階：就職活動の基礎知識や自己分析について学び、これから始まる就職活動に対する意識を高めます。
- 第2段階：企業研究や業界研究をどのように進めていけばよいのかを知り、同時に、エントリーシートでの自己表現方法やビジネスマナーについて学びます。
- 第3段階：面接やディスカッションの指導などを通じて、就職活動の場だけでなく、就職後にも役立つ実践的な力を身に付けます。

●リーディングカンパニーセミナー 業界・企業研究セミナー

多くの企業・官公庁の方々やOB・OGを学内に招き、業界や企業について理解を深めるため、セミナー形式の講演を行っています。全学年の参加が可能です。
大学にいながら、業界のビジネスについて広く知ることができ、職業に対する興味が高まるとともに、自らの将来について考える機会となります。

参加企業は延べ800社!

●学内企業セミナー／求人説明会

企業、官公庁の人事担当者を招き、業務内容や選考スケジュールはもちろんのこと、企業が求める人材像や能力についてお話いただきます。これらのセミナーでの新しい企業との出会いが、実際の採用へとつながっています。

充実のサポート

>個別学生指導

キャリアコンサルタント資格保持者や民間企業での職務経験豊かなスタッフが、就職指導はもちろんのこと、1年次からの進路指導まで、本人の特性や希望に応じた進路・就職指導を行っています。

>OCU就職支援ナビ

市大生向けの求人票や説明会情報等を、Web上で検索・閲覧できるシステムです。市大生をぜひ採用したいという企業等の求人票を多数掲載しています。

>就職支援パートナーシップ制度

2014年6月から「就職支援パートナーシップ制度」に参加し、Uターン・Iターン就職を希望する学生向けの就職活動支援を強化しています。参加している国公立大学13校のパートナー大学での就職支援が受けられる制度です。

【協定締結大学】
北九州市立大学、国際教養大学、静岡県立大学、首都大学東京、信州大学、都留文科大学、名古屋市立大学、兵庫県立大学、広島市立大学、福井県立大学、山梨大学、横浜市立大学

就職活動体験記

高校生の頃に職業紹介で話を聞いた総合商社で働きたいと思い、大学進学時には将来の選択肢が広そうな商学部を選びました。在学中はサッカー部に所属していたため、就職活動を本格的に始められたのは3年生の11月でしたが、学内で開催されている就職イベントは基本的には全学年参加が可能だったので、1年生の頃から「学内企業セミナー」に参加していました。早期段階からさまざまな業界について知ることができ、当初志望していた業界以外にも関心が広がりました。また、学内セミナーや説明会を通して、多くの会社の人事の方とお話をする中で、自分が本当に入りたいと思える会社が自然と見えるようになりました。就職支援室は主にエントリーシートの添削で利用していました。1:1でじっくりアドバイスを頂けたことが自信にもつながり、志望していた会社に就職することができました。

野村証券株式会社
商学部 2019年3月卒業
川中（かわなか） 創太（そうた） 清風高等学校出身

進路状況
After Graduation

各学部で学べる専門分野は、将来の進路とどう結びついているのでしょう。
卒業後の進路状況を分かりやすく表とグラフでまとめてみました。

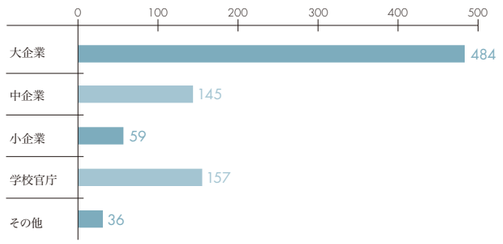
学部卒業生の進路状況 (2018年度卒業生実績)

全国各地の企業、官公庁、学校等に数多く採用され、高い評価を受けています。
また、学部生の大学院への進学率は、全学では25.2%、理学部・工学部においては、65.5%となっています。

	卒業者			卒業者の内訳																						
				進学者			内訳						就職者			内訳									その他※		
							大学院前期			大学・専修学校等						企業等			官公庁			教員					
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
商学部	131	86	217	6	1	7	5	1	6	1	0	1	114	81	195	104	75	179	10	6	16	0	0	0	11	4	15
経済学部	174	47	221	1	1	2	0	1	1	1	0	1	159	43	202	128	37	165	31	6	37	0	0	0	14	3	17
法学部	97	62	159	8	3	11	8	3	11	0	0	0	73	49	122	47	28	75	26	21	47	0	0	0	16	10	26
文学部	59	113	172	7	4	11	7	4	11	0	0	0	43	97	140	37	82	119	5	14	19	1	1	2	9	12	21
理学部	106	46	152	66	26	92	66	26	92	0	0	0	32	19	51	30	15	45	0	1	1	2	3	5	8	1	9
工学部	233	44	277	164	26	190	163	26	189	1	0	1	63	17	80	56	15	71	7	2	9	0	0	0	6	1	7
生活科学部	23	99	122	4	21	25	3	20	23	1	1	2	17	74	91	14	63	77	3	11	14	0	0	0	2	4	6
計	823	497	1320	256	82	338	252	81	333	4	1	5	501	380	881	416	315	731	82	61	143	3	4	7	66	35	101

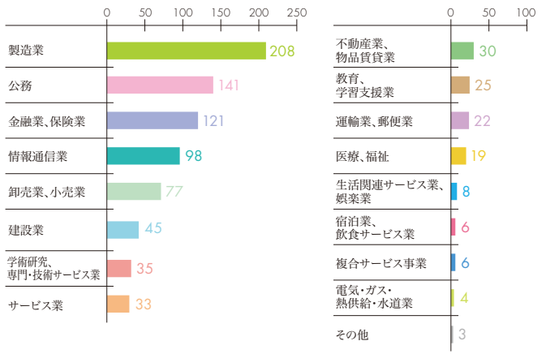
※非常勤講師、資格取得準備中、就職活動継続中などを含む

＞企業規模別就職者数



大企業：資本金10億円以上または株式第1部上場会社
中企業：資本金5千万円以上10億円未満
小企業：資本金5千万円未満

＞業種別就職者数



＞過去5年間就職先ランキング(学部)

	就職先名	'14	'15	'16	'17	'18	総計
1	大阪市	11	16	8	12	15	62
2	大阪府	8	7	11	9	10	45
3	三井住友銀行	6	14	10	9	4	43
4	大阪府教育委員会	9	13	8	5	4	39
5	堺市	6	9	10	9	3	37
6	日本生命保険	9	10	5	5	6	35
6	三菱UFJ銀行	8	11	9	2	5	35
8	りそなホールディングス	9	9	6	7	2	33
9	神戸市	8	9	6	6	3	32
9	奈良県	5	7	9	4	7	32

	就職先名	'14	'15	'16	'17	'18	総計
11	大阪国税局	6	5	9	5	6	31
12	パナソニック	3	9	5	7	6	30
12	みずほフィナンシャルグループ	3	9	6	9	3	30
14	トヨタ自動車	6	7	5	7	4	29
15	南都銀行	6	1	9	6	3	25
16	住友生命保険	5	4	4	5	4	22
17	京都銀行	6	1	6	3	4	20
17	大同生命保険	8	3	4	4	1	20
19	大阪法務局	1	3	7	6	2	19
19	和歌山県	5	5	5	2	2	19

※医学部を除く

＞過去5年間就職先ランキング(前期博士課程・修士課程)

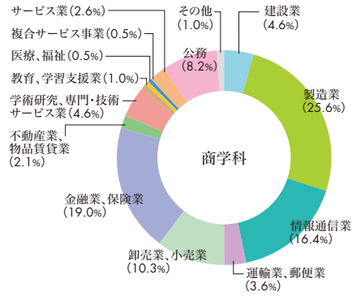
	就職先名	'14	'15	'16	'17	'18	総計
1	パナソニック	6	3	10	5	6	30
2	三菱電機	5	6	4	3	7	25
3	大阪市	4	8	6	5	1	24
4	デンソー	1	4	1	6	8	20
4	日立造船	3	2	6	5	4	20
6	ダイキン工業	2	3	4	4	5	18
7	川崎重工業	2	2	3	5	3	15
7	トヨタ自動車	4	5	5	1	0	15
9	関西電力	4	3	4	2	0	13
9	住友電気工業	3	2	3	3	2	13

	就職先名	'14	'15	'16	'17	'18	総計
11	シャープ	4	2	1	3	2	12
11	住友ゴム工業	3	1	4	2	2	12
13	大林組	2	5	2	1	1	11
13	カネカ	1	1	4	3	2	11
13	西日本旅客鉄道	2	1	2	3	3	11
16	大阪府	2	3	2	1	2	10
16	小林製薬	1	1	4	3	1	10
16	東洋紡	1	1	2	3	3	10
16	本田技研工業	4	0	2	3	1	10
16	村田製作所	0	0	3	1	6	10

※医学研究科・看護学研究科を除く

学部・学科別就職状況

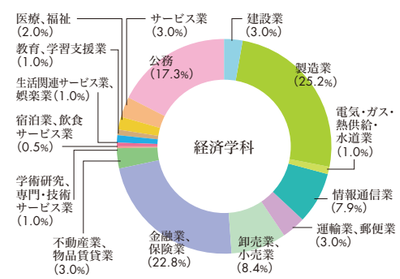
商学部



主な就職先

・旭化成	・クラレ	・日本テレビ放送網	・村田製作所	・富士フイルム
・キヤノン	・住友生命保険	・三井住友海上火災保険	・森永乳業	・ユニチカ
・花王	・デンソー	・三井住友信託銀行	・パナソニック	・大阪府庁
・クボタ	・凸版印刷	・三菱UFJ銀行	・ピアス	・大阪国税局

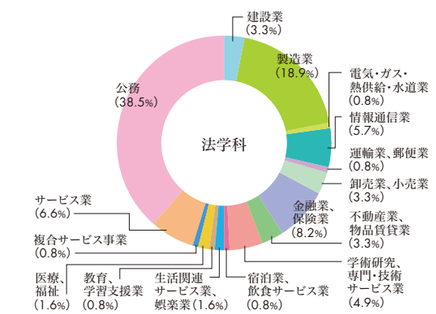
経済学部



主な就職先

・IHI	・TOTO	・阪急阪神ホールディングスグループ	・住友化学	・野村證券
・オービック	・トヨタ自動車	・阪和興業	・森永乳業	・LIXIL
・カシオ計算機	・みずほフィナンシャルグループ	・三井住友銀行	・西日本旅客鉄道	・大阪市役所
・カネカ	・ヤンマー	・三菱電機	・日立製作所	・警察庁

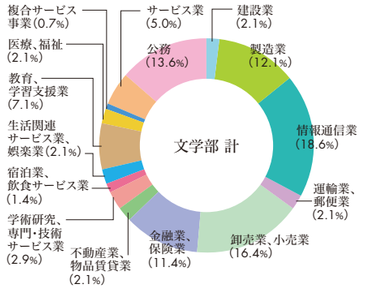
法学部

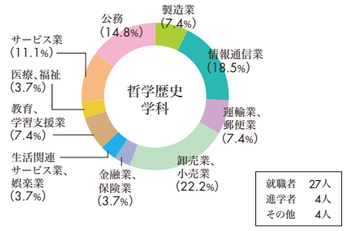


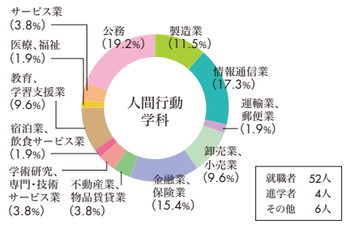
主な就職先

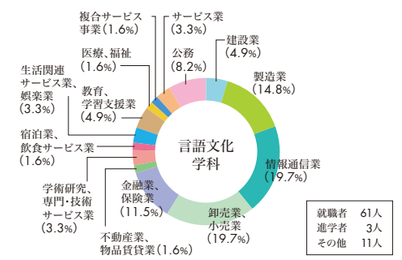
・コニカミノルタ	・住友生命保険	・日本触媒	・大阪地方裁判所	・神戸家庭裁判所
・小松製作所	・大成建設	・日本生命保険	・大阪入国管理局	・神戸市役所
・住友電気工業	・トヨタ自動車	・不二製油	・大阪法務局	・奈良県庁
・JFE商事	・西日本高速道路	・大阪税関	・近畿経済産業局	・兵庫県庁

文学部





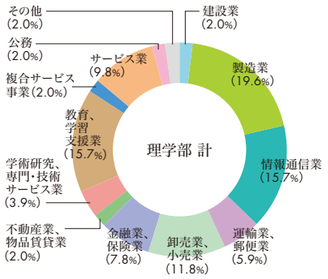


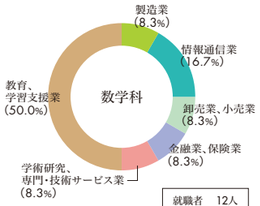


主な就職先

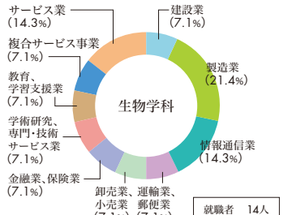
・SMBC日興証券	・大日本印刷	・日本食品分析センター	・明治安田生命保険	・大阪労働局
・関西みらい銀行	・南海電気鉄道	・阪急阪神百貨店	・楽天	・門真市教育委員会
・住友林業	・ニッタ	・阪神高速道路	・大阪地方裁判所	・堺市役所
・損害保険ジャパン日本興亜	・日東電工	・日立造船	・大阪府教育委員会	・内閣官房

理学部

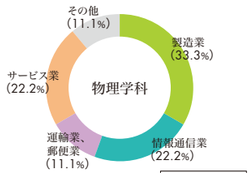




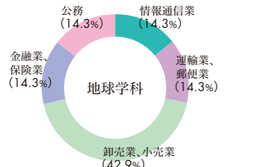
就職者 12人
進学者 5人
その他 2人



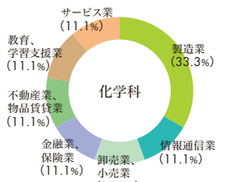
就職者 14人
進学者 17人
その他 2人



就職者 9人
進学者 22人
その他 2人



就職者 7人
進学者 14人
その他 2人



就職者 9人
進学者 34人
その他 1人

理学部の主な就職先

・旭化成ホームズ	・倉敷紡績	・ダイハツ工業	・日立システムズ	・三菱自動車工業
・エクセディ	・セイコーエプソン	・東京海上日動火災保険	・毎日放送	・西日本旅客鉄道
・NTTコミュニケーションズ	・豊田通商	・バスコ	・明治	・日立化成
・小野薬品工業	・ダイキン工業	・レンゴー	・三井住友銀行	・大阪府教育委員会

理学研究科の主な就職先

・アジア航測	・興和	・住友ゴム工業	・ニッタ	・三菱重工業
・ADEKA	・JNC	・東洋紡	・日東電工	・古河電気工業
・カネカ	・倉敷紡績	・トクヤマ	・日本触媒	・村田製作所
・関西ペイント	・ダイハツ工業	・TOYO TIRE	・日本たばこ産業	・ユニチカ

医学部医学科

本学附属病院	30
他大学附属病院	1
他病院	57
進学	0
その他	3
計	91

※医学科卒業生の多くは臨床研修医として、
臨床研修指定病院（本学附属病院含む）で2年間研修を行う。

医師国家試験（90名中88名合格） 97.8%

（2018年度卒業生実績）

医学部看護学科

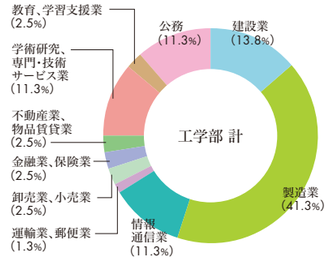
看護師	本学附属病院	21
	他病院	26
保健師		6
その他		2
進学	大学院修士	1
	助産師学校	1
計		57

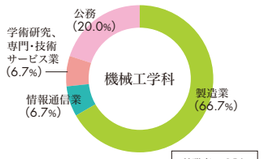
看護師国家試験 98.2%

保健師国家試験 95.0%

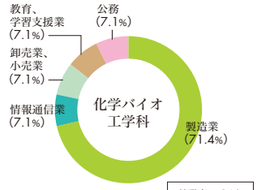
（2018年度卒業生実績）

工学部

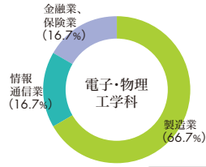




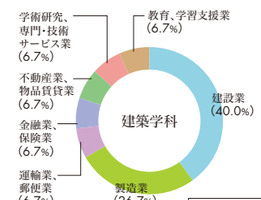
就職者 15人
進学者 38人
その他 0人



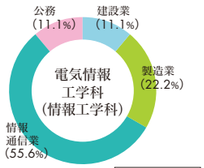
就職者 14人
進学者 45人
その他 0人



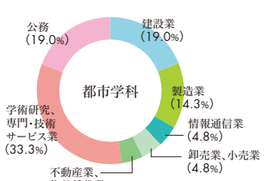
就職者 6人
進学者 32人
その他 4人



就職者 15人
進学者 12人
その他 1人



就職者 9人
進学者 35人
その他 2人



就職者 21人
進学者 28人
その他 0人

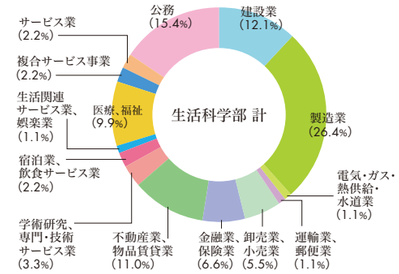
工学部の主な就職先

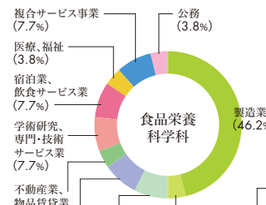
・大林組	・京セラ	・中央復建コンサルタンツ	・パナソニック	・村田製作所
・川崎重工業	・クボタ	・東洋紡	・日立製作所	・ヤンマー
・関西エアポート	・倉敷紡績	・都市再生機構	・マツダ	・堺市役所
・キーエンス	・ダイハツ工業	・阪神高速道路	・デンソー	・大阪市役所

工学研究科の主な就職先

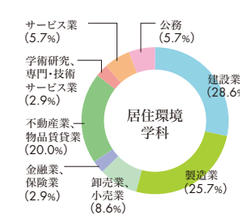
・旭化成	・キヤノン	・資生堂	・日本触媒	・本田技研工業
・味の素AGF	・クラレ	・積水化学工業	・阪神高速道路	・日産自動車
・オムロン	・小林製薬	・帝人	・三菱電機	・ローム
・京セラ	・塩野義製薬	・西日本旅客鉄道	・堀場製作所	・国土交通省

生活科学部

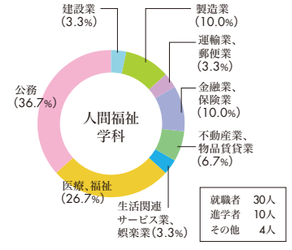




就職者 26人
進学者 6人
その他 1人



就職者 35人
進学者 9人
その他 1人



就職者 30人
進学者 10人
その他 4人

生活科学部の主な就職先

・オリバー	・ダイキン工業	・日本食品分析センター	・ロッテ
・近畿日本鉄道	・大和ハウス工業	・パナソニックホームズ	・山崎製パン
・近鉄不動産	・TOTO	・阪急阪神不動産	・大阪家庭裁判所
・クボタ	・都市再生機構	・森永製菓	・大阪市役所
・積水ハウス	・日清食品ホールディングス	・LIXIL	・大阪府庁

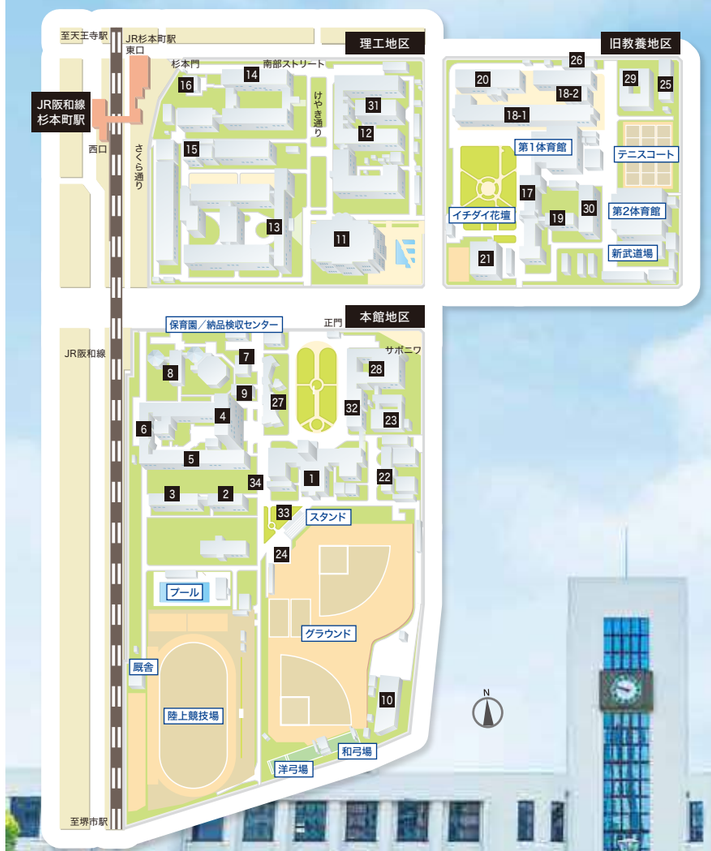
生活科学研究科の主な就職先

・全国健康保険協会	・竹中工務店	・中西金属工業	・フジッコ	・丸大食品
・ダイハツ工業	・大同薬品工業	・日本食品分析センター	・不二製油	・明星食品

OSAKA CITY UNIVERSITY
Campus Map

SUGIMOTO Campus
杉本キャンパス

広大な敷地に7つの学部と大学院が集まる活気あふれるキャンパス。
大学図書館などの機能を担う学術情報総合センターをはじめ、人工光合成研究センターなどの
多彩な研究施設や設備を完備。高度で豊かな学びの機会を提供します。



1 1号館
2 商学部棟
3 経済学部棟
4 法学部棟
5 文学部棟
6 経済研究所棟
・証券研究センター
・人権問題研究センター
・創造都市研究科
・都市経営研究科
7 都市研究プラザ
8 田中記念館
9 保健管理センター
10 河海工学実験場
11 学術情報総合センター
12 理学部棟
・数学研究所
・南部陽一郎物理学研究所
13 工学部棟
14 生活科学部棟
15 工作技術センター
16 生活科学部棟別館
・心理臨床室
17 2号館
・都市健康・スポーツ研究センター
・複合先端研究機構
18-1 全学共通教育棟
18-2 OCUラーニングセンター（学修支援推進室）
・Global Village
19 4号館
20 基礎教育実験棟
21 第1学生ホール
22 第2学生ホール
23 第3学生ホール
24 スポーツハウス
25 ゲストハウス
26 インキュベータ
27 高原記念館
・地域連携センター
28 学生サポートセンター
29 共通研究棟
30 人工光合成研究センター
31 理系共通実験棟
32 本部棟
33 戦没学友の碑
34 五代友厚像

都市型総合大学の教育拠点

全学共通教育棟

全学共通教育棟は、知の高度化、情報化に対応した全学共通教育が展開できるよう、マルチメディアを利用した教育設備を備えた施設です。また、自習や学生同士でのグループディスカッション用に自習室・交流談話室を設け、学生にとって快適な教育環境を整えています。具体的には、少人数体制の授業から300人程度の学生が受けることのできる授業まで、幅広くさまざまな授業形態に応じた大・中・小講義室が設置されています。

＞ 外国語特別演習室

語学教育を目的とした教室で、全学共通教育棟の4階に5室設置されています。CALLシステムやAV機器を取りそろえ、学習者用パソコンと教師用パソコンをネットワークで接続し、インターネットを利用した語学の授業などが行われています。

＞ 図形科学演習室

3次元の立体図形を正しく2次元の図に描き表すための技術を学ぶため、製図道具を用いて手描きで作図する図形科学教育を行うことを目的とした演習室です。建築や都市に関する製図を行う授業なども行われています。

感性を拓く
精選された149の実験テーマ

基礎教育実験棟

基礎教育実験棟では、主として理科系基礎教育科目の実験を提供しています。また、文系学生のための実験科目「体験で知る科学と技術」も開講しています。

＞ 化学実験室

「一人ひとりに安全を 一人ひとりの安全がみんなの安全に」を合い言葉に、2つの大実験室（実験台数92台、66台）で学生は1人1台の実験台を使用し、陽イオンの定性分析や合成実験などを行い、化学実験の基礎を習得します。実験の初めに安全教育を実施したり、有害化学物質の取り扱いをドラフトチャンバー（局所排気装置）内で行うことで、実験中の安全を確保しています。紫外可視分光光度計や赤外分光光度計などの分光装置が配置された測定実験室では、光（電磁波）を利用してミクロな分子の構造を調べる先端測定技術の基礎を学ぶこともできます。

＞ 物理学実験室

1階、2階、5階に大小合わせて約20の物理学実験室があります。光を扱うための暗室実験室や混信を防ぐための特別な電磁波シールド室なども備えています。各実験室には実験テーマごとにさまざまな実験装置が配置され、実験テーマは実験棟屋上で行う光速の測定など20以上あります。力学・熱力学・光学・電磁気学、さらには、物性・波動・エレクトロニクス・原子物理学といった幅広い分野の実験ができます。実験は2人1組で行い、実験を通して基礎的な物理現象とその法則性について理解を深めます。

＞ 生物学実験室

分類学・分子生物学・発生学・生態学・生理学など多岐にわたり、生命と自然を基礎から学ぶ実験・実習を行います。基本的な生命現象を観察し、結果を考察することにより生命科学の基礎を身に付けます。インキュベーター、マイクロピペット、マイクロメーター、1人1台の生物顕微鏡と実体顕微鏡などの操作も習得します。

＞ 地球学実験室

化石・鉱物・岩石などの鑑定や分析、大型水槽実験での地層のでき方、水の地球化学分析、パソコンによるデジタル地形と3次元可視化、地形の立体視と活断層の認定などといった幅広い分野の実験ができます。実験は主にグループで行い、実験を通して基礎的な地質現象とその法則性について理解を深めます。

次世代型の循環可能なエネルギーの実用化に向けて

人工光合成研究センター

Research Center for Artificial Photosynthesis (ReCAP)

最先端の光合成研究成果をもとに、次世代型クリーンエネルギーの開発を目指し、技術開発と実用化を加速するための施設として、人工光合成研究センターをオープンしました。当センターでは、産学官連携による企業と大学との共同研究を推進しており、持続可能なエネルギー循環型社会構築のための研究開発に取り組んでいます。また2016年度より文部科学省「共同利用・共同研究拠点」の認定を受け、国内外の研究者と共同で光合成・人工光合成研究を推進しています。

災害知の社会実装によるいのちを守る都市づくりを目指して

都市防災教育研究センター

Center of Education and Research for Disaster management (CERD)

都市大阪を基盤として、防災教育・防災研究を推進するため、2015年3月に都市防災教育研究センターを開設しました。当センターでは、2011年の東日本大震災後に始動した全学的な組織である都市防災研究プロジェクトの成果を踏まえ、災害リスクの評価、災害対応力の向上、社会実装に関する研究を推進するとともに、防災教育および防災リーダーの育成も行います。国内外の防災関連機関と連携し、巨大複合災害に向けて、最新の災害研究、情報技術、都市科学を踏まえた新しいコミュニティ防災システムの確立を目指します。

専門に特化した多彩な施設

研究施設・附属施設

都市健康・スポーツ研究センター

Research Center for Urban Health and Sports

都市に住まう人々が、健康的でより活動的なライフスタイルの確立と向上を目指すための基礎的研究と応用的研究を行っています。また、全学共通教育として講義とスポーツ実習を提供するとともに、さまざまな健康・スポーツ関連事業への支援、産学共同事業などの社会（地域）貢献にも取り組んでいます。

人権問題研究センター

Research Center for Human Rights

1973年に設立した、日本の大学では初めての人権問題研究機関です。女性差別や部落差別、民族差別をはじめとするさまざまな人権問題について研究しており、「ジェンダーと現代社会」や「現代の部落問題」、「地球市民と人権」などの科目を全学共通教育に提供。センター内には人権に関する図書室もあります。

都市研究プラザ

Urban Research Plaza

本学の都市研究の伝統を受け継ぎ、都市の再生と先端的都市論の構築を目指して活動しています。所属する研究者は大学と都市の現場を行き来し、研究やまちづくりに取り組んでいます。また、国内3か所、海外7か所の拠点をベースに学際的共同研究、地域貢献、国際交流を推進するとともに、豊富な研究資料をそろえた「都市文庫」の整備、若手人材育成、国際学術雑誌の発行も手がけています。

大学教育研究センター

Center for Research and Development of Higher Education

専任・兼任研究員が大学教育に関する研究、調査、企画、提案および提言（調査・研究部門）、大学教育に係る点検、評価および改善に関する活動（評価部門）を進めています。また教育方法の開発、教育・学修支援及び全学的FD推進の支援並びに各学部研究科等へのFD支援（教学・FD部門）などもセンターの重要な役割です。

英語教育開発センター

English Education Development Center

全学共通教育における英語教育を統括し、学生に求められる英語運用能力を育むため、カリキュラムの作成・改善を行っています。また、自主的に学びたい学生をサポートするために、OCUラーニングセンターで英語学習支援を提供するほか、「English Café」（自習室）をGlobal Village内に開設し、「English Café Talk」などさまざまなイベントを実施しています。

その他の研究施設

- 文化交流センター
- 情報基盤センター
- 国際センター
- 地域連携センター
- 数学研究所
- 南部陽一郎物理学研究所
- URAセンター
- 複合先端研究機構
- 証券研究センター
- 杉本地区RI施設
- 工作技術センター
- 大学史資料室

● 田中記念館

● 高原記念館

学術・文化交流の創造拠点

学術情報総合センター

約250万冊の蔵書を有する国内最大規模の大学図書館、情報処理・ネットワークの中核を担う大学情報化の拠点、情報教育の場という3つの機能を統合した大阪市立大学のシンボルともいえる施設です。充実した教育・研究環境を備えた創造空間として、また、学術・文化交流の情報発信拠点として、年間約50万人に利用されています。阿倍野キャンパスには、学術情報総合センター医学分館があります。

ラーニングコモンズ

メインカウンター

Point1 高度情報化時代に対応したネットワークシステム

キャンパスLANの拠点として高速のネットワークを整備。国内外への情報発信が容易に行え、最先端の研究を支えています。また、情報教育実習室や情報教育PCルームなどには多数のPC設備やさまざまな分野のソフトウェアを設置。IT環境を充実させて、情報リテラシー教育の実践に生かしています。

PC設置状況 ※2019年10月更新予定

- 情報教育PCルーム 120台
- 情報教育実習室1：30台、2〜4：各50台
- ラーニングコモンズ 20台

Point2 豊富な蔵書、Webサービスなど多彩なサービスで勉強・研究をサポート

図書や雑誌、Web上で自由にアクセスできる電子資料だけでなく、レポート作成やプレゼン練習などに活用できるグループ学習室やラーニングコモンズなど、多様な学生ニーズに対応した施設も充実。
さまざまな情報や知識との出会い、人との交流を通して、知の探求が深まります。

Point3 学びから憩いまで多種多様な施設

1F 展示コーナー

展示コーナーでは、本学の歴史に関する大学史資料室の企画展示を中心に、本学所蔵の貴重書などの特色ある資料展示も行っています。

屋上 学情庭園Asteria（アステリア）

テーブル型の大きな花壇と椅子があり、季節の緑と眺望を楽しみながら読書や歓談などしていただけます（園内は無線LAN接続可能です）。

その他、学生生活を豊かにするさまざまな施設を完備

5F

- AV資料視聴ルーム：名作映画や音楽などを鑑賞できる
- 英語学習コーナー：英語をはじめ語学学習教材が充実
- 語学学習ルーム：ブース席で発音練習もできる

ABENO Campus

阿倍野キャンパス

JR・地下鉄「天王寺」駅・近鉄「大阪阿部野橋」駅から徒歩約10分の好立地に位置する、
医学・医療・看護学に特化した阿倍野キャンパス。
附属病院も隣接しており、地域医療の中核的かつ高度な
総合医療機関としての役割も果たしています。

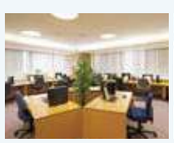
医学部附属病院

地域医療における中核的かつ高度な総合医療機関としての役割を果たし、患者さんの医療ニーズに応えるため、先端的な医療設備・機器の充実に努めています。厚生労働省、大阪府・大阪市等からの各種指定・認定に基づき、高度な医療の提供に努めています。また、2018年4月には厚生労働省からがんゲノム医療連携病院の指定を受け、ゲノム医療センターを新たに設置するなど、最先端の医療にも積極的に取り組んでいます。

学術情報総合センター医学分館 1

あべのメディックス8・9階

医学・医療・看護学関係の資料を中心に、約18万冊の図書・雑誌・視聴覚教材を利用できます。静かな閲覧席・閲覧個室に加え、ディスカッションやグループ学習に利用できるスペース、「i-コモ（ラーニングコモンズ）」を設けています。また、多様な電子情報の閲覧や国試対策の学習にも使えるパソコン、インターネット環境も整っています。



スキルスシミュレーションセンター（SSC） 2

あべのメディックス8階

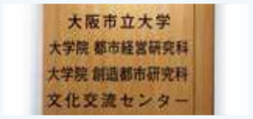
各種シミュレーション器材をそろえた、医療現場等で役立つさまざまな技術をトレーニングすることができる施設です。

医学部シンボルマーク

梅田サテライトキャンパス

〒530-0001
大阪市北区梅田1-2-2-600
（大阪駅前第2ビル6階）

- JR東西線「北新地」駅下車、徒歩約3分
- JR「大阪」駅下車、徒歩約10分
- 地下鉄四つ橋線「西梅田」駅下車、徒歩約5分
- 地下鉄御堂筋線「梅田」駅下車、徒歩約10分



その他の施設

あべのハルカスやグランフロント大阪など話題のエリアに、多彩な施設を展開。遺伝子学や健康科学などの各種教育研究機関やサテライトキャンパスを整備しています。学生だけでなく広く一般にも開放している施設があります。

理学部附属植物園

1950年に設立され、さまざまな植物を遺伝子資源として収集・育成し、展示・公開しています。ここには、日本の代表的な森林が樹林型として復元されています。植物園は、教育と研究に幅広く活用されるとともに、自然学習や生涯学習の拠点にもなっています。市民講座や公開研究会も行っています。また、近年では絶滅危惧植物の収集・育成にも力を入れており、その実績が認められ、2018年12月には植物園では全国初となる認定希少種保全植物園の認定を環境省より受けました。今後は地域の方々との連携を一層強化しつつ、さらに域外保全の取り組みを進めます。

〒576-0004
大阪府交野市私市2000

- 京阪交野線「私市（きさいち）」駅下車、徒歩約6分
- JR学研都市線「河内磐船」駅下車、徒歩約20分

健康科学イノベーションセンター（CHSI）

2013年7月に、グランフロント大阪「ナレッジキャピタル」内に健康科学の研究拠点として開設されました。「みんなで“拓く”健康科学イノベーションの“ベースキャンプ”」をスローガンに、産・学・官・医・消費者が一緒に連携できる健康科学推進拠点を創ることを目標にしています。

〒530-0011
大阪市北区大深町3-1
グランフロント大阪北館タワーC 9階

- JR「大阪」駅下車、徒歩約7分
- 地下鉄御堂筋線「梅田」駅下車、徒歩約10分
- 阪急「梅田」駅下車、徒歩約10分

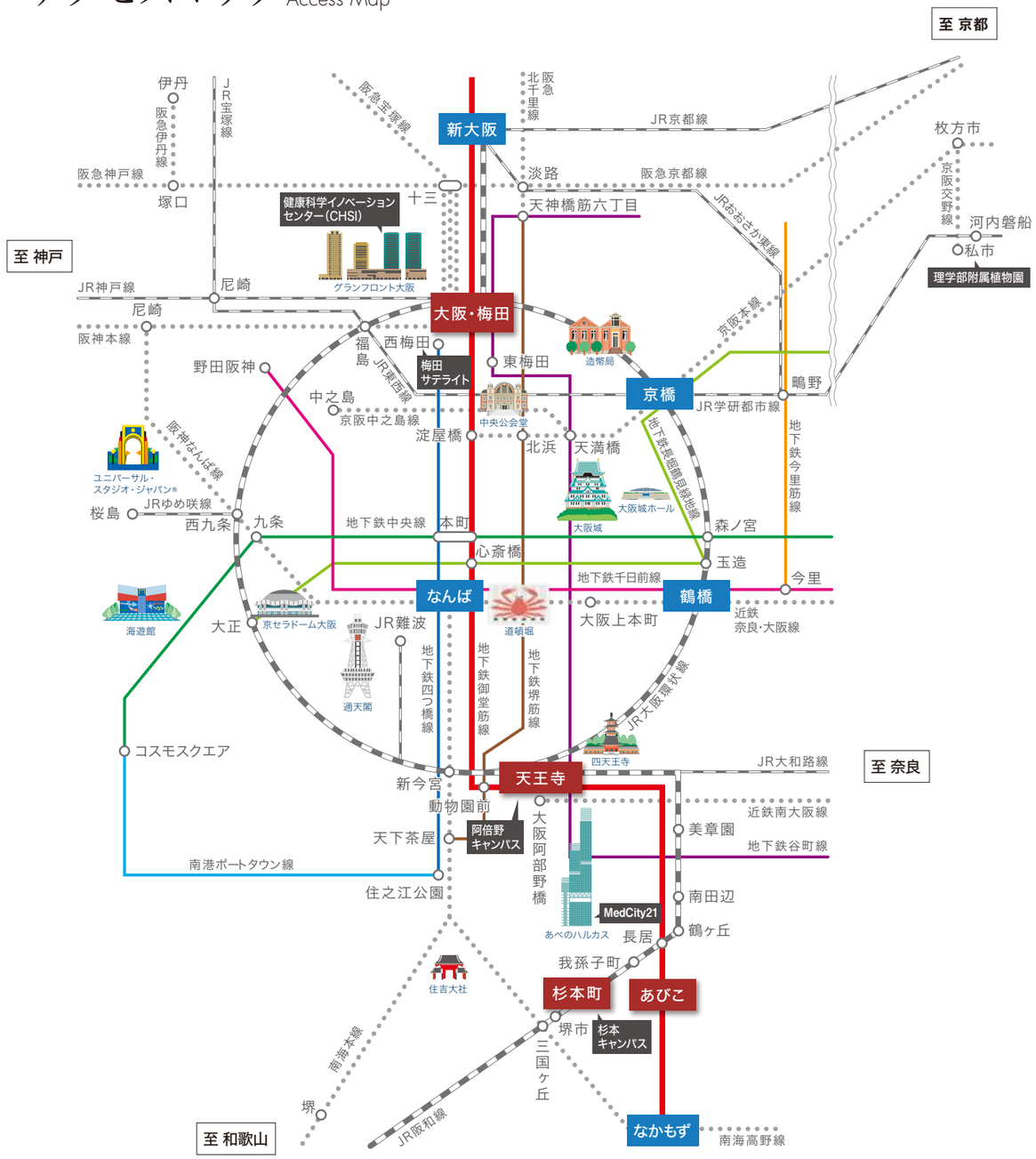
医学部附属病院先端予防医療部附属クリニック
MedCity21

2014年4月に、公立大学法人として全国で初めて健診事業を行う施設を「あべのハルカス」21階に開設しました。高い専門性を生かして疾病の早期発見・早期治療の実践に取り組みます。また同時に、蓄積した健診データ等を基に新たな診断方法や治療法を研究開発することで、予防医療の推進に寄与することを目指しています。

〒545-6090
大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス21階

- JR・地下鉄「天王寺」駅、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅すぐ

アクセスマップ Access Map

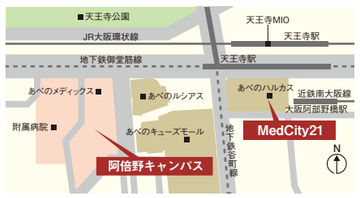


■ 杉本キャンパス

〒558-8585
大阪市住吉区杉本3-3-138

- JR阪和線「杉本町(大阪市立大学前)」駅下車、東口からすぐ
- 地下鉄御堂筋線「あびこ」駅下車、4号出口より南西へ徒歩約15分

■ 阿倍野キャンパス



〒545-8585
大阪市阿倍野区旭町1-4-3

- JR・地下鉄「天王寺」駅、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅より西へ徒歩約10分

入試情報 Admission Information

▶ 2020年度学部入試

入試形態	実施学部	各種募集要項配付時期(予定)
一般入試	全学部	2019年7月(選抜要項)
専門学科・総合学科卒業生入試	商学部	2019年7月
推薦入試	商学部・理学部・工学部・医学部・生活科学部	2019年7月
AO入試	文学部・生活科学部(国際バカロレア入試)	2019年6月
	医学部医学科	2019年7月
社会人入試	経済学部・医学部看護学科<学士・社会人>	2019年7月
帰国生徒入試	文学部	2019年6月
第3年次編入学	法学部・文学部・理学部(化学科)	2019年7月(理学部 2019年4月)
学部私費外国人留学生入試	医学部を除く全学部	2019年6月(選抜要項)※

※選抜要項とは、入学試験に関する基本的な事項(試験日程、募集人員、入試科目など)が記載された冊子であり、募集要項(願書)ではありません。

学部一般入試および学部私費外国人留学生入試については、インターネットでの出願となります。両試験の学生募集要項はWebサイトに掲載予定です(紙媒体での配付は行っておりません)。

- 学部一般入試:
  2019年11月頃予定
- 学部私費外国人留学生入試:
  2019年10月頃予定

なお、インターネットでの出願となりますが、出願書類等の郵送は必要となりますので、ご注意ください。

▶ 資料請求方法

各種募集要項の請求方法

1 大学のWebサイトから請求する場合

大学のWebサイト(https://www.osaka-cu.ac.jp/ja)から直接、テレメールまたは大学情報センター「モバっちょ」による請求ができます。
詳しくは本学のWebサイトをご覧ください。

テレメール
テレメールカスタマーセンター
電話:050-8601-0102
(9:30~18:00)

モバっちょ
大学情報センター株式会社
モバっちょカスタマーセンター
電話:050-3540-5005
(平日10:00~18:00)

※受付開始時期、送料等については、業者や請求方法により異なる場合がありますので、詳細は各Webサイトをご覧ください。なお、資料請求の種類によっては、対応していない場合もありますので、ご注意ください。

2 郵便で本学に請求する場合

- 封筒の表に赤色で『○○学部(または研究科)△△入試学生募集要項請求』と記入し、裏には、差出人の郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入
- 封筒の表に赤色で「ゆうメール」と記入し、300円分の切手を貼り、受取人の郵便番号・住所・氏名を明記した返信用封筒(角形2号/24.0cm×33.2cm)を同封
  ※郵便料金が改定された場合は、改定後の料金(ゆうメール料金500g以内)分の切手を貼付してください。
- 請求先　〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138　大阪市立大学大学運営部入試課

▶ 入学検定料・入学料・授業料

2019年度時点のものであり、次年度以降変更の可能性がありますので募集要項にてご確認ください。
なお、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。

区分	入学検定料	入学料		授業料
		大阪市民およびその子※	その他の者	
学部	30,000円	222,000円	382,000円	1年 535,800円
大学院(法科大学院を除く)				
法科大学院		免除		

※「大阪市民およびその子」の対象者は次のとおりです。
1.入学者本人が入学日の1年以上前から引き続き大阪市内に住所を有する者。
2.上記1に該当しないが、入学者本人と同一戸籍にある父または母が入学日の1年以上前から引き続き大阪市内に住所を有する者。

▶ 入試に関するよくあるご質問

Q.1 過去の入試問題は閲覧できますか？

A.1 学部一般入試の過去の入試問題の閲覧は行っておりません。学部の特別入試と大学院入試については学生サポートセンター各学部教務担当で閲覧・コピーが可能です。各学部教務担当へお問い合わせください。

Q.2 学部一般入試、学部私費外国人留学生入試の願書等の配付は行っていますか？

A.2 紙媒体での「学生募集要項」の配付は行っておりませんので、大阪市立大学Webサイトに掲載されているものを必要に応じて印刷する等してご利用ください。

2020年、大阪市立大学は創立140周年を迎えます。

社会のさまざまな重要なシーンで活躍する、大阪市立大学の卒業生。
その存在は本学の大きな強みであり、誇りです。
2019年に完成した本ビジュアルには、学生の皆さんにも愛校心を持ち、
先輩方を目指してほしいという思いが込められています。